

平成21年度

# スポーツ環境専門委員会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2009

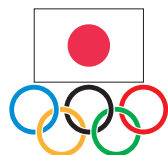


**JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE**  
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

平成21年度  
スポーツ環境専門委員会  
活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



# スポーツと環境についての啓発活動

## Japanese Olympic Committee

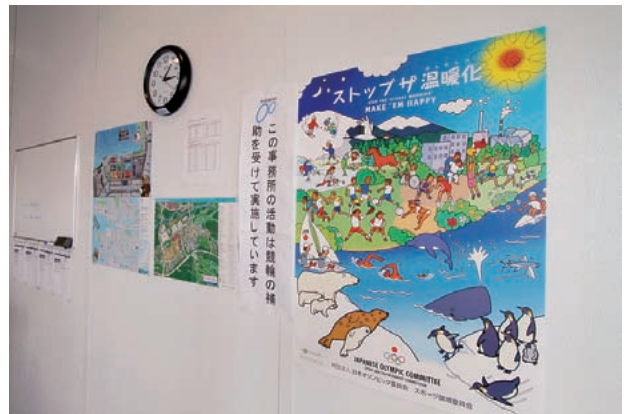
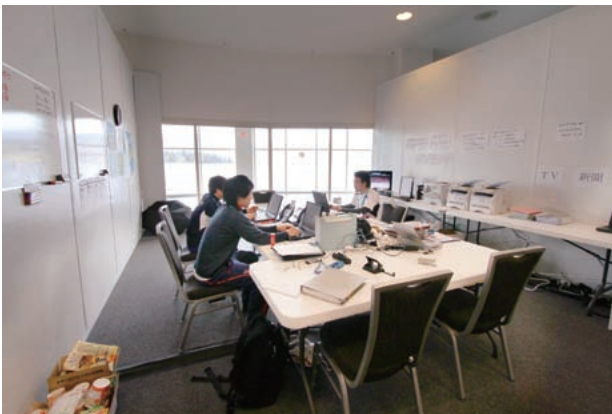
### ●第21回オリンピック冬季競技大会(2010 /バンクーバー)

日本代表選手団結団式・壮行会

会期：2010年1月18日 /会場：ザ・プリンスパークタワー東京



### ●バンクーバーオリンピックメインプレスセンター



### ●第25回ユニバーシアード競技大会(2009 /ベオグラード)

日本代表選手団結団式

会期：2009年6月26日 /会場：グランドプリンスホテル新高輪



フェンシング女子選手



●第5回東アジア競技大会(2009 / 香港)

日本代表選手団結団式

会期：2009年12月1日 / 会場：グランドプリンスホテル高輪



●オリンピックデー記念式典 / オリンピックコンサート2009

会期：2009年6月13日 / 会場：NHKホール / 参加人数：約3,200名



●2009スポーツ祭り

会期：2009年10月12日(月・祝/体育の日)





● オリンピックデーラン2009

会期：大阪大会、2009年6月7日／会場：大阪府大阪市長居球技場及び長居公園



会期：青森大会、2009年6月28日／会場：青森県青森市新青森総合運動公園



会期：喜多方大会、2009年7月5日／会場：福島県喜多方市喜多方市押切川公園スポーツ広場



会期：士別大会、2009年8月23日／会場：北海道士別市士別市陸上競技場



会期：神戸大会、2009年10月25日／会場：兵庫県神戸市神戸総合運動公園ユニバー記念競技場



会期：長野大会、2009年11月1日／会場：長野県長野市南長野運動公園





会期：ひたちなか大会、2009年11月22日／会場：茨城県ひたちなか市ひたちなか市総合運動公園



会期：和歌山大会、2010年1月10日／会場：和歌山県和歌山市紀三井寺公園



会期：オリンピックデーラン2009開催一覧

開催日	大会名	のべ人数
2009年6月7日(日)	大阪大会	6,668
2009年6月28日(日)	青森大会	1,604
2009年7月5日(日)	喜多方大会	968
2009年8月23日(日)	士別大会	1,106
2009年10月25日(日)	神戸大会	1,732
2009年11月1日(日)	長野大会	2,241
2009年11月22日(日)	ひたちなか大会	1,803
2010年1月10日(日)	和歌山大会	2,513
合計		18,635



●第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー(福岡市)

会期：2009年9月4日／会場：福岡市役所／参加人数：約250名



板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長



吉田宏 福岡市長



水野正人 IOC スポーツ環境委員



左から、塚原光男、岩崎恭子 JOC スポーツ環境アンバサダー



福岡市環境局環境政策部の井上文博部長



上和田茂 九州産業大学学部長



木部正俊 (財)福岡市体育協会専務理事



下田功 アビスパ福岡(株)ホームタウン推進部部長



●第6回スポーツと環境担当者会議

会期：2009年11月20日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター／参加人数：約90名



板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長



小森繁 地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室室長



佐野和夫 (財)日本水泳連盟会長



水野正人 IOCスポーツ環境委員(JOC副会長)



神田功 (特非)日本芝草研究開発機構事務局長



三好章夫氏 日本特殊塗料(株)



加藤潤 (社)日本テニス事業協会理事/事務局長



石井彰 横浜市環境創造局環境科学研究所課長補佐



●IOCスポーツと環境セミナー(サモア)2009年7月24～26日



ニコ・パラモ サモアオリンピック委員会 専務理事



テュイラベア・サイレレ・マリエレカオイ首相



水野正人 IOC スポーツ環境委員



# (財)日本陸上競技連盟

## Japan Association of Athletics Federations

### ●長野マラソン

会期：2009年4月18日～19日／会場：長野運動公園



### ●日本陸上競技選手権大会

会期：2009年6月25日～28日／会場：広島広域公園



### ●全国小学生陸上交流大会

会期：2009年8月28日～29日／会場：日産スタジアム



### ●ジュニアオリンピック競技大会

会期：2009年10月23日～25日／会場：日産スタジアム



### ●キッズアスリートプロジェクト広島会場

会期：2009年4月30日／会場：安芸郡海田町立海田小学校  
参加人数：457名



朝原宣治選手他

### ●キッズアスリートプロジェクト高知会場

会期：2009年11月20日／会場：高知市立横浜新町小学校  
参加人数：537名



江里口匡史選手他



●東京マラソンEXPO

会期：2010年2月25日～27日／会場：東京国際展示場



●全国都道府県女子駅伝

会期：2010年1月17日  
会場：西京極陸上競技場



(左から) 河野日本陸連会長、細見京都市副市長、齊藤京都新聞社代表取締役社長、榎岡京都陸協会長

●全国都道府県男子駅伝

会期：2010年1月24日  
会場：コカ・コーラウエスト広島総合グラウンド



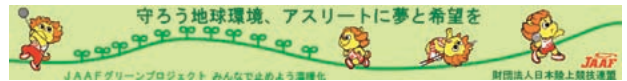
(左から) 山本中国新聞社社長、河野日本陸連会長、湯崎広島県知事、亀井広島陸協会長

●横浜国際女子マラソン

会期：2009年11月15日／会場：山下公園



●その他



横断幕



花の種

### ●第1回全国水泳チーム・クラブ環境活動コンテスト



6月4日のジャパンオープンにて表彰式を行った。応募団体は約30団体で、神奈川県の水泳教室がグランプリに輝いた。



### ●松岡修造JOCスポーツ環境アンバサダーによる、環境活動アピール



世界水泳ローマ代表選手壮行会において、ゲストの松岡修造氏による環境活動アピールが行われた。

### ●大会プログラム、機関誌「月刊水泳」による環境広告の掲載



大会プログラム及び機関誌「月刊水泳」にて環境広告ページの挿入。



●オープンウォータースイミング委員会による環境活動の推進



日本水泳連盟の中でも、特に自然に関わる種目であるオープンウォータースイミング競技にて、「地球を泳ごう」「地球で泳ごう」をスローガンに参加者とともに海のゴミ拾いなどに努めた。

●競技会運営における紙の削減対策

①

リザルト用紙による紙の削減は、  
約 **189万** 枚/年

その他の対策による紙の削減は、  
約 **66,100** 枚/年

合計すると、  
約 **195万6,100** 枚/年  
の削減が実現しています。

④

2億2,500万枚の削減とは、  
植林木の  
約**17,000本**/年  
に相当し、  
大きなReduceの成果が期待されます。

②

収穫時の植林木の大きさを高さ0m、直径20cmと仮定して計算すると、1本の植林木が約**3,000**枚のA4コピー用紙ができると計算されます。(日本製紙グループ・ホームページより)

つまり**195万6100枚**の削減とは、  
植林木の  
約**150本**/年  
を切らずに済んだという計算になります。

③

将来への展開

日本水泳連盟での1大会の平均削減枚数は、  
約**21万7,350**枚 → 地域大会は約**15万**枚とする  
(年間の削減合計95万6,100枚÷主要9大会)

日本水泳連盟に加盟している7都道府県水泳連盟(協会)が主催する大会は全国で約500大会あり、今後、各地域の大会でも同じような削減を行っていくとすると、  
約**2億2,500万枚**/年  
(約5万枚 × 1,500 大会)  
の削減が見込まれます。

日本水連、エコも地道に

「紙の削減」は、環境保護の観点から、大会運営において重要な課題の一つとして認識されています。特に大会運営に必要不可欠な紙の削減は、大会運営の持続可能性を高めるための重要な取り組みです。

日本水連では、大会運営における紙の削減を推進するために、様々な取り組みを行っています。例えば、大会運営に必要な紙の削減を推進するために、大会運営に必要な紙の削減を推進するために、様々な取り組みを行っています。

日本水連では、大会運営における紙の削減を推進するために、様々な取り組みを行っています。例えば、大会運営に必要な紙の削減を推進するために、大会運営に必要な紙の削減を推進するために、様々な取り組みを行っています。

平成21年11月に行われたJOC環境会議にて、日本水泳連盟の行う「大会運営における紙の削減対策」について発表した。この活動は反響を呼び、平成22年2月17日の朝日新聞にて取り上げられた。



●競技会での環境活動



ゴミ分別の徹底



競技役員のパロシャツを再生材料を使用したエコ素材へ。

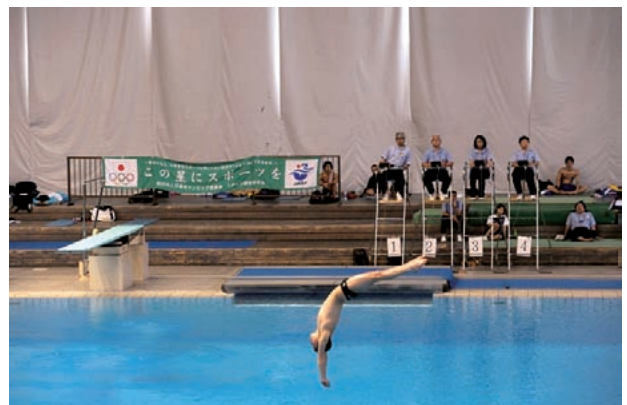
●第85回日本選手権競泳競技

会期：4月16日～19日  
会場：古橋廣之進記念浜松市総合水泳場  
参加人数：1,966名



●第85回日本選手権飛込競技

会期：4月16日～19日  
会場：浜松市総合水泳場  
参加人数：1,075名



●ジャパンマスターズ2009

会期：7月17日～21日／会場：横浜国際プール／参加人数：6,538名





●アジアエージグループ選手権大会

会期：8月7日～13日／会場：東京辰巳国際水泳場他／参加国数：24カ国／参加人数：1,027名



●東京マラソンスイミング

会期：8月20日  
会場：お台場海浜公園周辺  
参加人数：69名



●第54回日本泳法大会

会期：8月22日～23日  
会場：古橋廣之進記念浜松市総合水泳場  
参加人数：530名



●第85回日本学生選手権水泳競技大会

会期：9月3日～6日  
会場：アクアドームくまもと  
参加人数：1,468名



●第26回全国女子水球競技大会

会期：9月25日～27日  
会場：横浜国際プール  
参加人数：108名



# (財)日本サッカー協会

Japan Football Association

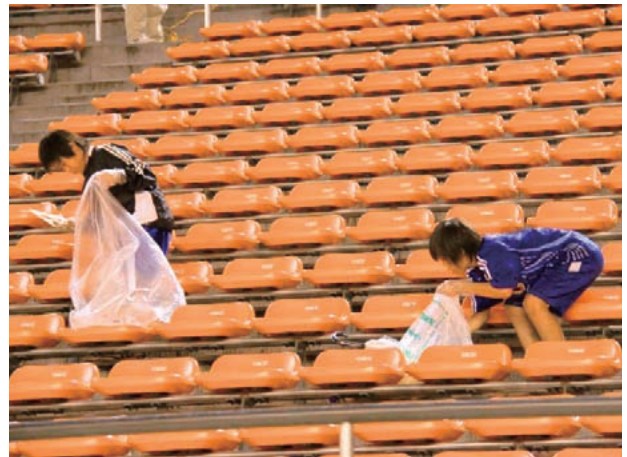
## ●2010FIFAワールドカップ南アフリカ アジア最終予選 日本代表対カタール代表

会期：2009年6月10日／会場：日産スタジアム／参加人数：246名



## ●キリンカップサッカー2009 日本代表 対 ベルギー代表

会期：2009年5月31日／会場：国立競技場／参加人数：238名



## ●手賀の丘幼稚園(千葉県)で犬飼会長と芝生の苗植え 2009年6月23日



## ●国連グローバル・コンパクトへの署名 2009年7月22日





●ヴィッセル神戸 床発電システム実験(サポーターの応援を電気エネルギーへ)

会期：2009年3月7日



●ヴィッセル神戸 ホームスタジアム神戸でのエコプロジェクト(キャップ回収活動等)



●鹿島アントラーズ

みんなで集めた食用油燃料でチームトラックが動く

会期：2009年5月10日



●鹿島アントラーズ

「COOL BIZ OF THE YEAR 2009」贈呈式

会期：2009年11月25日



# (財)全日本スキー連盟

## Ski Association of Japan

### ●I LOVE SNOW エコ・アクション・イベント

会期：2010年1月11日／会場：代々木公園内 野外ステージ及び代々木広場／参加人数：約300名



人工雪を降らせその上で人文字を作り環境保全メッセージを発信



イベントに先立ち池上三紀専務理事が挨拶



参加したファミリー、職場の仲間らがチームを作ってごみ拾いイベント

### ●SAJオリンピックズFun Festa 2010 in NOZAWA

会期：2010年3月28日／会場：長野県 野沢温泉スキー場／参加人数：50組100名の親子



50組の親子でオリンピックとのゲーム大会



選手（皆川賢太郎）とファンとの交流



雪上運動会で雪遊びの楽しさを体験  
雪上運動会には、出演選手も参加（上村愛子）



参加者全員で環境保全メッセージを発信



# (財)日本テニス協会

## Japan Tennis Association

### ●楽天オープン2009 (Rakuten Japan Open Tennis Championships 2009)

会期：10月5日～10月11日  
 会場：有明コロシアム  
 参加人数：選手128名、観客50,875名



環境アンバサダー・松岡氏とともに

### ●トヨタジュニアテニストーナメント2009

会期：4月8日～11日  
 会場：東山公園テニスセンター  
 参加人数：選手134人、観客300名



大会入賞者とともに

### ●DUNLOPジャパンオープンジュニアテニス選手権大会 2009

会期：3月31日～4月5日  
 会場：東山公園テニスセンター  
 参加人数：選手240名、観客500名



### ●第27回全国小学生テニス選手権大会

会期：7月28日～30日(予備日7月31日)  
 会場：第一生命保険相互会社 相模園総合グラウンドテニスコート  
 参加人数：選手102名、観客500名



### ●第36回全国中学生テニス選手権大会

会期：8月18日～24日  
 会場：東山公園テニスセンター  
 参加人数：選手876名、観客300名



●ニッケ全日本テニス選手権84th

会期：11月7日～15日／会場：有明コロシアム／参加人数：選手256名、観客28,467名



ミックスダブルス決勝戦後 日本テニス協会盛田会長・渡辺専務理事 中西大会ディレクターとともに



女子ダブルス決勝戦後 日本テニス協会盛田会長・渡辺専務理事 中西大会ディレクターとともに

●ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権'09 supported by NISSHINBO

会期：8月5日～17日  
会場：靱テニスセンター  
参加人数：選手960名、観客3,000名



組み合わせゼローの上に

●第64回国民体育大会(新潟県)

会期：10月2日～5日  
会場：長岡市営希望が丘テニス場 南魚沼市大原運動公園テニスコート  
参加人数：選手500名、観客1,000名



ゴミ箱分別

●2009 DUNLOP CUP全国選抜ジュニア選手権大会

会期：5月21日～24日  
会場：吉田記念テニス研修センター  
参加人数：選手112名、観客300名



●アディダス・早稲田大学フューチャーズ国際トーナメント

会期：3月22日～28日  
会場：早稲田大学東伏見コート  
参加人数：選手32名、観客500名





●2009 U15全国選抜ジュニア選手権大会(第28回中牟田杯)

会期：10月30日～11月3日／会場：東平尾公園博多の森運動公園／参加人数：選手128名、観客400名



すべての参加選手とともに表彰式にて



(右から) 木下大会アシスタントディレクター、駒田ジュニアフェドカップ監督、および日本テニス協会スポーツ環境委員



女子 入賞者とパーナー

●第71回テイジン全日本ベテランテニス選手権大会

会期：10月7日～16日／会場：東山公園テニスセンター／参加人数：選手1,095名、観客500名



大会参加賞のエコバック



会場内エコバック使用中



# (社)日本ボート協会 Japan Rowing Association

## ●荒川の川浚い(恒例行事となり年々参加者も増加!)

会期：2010年4月29日／会場：荒川(埼玉県戸田市)／参加人数：約60名





# (社)日本ホッケー協会

## Japan Hockey Association

### ●高円宮杯2009男子日本リーグ第2節

会場：三成公園ホッケー場(島根)



観戦風景



出場選手とキッズスクール参加の子供達



横断幕掲揚



ゴミ箱の設置

### ●高円宮杯2009男子日本リーグ第4節

会場：飯能市阿須ホッケー場(埼玉)



飯能市ホッケークラブの選手と観戦の子供達



横断幕掲揚

# (財)日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association

## ●2009ワールドグランドチャンピオンズカップ

会期：2009年11月10日～12日／会場：東京都 東京体育館



立木会長



分別収集（岩満業務推進事業本部長）



グラチャン全日本男子試合



JOC 環境啓発パンフレット配布（入場者）

## ●平成21年度天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

会期：2009年12月17日～20日／会場：東京都 東京体育館



天皇杯・皇后杯大会環境パナー  
(成田強化事業本部長（左）、萩原国内事業本部長（右）)



天皇杯・皇后杯 試合



●JOCジュニアオリンピックカップ

会期：2009年12月25日～28日／会場：大阪府 大阪府立体育館ほか



ジュニアオリンピック女子優勝チーム（長崎県）



JOC スポーツ環境アンバサダー（大林素子）

●海辺を守ろう!運動(日本ビーチバレー連盟・日本ビーチ文化振興協会)第4回ビーチライフinお台場

会期：2009年5月5日／会場：東京都 お台場海浜公園



海辺を守ろう ビーチアスリートの海辺のゴミ拾い



海辺を守ろう 人気アスリートの活動宣言（中央ステージ）

●第30回6人制バレーボール選抜男女リーグ

「地域リーグ」プレーオフ

会期：2010年3月13日～14日

会場：大阪府 新日鐵堺体育館



「地域リーグ」プレーオフ 男子優勝チーム



JVA 温暖化防止原稿（全日本男子植田監督）

# (財)日本バスケットボール協会 Japan Basketball Association

## ●第85回天皇杯・第76回皇后杯 全日本総合バスケットボール選手権大会

会期：2010年1月1日～5日、9日～11日(8日間)

会場：国立代々木競技場第一体育館、東京体育館

参加人数：選手約1,200名 観客約30,500名



ゴミの分別収集とペットボトルキャップの収集を呼び掛ける木内貴史専務理事



プログラムに掲載の環境保全呼び掛け頁

## ●第1回東アジアバスケットボール選手権大会 兼 第25回FIBAアジア男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選

会期：2009年6月10日～14日／会場：愛知県 小牧市 パークアリーナ小牧／参加人数：選手・役員約1,500名 観客約11,000名



(左端)  
佐室 有志  
(財)日本バスケットボール協会副会長

(左から2番目)  
Ms. Mabel Ching (ホンコン・チャイナ)  
FIBA センtralボードメンバー

(中央)  
Mr. Hagop Khajirian (レバノン)  
FIBA アジア第一事務総長補

(右から2番目)  
Mr. Jaemin lee (韓国)  
東アジアバスケットボール協会事務総長

(右端)  
木内 貴史  
(財)日本バスケットボール協会専務理事



### ●日本バスケットボールリーグ(JBL)2009-2010シーズン

会期：2009年10月2日～2010年4月15日  
 会場：全国各地  
 参加人数：選手約400名 観客約336,000名



各会場内に環境保全 PR パネルの掲示



ゴミの分別収集呼び掛け



ペットボトルキャップの収集

### ●第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会

会期：2009年10月24日・25日／会場：群馬県前橋市 群馬県総合スポーツセンター／参加人数：選手約600名 観客約4,500名



- (左端)  
日本実業団バスケットボール連盟 田中博行 副会長
- (左から2番目)  
日本実業団バスケットボール連盟 青木勇作 副会長
- (左から3番目)  
日本クラブバスケットボール連盟 稲垣進司 会長
- (右から3番目)  
日本バスケットボール協会 佐室有志 副会長
- (右から2番目)  
全日本教員バスケットボール連盟 鈴木武文 会長
- (右端)  
全日本社会人バスケットボール選手権大会 今 豊 実行委員長

# (財)日本スケート連盟 Japan Skating Federation

## ●2009NHK杯国際フィギュアスケート競技大会

会期：2009年11月6日～8日／会場：長野市・ビッグハット



## ●2009年度フィギュア審判講習会 西セミナー

会期：2009年9月12日～13日／会場：大阪府立体育館



伊東フィギュア部長、セミナー講師、フィギュア部、スポーツと環境委員の皆さん



## ●第35回西日本フィギュアスケート選手権大会

会期：2009年10月30日～11月1日／会場：加計学園倉敷アイスアリーナ





●第29回東日本ショートトラックスピードスケート選手権大会

会期：2009年11月7日～8日／会場：札幌市



●世界フィギュアスケート国別対抗戦2009

会期：2009年4月16日～19日／会場：東京都、代々木国立競技場／参加人数：選手48名



会場内スタッフルーム等でのポスター掲示、ゴミの分別活動

●2010ESSENT ISU世界スプリントスピードスケート選手権大会・帯広大会

会期：2010年1月26日～17日／会場：北海道、帯広市、明治北海道十勝オーバル／参加人数：選手80名



橋本会長、大石理事



選手控え室、スタッフルーム等でのポスター掲示、ゴミ分別活動



# (財)日本アイスホッケー連盟

## Japan Ice Hockey Federation

### ●第4回日光杯全日本女子中学・高校生大会

会期：2009年12月25日～12月27日／会場：栃木県日光市 霧降アリーナ、細尾ドーム／参加人数：選手数264名 観客数1,800名



優勝：苫小牧



チームECOのぼり旗



リユース食器使用

### ●第65回国民体育大会冬季大会(成年の部・少年の部)

会期：2010年1月27日～1月31日

会場：北海道釧路市 釧路アイスアリーナ、十條アイススケートセンター、釧路柳町アイススケート場

参加人数：選手数780名 観客数2,500名



成年の部優勝：東京都



少年の部優勝：北海道



ペットボトルキャップ回収



大会スタッフ



大阪府選手団の皆様



●長野カップ2010

会期：2010年2月11日～2月13日／会場：長野県長野市 ビッグハット／参加人数：選手数92名 観客数10,500名



左から  
 山本秀生 ANA東京支店法人販売室第二法人販売部長  
 君塚 晋 日本アイスホッケー連盟 副会長  
 宮下富夫 長野オリンピックムーブメント推進協会 専務理事  
 瀧上英機 日本アイスホッケー連盟 専務理事  
 遅塚研一 日本アイスホッケー連盟 会長  
 川杉収二 JOC事務局顧問



左から  
 瀧上英機 日本アイスホッケー連盟 専務理事  
 松沢国夫 長野県アイスホッケー連盟 副会長  
 川杉収二 JOC事務局顧問  
 遅塚研一 日本アイスホッケー連盟 会長  
 君塚 晋 日本アイスホッケー連盟 副会長  
 宮下富夫 長野オリンピックムーブメント推進協会 専務理事  
 山本秀生 ANA東京支店法人販売室第二法人販売部長



日本 vs スロベニア



### ●第77回全日本選手権

会期：2010年3月1日～3月7日

会場：北海道苫小牧市 白鳥アイスアリーナ、沼ノ端スケートセンター

参加人数：選手数588名 観客数9,500名



大会スタッフ



優勝：日本製紙クレインズ

### ●秩父宮杯第59回関東大学アイスホッケー選手権大会

会期：2010年4月3日～5月30日

会場：東京都西東京市 ガイドードリンコアイスアリーナ

参加人数：選手数820名 観客数7,200名



ガイドードリンコアイスアリーナ



関東大学選手権



東洋大 vs 法政大



# (財)日本レスリング協会

## Japan Wrestling Federation

### ●全日本女子レスリング選手権大会

会期：2009年4月4日～5日／会場：東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館／参加人数：160団体、511名



Vocalist 雨谷麻世さん  
森づくり讃歌『僕にできること』を開会式で熱唱

### ●JOCジュニアオリンピックカップ2009年度全日本ジュニアレスリング選手権大会

会期：2009年4月22日～23日／会場：神奈川県横浜市・横浜文化体育館／参加人数：1,180名



下田正二郎協会副会長、真田栄作スポーツ環境委員



(左から)  
下田正二郎協会副会長、武田明子協会事務局  
員、佐藤 満協会理事

### ●アムール・ティムール国際クラッシュトーナメント

会期：2009年4月8日～11日／会場：ウズベキスタン共和国・テルメズ市 アルボミッシュスタジアム



A・タングリエフ選手 (ウズベキスタン／北京オリンピック柔道100kg超級2位)



IOCメンバーI・Szewinska (ポーランド)、L・Palenfo (コートデュボアル)

●沼尻直杯 全国中学生レスリング選手権大会

会期：2009年6月13日～14日／会場：茨城県水戸市・県立スポーツセンター／参加人数：467名



池田 進中学生連盟副会長、沼尻 久中学生連盟会長



JOC エリートアカデミーのコーチと選手の皆さん

●第26回全国少年少女レスリング選手権大会

会期：2009年7月24日～26日／会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第一体育館／参加人数：175クラブ、1,307名



(左から) 山本佳代子さん (JOC)、福田富昭日本レスリング協会会長、小林孝至 JOC スポーツ環境アンバサダー



選手宣誓：館野美乃さん (木口道場)、成國大志君 (ゴールドキッズ)

●第14回関東幼児レスリング大会

会期：2009年8月23日  
会場：千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館  
参加人数：18クラブ、83名

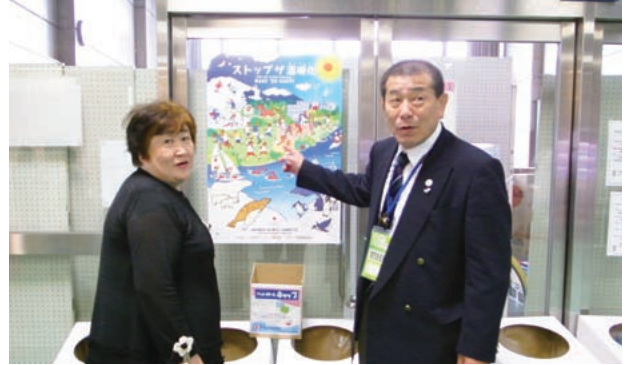


第六機動隊少年レスリング部の皆さん



●第64回国民体育大会・トキめき新潟国体

会期：2009年9月27日～30日／会場：新潟県・新潟市白根カルチャーセンター



池田直子会長夫人、池田 進新潟県レスリング協会会長

●第3回アジアインドゲームズ

会期：2009年10月30日～11月8日／会場：ベトナム社会主義共和国ハノイ市・ホーチミン市  
競技数：24競技219種目／参加人数：12種目130名(日本選手団)



大会ボランティアとフィンスイミングの選手の皆さん (クラッシュ競技会場)



(左から)  
田中弘済選手 (ベルトレスリング)、イランコーチ、石橋金治監督 (ベルトレスリング)、鎌賀秀夫 (スポーツ環境委員)、モンゴルコーチ



「クラッシュ競技」 審判員の皆さん



(左から)  
中村格子ドクター、板橋一太団長、石橋金治監督 (ベルトレスリング)



(左から)  
中村格子ドクター、♂ボランティア、今泉雄策副団長、♀ボランティア、阿部幹雄さん (JOC)

●天皇陛下御在位20周年記念

天皇杯・平成21年度全日本レスリング選手権大会

会期：2009年12月20日～23日  
 会場：東京都渋谷区・国立代々木競技場第2体育館  
 参加人数：295名



●第23回少年少女レスリング選手権大会

東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦

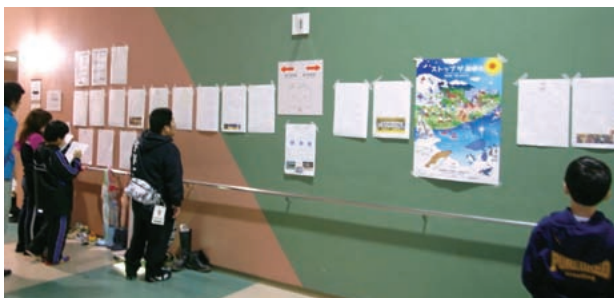
会期：2010年2月11日  
 会場：東京都新宿区・スポーツ会館体育館  
 参加人数：32クラブ、309名



選手宣誓：宮川ナナコさん、宮川和至君

●第14回全国少年少女選抜レスリング選手権大会

会期：2010年3月6日～7日／会場：東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年センター大体育館／参加人数：111クラブ、419名



**環境問題についてのアンケート結果**

このアンケートは、「全国少年少女選抜レスリング選手権大会」に出場した、4年生～6年生の選手の皆さんを対象に毎年実施しています。大会参加申込書の中に「環境問題について教えてください」という、3つの設問があります。今回の集計結果は以下のとおりです。

設問①の「物を大切にすると3R運動を知っていますか?」は、参加者の1割の選手が「いいえ」という回答で、「3R運動」を知らない選手が、これまでと比較すると増えました。特に男子選手にその傾向がみられます。「いいえ」とこのエコロジー意識を見て、自分は何ができるか、考えてみましょう。

なお、この結果内容は、財団法人日本オリンピック委員会スポーツ環境委員会の活動報告書の中に掲載されおり、JOCのウェブページから見ることが出来ます。 <http://www.joc.or.jp/eco/about.html#houkoku>

環境意識を、  
次のような言葉で表してありますか?

いいえ 1% 素晴らしい 99%

大会大賞にするのは誰ですか?  
(ジュニア、シニアのどちらか)

ジュニア 4% シニア 96%

3Rを見て、自分  
は何ができるか分かりますか?

いいえ 1% 素晴らしい 99%

設問②：地球温暖化、という言葉を聞いたことがありますか?

【男子】	【女子】																																																		
<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>45</td><td>0</td><td>0</td><td>45</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>117</td><td>1</td><td>4</td><td>122</td></tr> <tr><td>合計</td><td>162</td><td>1</td><td>4</td><td>167</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	0	0	0	0	5年生	45	0	0	45	6年生	117	1	4	122	合計	162	1	4	167	<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>45</td><td>0</td><td>0</td><td>45</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>59</td><td>0</td><td>0</td><td>59</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>85</td><td>0</td><td>2</td><td>87</td></tr> <tr><td>合計</td><td>189</td><td>0</td><td>2</td><td>191</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	45	0	0	45	5年生	59	0	0	59	6年生	85	0	2	87	合計	189	0	2	191
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	0	0	0	0																																															
5年生	45	0	0	45																																															
6年生	117	1	4	122																																															
合計	162	1	4	167																																															
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	45	0	0	45																																															
5年生	59	0	0	59																																															
6年生	85	0	2	87																																															
合計	189	0	2	191																																															

設問③：物を大切にすると3R運動(リデュース、リユース、リサイクル)を知っていますか?

【男子】	【女子】																																																		
<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>19</td><td>14</td><td>3</td><td>36</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>12</td><td>18</td><td>3</td><td>33</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>31</td><td>6</td><td>4</td><td>41</td></tr> <tr><td>合計</td><td>62</td><td>38</td><td>10</td><td>110</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	19	14	3	36	5年生	12	18	3	33	6年生	31	6	4	41	合計	62	38	10	110	<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>42</td><td>3</td><td>0</td><td>45</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>54</td><td>2</td><td>0</td><td>56</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>55</td><td>0</td><td>2</td><td>57</td></tr> <tr><td>合計</td><td>151</td><td>5</td><td>2</td><td>158</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	42	3	0	45	5年生	54	2	0	56	6年生	55	0	2	57	合計	151	5	2	158
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	19	14	3	36																																															
5年生	12	18	3	33																																															
6年生	31	6	4	41																																															
合計	62	38	10	110																																															
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	42	3	0	45																																															
5年生	54	2	0	56																																															
6年生	55	0	2	57																																															
合計	151	5	2	158																																															

設問④：ゴミを捨てる時、分別して捨てておられる方がいますか?

【男子】	【女子】																																																		
<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>33</td><td>2</td><td>0</td><td>35</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>112</td><td>1</td><td>4</td><td>117</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>65</td><td>2</td><td>4</td><td>71</td></tr> <tr><td>合計</td><td>210</td><td>3</td><td>8</td><td>221</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	33	2	0	35	5年生	112	1	4	117	6年生	65	2	4	71	合計	210	3	8	221	<table border="1"> <tr><th>学年</th><th>いいえ</th><th>1%以上</th><th>素晴らしい</th><th>計</th></tr> <tr><td>4年生</td><td>45</td><td>0</td><td>0</td><td>45</td></tr> <tr><td>5年生</td><td>59</td><td>0</td><td>0</td><td>59</td></tr> <tr><td>6年生</td><td>73</td><td>0</td><td>2</td><td>75</td></tr> <tr><td>合計</td><td>187</td><td>0</td><td>2</td><td>189</td></tr> </table>	学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計	4年生	45	0	0	45	5年生	59	0	0	59	6年生	73	0	2	75	合計	187	0	2	189
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	33	2	0	35																																															
5年生	112	1	4	117																																															
6年生	65	2	4	71																																															
合計	210	3	8	221																																															
学年	いいえ	1%以上	素晴らしい	計																																															
4年生	45	0	0	45																																															
5年生	59	0	0	59																																															
6年生	73	0	2	75																																															
合計	187	0	2	189																																															

30 第14回全国少年少女選抜レスリング選手権大会

「全国少年少女選抜レスリング選手権大会」大会プログラムより



# (社)日本ウエイトリフティング協会

## Japan Weightlifting Association

### ●第64回国民体育大会

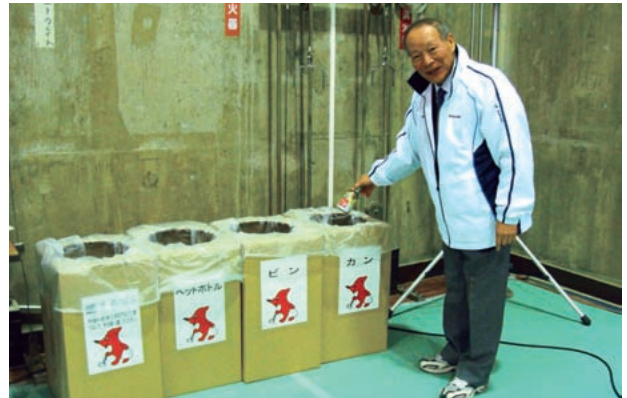
会期：2009年9月27日～29日  
 会場：新潟県「県央地域地場産業振興センター」  
 参加人数：選手302名



団体優勝した兵庫県チーム マスコットとっぴーときっぴー

### ●第46回全日本社会人・第1回レディースカップ 全日本女子選抜大会

会期：2009年9月27日～29日  
 会場：千葉県「八千代高校体育館」  
 参加人数：選手221名



日本協会 櫻井 勝利 副会長も分別収集に協力

### ●JOCジュニアオリンピックカップ第30回全日本ジュニア選手権大会

会期：2010年3月6日～7日／会場：東京都「大森スポーツセンター」／参加人数：選手140名



女子48kg級優勝者 水落 穂南



男子56kg級優勝者 糸数 陽一

### ●平成21年度全国高等学校総合体育大会・高松宮賜旗第56回全国高等学校選手権大会

会期：2009年8月9日～12日／会場：奈良県「橿原市体育館」／参加人数：387名



団体優勝した長崎県諫早農業高等学校



●第6回全日本学生選抜大会

会期：2009年4月19日／会場：横浜市「磯子スポーツセンター」／参加人数：41名



全日本学生連盟役員



再生資源のゴミの分別

●第69回全日本選手権大会・第22回全日本女子選手権大会

会期：2009年7月3日～5日／会場：埼玉県「さいたま市記念総合体育館」／参加人数：選手113名



競技役員 紙コップに氏名を書いてその日だけのマイカップ



北京オリンピック代表選手 三宅 宏実

●第55回全日本大学対抗選手権大会・第10回全日本大学対抗女子選手権大会

会期：2009年12月26日～27日／会場：横浜市「磯子スポーツセンター」／参加人数：173名



団体優勝した法政大学



団体優勝した金沢学院大学



# (財)日本ハンドボール協会

## Japan Handball Association

### ●ハンドボール日韓代表国際交流定期戦2009

会期：2009年5月6日／会場：神奈川県・川崎市 川崎市とどろきアリーナ／参加人数：選手80名、観客3,500名



### ●平成21年度日本ハンドボール協会

#### 第1回評議員会・理事会

会期：2009年6月13日  
 会場：東京都・渋谷区 渋谷エクセルホテル東急  
 「プラネットルーム」  
 参加人数：82名



### ●高松宮記念杯

#### 第50回全日本実業団ハンドボール選手権大会祝賀会

会期：2009年7月7日  
 会場：愛知県・名古屋市 キャッスルプラザホテル  
 参加人数：60名



### ●第14回ヒロシマ国際ハンドボール大会

会期：2009年7月23日～26日  
 会場：広島県・広島市 東区スポーツセンター  
 参加人数：選手80名、観客2,000名



### ●第22回全国小学生ハンドボール大会

会期：2009年7月29日～31日  
 会場：京都府・京田辺市 京田辺市田辺中央体育館他  
 参加人数：選手1,000名、観客3,000名



●第17回全日本ハンドボールマスターズ大会

会期：2009年7月31日～8月2日  
会場：愛知県・豊田市 スカイホール豊田他  
参加人数：900名



●高松宮記念杯

第60回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

会期：2009年8月2日～7日  
会場：京都府・京田辺市 京田辺市田辺中央体育館他  
参加人数：選手1,400名、観客10,000名



●第14回ジャパンオープンハンドボール  
トーナメント大会千葉国体リハーサル大会

会期：2009年8月8日～11日  
会場：男子大会 千葉県・市川市、女子大会 千葉県・香取市  
参加人数：選手700名、観客1,000名



●第36回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

会期：2009年8月21日～22日  
会場：熊本県・八代市 八代市総合体育館他  
参加人数：選手200名、観客500名



●第64回国民体育大会

トキめき新潟国体ハンドボール競技

会期：2009年10月2日～6日  
会場：新潟県・柏崎市 柏崎総合体育館他  
参加人数：選手840名、観客8,000名



●第61回全日本総合ハンドボール選手権大会(男子)

会期：2009年12月16日～20日  
会場：東京都・世田谷区 駒沢体育館  
参加人数：選手250名、観客5,000名





●第18回JOCジュニアオリンピックカップ  
ハンドボール大会

会期：2009年12月24日～28日  
会場：愛知県・名古屋市 枇杷島スポーツセンター他  
参加人数：選手750名、観客5,000名



開会式で挨拶をされる市原則之 JOC 専務理事

●第34回日本ハンドボールリーグプレーオフ

会期：2010年3月20日～21日  
会場：東京都・渋谷区 東京体育館  
参加人数：選手140名、観客7,000名



●第5回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

会期：2010年3月25日～29日  
会場：富山県・氷見市 氷見市ふれあいスポーツセンター他  
参加人数：選手1,400名、観客10,000名



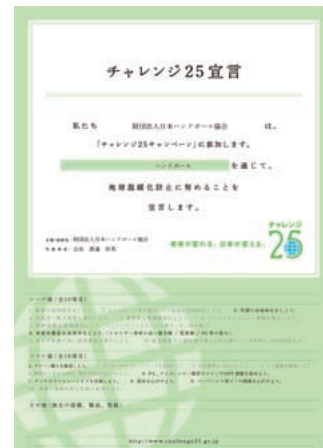
歓迎レセプション会場



開会式



第5回春の全国中学生ハンドボール選手権大会プログラム



チャレンジ25宣言

# (財)日本自転車競技連盟

## Japan Cycling Federation

### ●第78回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラック・レース

#### 2009年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会

会期：2009年6月6日～7日／会場：山口県防府市

参加人数：選手224名



啓発バナーで観客、選手にもアピール

### ●2009年全日本選手権個人タイム・トライアル・ロード・レース大会

会期：2009年6月14日／会場：秋田県大潟村

参加人数：選手48名



啓発バナーをメイン位置に掲示



### ●第64回国民体育大会 自転車競技会

会期：2009年9月27日～10月1日／会場：新潟県弥彦村

参加人数：選手416名



### ●第5回全国ジュニア自転車競技大会

会期：2009年10月25日／会場：三重県四日市市

参加人数：選手402名



分別収集の徹底



選手団エリアの分別収集





# (財)日本卓球協会

## Japan Table Tennis Association

### ●H.I.S.2009年世界卓球選手権横浜大会

会期：2009年4月28日～5月5日  
会場：横浜アリーナ(選手専用出入り口)



### ●第32回全国レディース卓球大会

会期：2009年7月24日～26日/会場：さいたま市記念総合体育館



大会参加章 (エコバッグ)



参加章に「チームマイナス6%」のロゴマークを入れる

### ●全日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)

会期：2010年1月12日～17日/会場：東京体育館



### ●環境委員会

会期：2010年1月16日/会場：東京体育館会議室



左より佐藤正喜委員、後藤広子委員長、小川敏夫担当理事、佐藤勲委員

### ●ジャパントップ12卓球大会

会期：2010年2月11日/会場：国立代々木競技場第二体育館



# (財)全日本軟式野球連盟

## Japan Rubber Baseball Association

### ●高松宮賜杯第53回全日本軟式野球大会2部

会期：2009年10月9日～12日  
会場：茨城県水戸市・水戸市民球場／参加人数：800名



左から金浜文雄評議員、小林一隆常務理事、大山則夫前専務理事、斉藤功監事、山文晴彦技術委員

### ●高松宮賜杯第53回全日本軟式野球大会2部

会期：2009年10月9日～12日  
会場：茨城県水戸市・水戸市民球場／参加人数：800名



### ●その他



軟式野球ボール付ミニバットストラップ



平成20年軟式野球ボール海外寄贈 中国より



平成20年軟式野球ボール海外寄贈  
ブルキナファソより



平成20年軟式野球ボール海外寄贈 エクアドルより



平成21年軟式野球ボール海外寄贈 中国 重慶市巴具中学校より



平成21年軟式野球ボール海外寄贈 中国 青海省海南州第一民族中学校より



平成21年軟式野球ボール海外寄贈 中国 青海省南川西路小学校より



# (社)日本馬術連盟

## Japan Equestrian Federation

### ●日本馬術連盟事務所



馬術情報



バックのエコマーク

エコバック



ベストのエコマーク

競技会で使用するベスト

### ●JOCジュニアオリンピックカップ大会 第33回全日本ジュニア障害馬術大会2009

会場：山梨県馬術競技場



春田恭彦（常務理事）、大波多廣一（理事）

### ●JOCジュニアオリンピックカップ大会 第26回全日本ジュニア馬場馬術大会2009

会場：御殿場市馬術・スポーツセンター



表彰式風景

### ●第61回全日本障害馬術大会2009Part I

会場：JRA馬事公苑



試合風景



北原広之&ホワイミー



# (財)全日本柔道連盟

## All Japan Judo Federation

### ●平成21年度全日本ジュニア体重別選手権大会

会期：2009年9月12日～13日／会場：埼玉県立武道館



中村淳子 JOC スポーツ環境アンバサダーによる啓発スピーチ①



中村淳子 JOC スポーツ環境アンバサダーによる啓発スピーチ②



横断幕



内柴正人選手とポスター



鈴木桂治選手とポスター

### ●柔道フェスタ2009 東北・北海道ブロック

会期：2009年10月18日  
会場：北海道立総合体育センター



中村美里選手とポスター

### ●柔道フェスタ2009 東海・近畿ブロック

会期：2009年10月18日  
会場：岐阜アリーナ



塚田真希選手・山岸絵美選手とポスター



2010年版柔道ルネッサンスカレンダー  
(環境保全をテーマとした)



# (財)日本ソフトボール協会

## Japan Softball Association

### ●2009 JAPAN CUP国際女子ソフトボール大会in仙台

会期：2009年7月31日～8月2日  
 会場：仙台市民球場  
 参加人数：12,000名



JSA 環境標語横断幕



日本代表：西山麗選手（遊撃手）、アメリカ代表：ジェニー・フィンチ選手（投手）



エコステーション・地元ボランティアスタッフ



JOC 環境啓発横断幕

### ●平成21年度日本女子リーグ決勝トーナメント

会期：2009年11月7日～8日  
 会場：京都市・わかさスタジアム京都  
 参加人数：10,000名



# (財)日本バドミントン協会

## Nippon Badminton Association

### ●バドミントン日本リーグ2009開会式レセプション

会期：2009年10月11日～12日／会場：北九州市立総合体育館  
参加人数：選手240名、観客5,000名



右から三宅祐司副会長、北九州市長北橋健治、(財)日本バドミントン協会綿貫民輔会長、左から三人目、北九州市バドミントン協会会長自見庄三郎

### ●全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2009年12月1日～6日  
会場：国立代々木競技場第二体育館  
参加人数：選手250名、観客8,000名



体育館にて大会のポスターと一緒にポスターを掲示。

### ●全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2009年6月17日～21日／会場：広島県立総合体育館



NEC SKY 末綱聡子 (左) 前田美順 (右) 組

### ●全日本総合バドミントン選手権大会

会期：2009年12月1日～6日／会場：国立代々木競技場第二体育館



池田信太郎 (右) 潮田玲子 (左) 組

### ●バドミントン日本リーグ優勝会見

会期：2008年12月28日  
会場：北海道立総合体育センター「きたえ〜る」  
参加人数：16チーム240名



### ●全日本実業団バドミントン選手権大会

会期：2009年6月17日～21日／会場：広島県立総合体育館  
参加人数：男子154チーム1,619名、女子37チーム391名



左から、深山英樹 (広島県バドミントン協会会長)、秋草直之 (日本実業団バドミントン連盟会長)、三宅祐司 (日本バドミントン協会副会長)



# (財)日本ラグビーフットボール協会 Japan Rugby Football Union

## ●日本代表チーム

会期：2009年11月20日／会場：秩父宮ラグビー場



環境バナーでの集合写真

## ●トップリーグ・プレーオフ

会期：2010年1月31日／会場：秩父宮ラグビー場



トップリーグ開催時における全チームキャプテンからの環境 PR メッセージを大型モニターにて放映



大型モニターでの環境タイライン「FOR ALL, FOR EARTH」の呼びかけ



トップリーグ公式試合（プレーオフトーナメント・ファイナル）時の環境バナーの掲出



トップリーグ開催時における「チームマイナス6%」デスクを設置しファンへの参加協力の呼びかけ



# (社)日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

## ●日本山岳協会自然保護委員総会

会場：愛媛県新居浜市



全国から参加の委員の集合写真

## ●日本山岳協会自然保護委員総会

会場：別子銅山峰でのエクスカージョン



全国から参加の委員の集合写真

## ●日本山岳協会自然保護委員総会

会場：愛媛県新居浜市



総会で環境保全活動の研究発表をした新居浜南高校の生徒諸君（左から、国澤鎮雄顧問、長谷川茂常務理事、二人おいて、田中文男会長）

## ●第12回JOCジュニアオリンピックカップ大会

会場：富山県南砺市



表彰を受けた選手諸君



# (財)全日本ボウリング協会 Japan Bowling Congress

## ●平成21年度第1回定時評議員会、第2回理事会

会期：2009年5月31日／会場：田町ハイレーン(東京都港区)／参加人数：約100名



会場内にポスターを掲示



中央：協会赤木恭平会長

## ●JOCジュニアオリンピックカップ 第33回全日本高校ボウリング選手権大会

会期：2009年7月21日～22日  
会場：品川プリンスホテルボウリングセンター(東京都港区)  
参加人数：選手約230名



右：男子優勝者 安里秀策選手  
左：女子優勝者 久松美穂選手

## ●文部科学大臣杯争奪 第48回全日本ボウリング選手権大会

会期：2010年3月19日～21日／会場：稲沢グランドボウル(愛知県稲沢市)／参加人数：選手約600名



プロジェクターによる記録速報を用紙節減のために導入



最終日、マスターズ戦での速報表示

# 全日本アマチュア野球連盟

## Baseball Federation of Japan

### ●NPO法人アオダモ育成の会 平成21年度植樹活動

会期：2009年7月23日

会場：北海道苫小牧市

参加者数：120名(うちNPBオールスター選手9名)



バットの森看板



植樹記念看板



開会式



高校生の植樹風景



NPB 選手の植樹風景



中日 井端選手の植樹風景



# (社)日本スカッシュ協会

## Japan Squash Association

### ●2009きよなん町・サンセットブリーズCUP第38回全日本スカッシュ選手権大会

会期：2009年11月20日～23日／会場：千葉県・安房郡鋸南町・サンセットブリーズ保田／参加人数：選手188名、観客2,000名



名誉総裁の高円宮妃殿下がご臨席、理事と記念撮影（左）。妃殿下の左前隣が会長の藤ヶ崎訥美、左端が鋸南町町長の白石治和氏



千葉県国体マスコット・チーバくと選手権入賞者



男子は福井裕太選手（セントラルー社所属）が2連覇  
後ろは準優勝の机仲之介選手（SQ-CUBE PRO 所属）



女子は小林海咲選手（SQ-CUBE PRO 所属）が19歳で初優勝  
日本スカッシュ史上最年少チャンピオン誕生となった  
右は準優勝の鬼澤こずえ選手（Point 所属）



大会会場隣接の食堂に冷水タンクを設置し、麦茶と冷水を用意  
リユースのプラカップを備え付けて自由に飲める様に設えた



分別収集の徹底を行い、ペットボトルはキャップも別にした  
こういった行動はジュニア選手が率先して行っている



●第23回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会

会期：2009年8月21日～23日／会場：神奈川県・横浜市・ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE  
 参加人数：選手122名、観客200名



冷水タンクと宮城島環境委員長・常務理事（左）



海外からの選手を迎えて行われた大会では熱戦が多く見られた。中でもアンダー19女子の決勝は、韓国のリー・ジ・ヒョン選手（左）と山崎真結選手（SQ-CUBE Academy 所属）が接戦を繰り広げ山崎選手が優勝した



分別収集を行う潮木常務理事（中）

●JOCジュニアオリンピックカップ第14回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会

会期：2010年3月26日～28日／会場：神奈川県・横浜市・ヨコハマスカッシュスタジアムSQ-CUBE  
 参加人数：選手124名、観客240名



JOC からのトロフィーを手にしたアンダー19優勝の山崎真結選手（左）と小林僚生選手（共に SQ-CUBE Academy 所属）



分別収集



冷水タンクと宮城島環境委員長・常務理事（右）

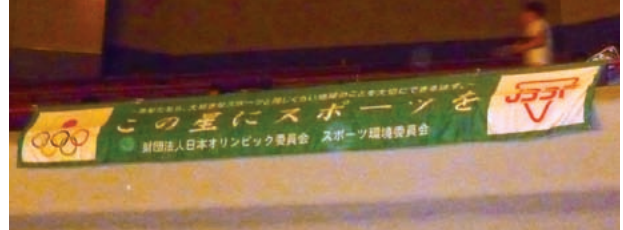




# (社)日本ボディビル連盟

## Japan Bodybuilding Federation

- 第13回日本クラス別ボディビル選手権大会(出場：103名) 第1回日本クラシックボディビル選手権大会(出場：37名)
- 会期：2009年7月5日/会場：岡山県 岡山市市民会館/参加人数：役員・観客数約520名



JOC 環境啓発横幕掲示

- 第14回オールジャパンミスフィットネス選手権大会(出場：6名)
  - 第3回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会(出場：36名)
- 会期：2009年8月2日/会場：茨城県 パークガーデンプレイス/参加人数：役員・観客数約250名



JOC 環境啓発横幕掲示

- 第17回日本女子チャレンジカップボディビル選手権大会(出場：8名) 第9回ミス21健康美大会(出場：33名)
- 会期：2009年8月23日/会場：東京都品川区 きゅりあん/参加人数：役員・観客数約230名



JOC 環境啓発横幕掲示

- 第20回ジャパンオープンボディビル選手権大会(出場：79名)
- 第26回ジャパンミックスドペアボディビル選手権大会(出場：6組)

会期：2009年9月6日／会場：大阪府 エルおおさか／参加人数：役員・観客数約520名



JOC 環境横幕掲示

- 第55回男子日本ボディビル選手権大会(出場：39名)
- 第21回日本ジュニアボディビル選手権大会(出場：16名)
- 第27回女子日本ボディビル選手権大会(出場：29名)
- 第4回全国高等学校ボディビル選手権大会(出場：79名)

会期：2009年10月12日／会場：東京 メルパルクホール／参加人数：役員・観客数約1,300名



JOC 環境横幕掲示

- 社団法人日本ボディビル連盟主催  
JBBF公認指導員講習会

会期：2009年3月20日～22日  
会場：宮城県仙台市 仙台国際センター  
参加人数：45名、役員・講師20名



JOC 環境啓発ポスター掲示

- 社団法人日本ボディビル連盟総会

会期：2010年3月14日  
会場：東京 国立スポーツ科学センター  
参加人数：22名



JOC 環境啓発ポスター掲示



# (財)日本ソフトテニス連盟

## Japan Soft Tennis Association

### ●第64回国民体育大会

会期：2009年9月26日～30日／会場：新潟県上越市・新潟市／参加人数：選手650名、観客3,000名



ゴミ分別箱の設置を確認している次回開催県千葉県役員



開催地新潟県の応援横断幕と「この星にスポーツを」の横断幕

### ●第16回全日本シングルス選手権大会

会期：2009年5月16日～17日／会場：埼玉県狭山市／参加人数：選手300名、観客1,000名



左 松本富男 埼玉県ソフトテニス連盟会長  
右 林 敏弘 日本ソフトテニス連盟副会長  
「ストップザ温暖化」ポスターの前で

# (財)日本体操協会

## Japan Gymnastic Association

### ●第63回全日本体操競技団体・種目別選手権大会

会期：2009年11月20日～22日／会場：東京都渋谷区 国立代々木競技場 第1体育館



会場内に掲げられた横断幕：「この星にスポーツを」



炭酸マグネシウムを掃除機で吸い取る様子



# (社)日本ライフル射撃協会

## National Rifle Association of Japan

### ●第1回全国理事会・第1回総会

会期：2009年5月30日／会場：東京都渋谷区・岸記念体育会館101～103会議室



左から藤井優副会長、佐川肇副会長、武政宏副会長、坂本剛二会長、松丸喜一郎専務理事、三野卓哉事務局長



松丸喜一郎専務理事

### ●平成21年度全日本社会人ライフル射撃競技選手権大会 兼第65回国民体育大会リハーサル大会

会期：2009年9月4日～9月6日

会場：千葉県千葉市・千葉大宮高等学校体育館他

参加人数：288名



競技役員室：松丸喜一郎専務理事、來栖行正常務理事

# (社)日本カーリング協会

## Japan Curling Association

### ●第27回日本カーリング選手権大会

会期：2010年3月6日～3月11日／会場：北海道北見市常呂町字土佐2番地 常呂町カーリングホール／参加人数：90名



後列左から吉村沙也香、土居博昭副会長、佐藤安德競技委員長、山添倫示審判長  
前列左から井田梨菜、石垣真央、氏原梨沙



左から井田梨菜、吉村沙也香、石垣真央、氏原梨菜

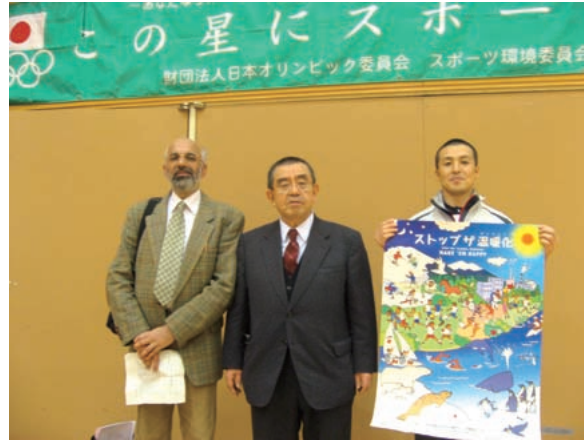


# 日本カバディ協会

## Japan Kabaddi Association

### ●第21回全日本カバディ選手権大会

会期：2009年11月21日～22日／会場：国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室／参加人数：選手約150名、観客約150名



一島正真副会長（中央）と清水谷尚順理事（右）



男子決勝戦



女子決勝戦

# 日本セパタクロー協会

## Japan Sepaktakraw Federation

### ●第17回全日本学生セパタクロー選手権大会

会期：2009年10月10日～11日／会場：亜細亜大学体育館／参加人数：選手220名、観客100名



男子優勝：慶応大学A（寺田覚、木村康一郎、平野翔）



女子優勝：日本体育大学女子B（吉田はる香、鈴木真央、石野有美）

# (財)日本体育協会 Japan Sports Association

## ●第64回国民体育大会

会期：2009年9月26日～10月6日 ※水泳競技会は9月9日～9月13日に実施／会場：新潟県・新潟市ほか計19市2町2村



## ●生涯スポーツ全国会議2010

会期：2010年2月4日／会場：浦和ロイヤルバインズホテル





# (特非)日本オリンピック・アカデミー

## Japan Olympic Academy (JOA)

### ●JOAセミナー

会期：2009年5月31日／会場：明治大学アカデミーコモン



JOA 会長 猪谷千春

### ●第32回JOAセッション「2016東京オリンピック・パラリンピック招致のレガシー」

会期：2009年12月13日／会場：明治大学リバティタワー



左より、パネリスト結城和香子（読売新聞社）、中森康弘（JOC）、鯨岡廣隆（東京都教育庁）、河合純一（パラリンピアン）、コーディネーター荒井啓子（学習院大学）、大津克哉（東海大学）



左より、パネリスト中森康弘（JOC）、結城和香子（読売新聞社）、猪谷千春（日本オリンピック・アカデミー会長）、河合純一（パラリンピアン）、鯨岡廣隆（東京都教育庁）、大津克哉（東海大学）、コーディネーター荒井啓子（学習院大学）



# 日本トップリーグ連携機構

## Japan Top League

### ●2009年度審判研修会

会期：2009年8月23日～24日／会場：味の素ナショナルトレーニングセンター



ナビゲーター：日本バスケットボール協会橋本信雄氏



実習「ウォーミングアップの実践」 守田誠講師



グループディスカッション1



積極的に発言する日本ハンドボールリーグ機構家永昌樹GM



グループディスカッション2



プレゼンテーション能力 専修大学 齊藤実講師



# (特非)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会

## Tokyo 2016 Bid Committee



ソーラーパネルを屋上に配したオリンピックスタジアム（完成予想イメージ）



評価委員会来日時の発電床の実演



評価委員会来日時に使用したハイブリットバス



校庭芝生化（立候補ファイルで使用）

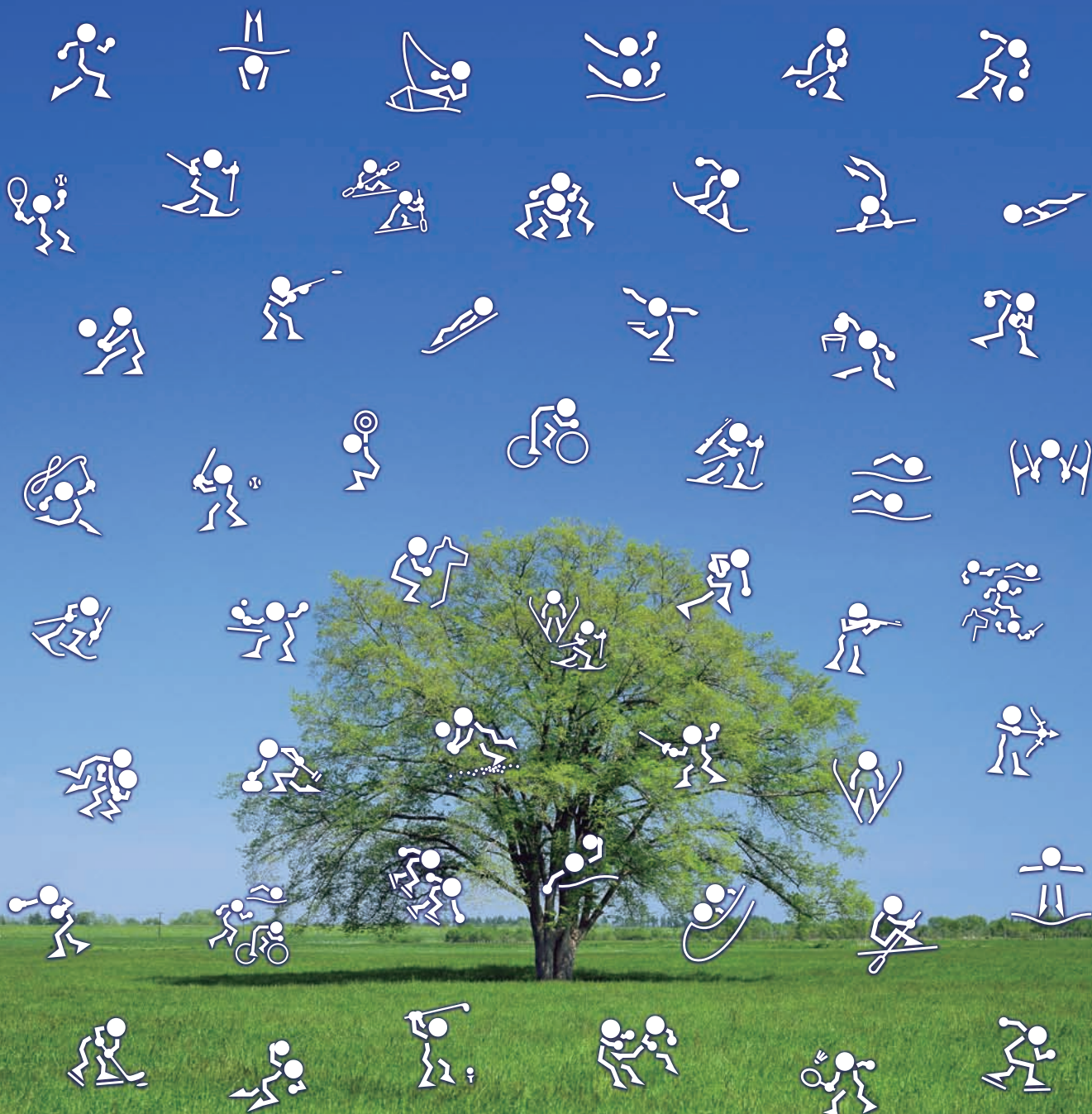


※「東京都提供」

環境に配慮したバイオマス発電による電力を使用した都庁舎ライトアップ  
 (2009年4月のIOC 評価委員会来日に合わせ、招致 PR のために都庁舎にオリンピックカラーでライトアップを行った。ライトアップには環境に配慮したバイオマス発電による電力を使用した。)

かいてき  
快適なスポーツを!

さわやかな環境を大切にしよう  
FOR CLEANER SPORTS WORLD



**JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE**  
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境委員会



# JOC スポーツ環境アンバサダー

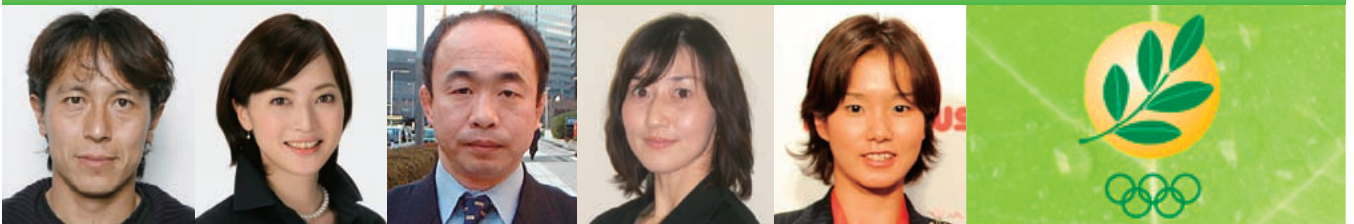
## JOC Sport and Environment Ambassador

環境アンバサダーは

- トップレベルの選手だったので知名度があり、その発言は **ファンの心に届く** ものである。
- それぞれの競技の **環境活動を代表** する。
- スポーツ界の環境保全の **啓発活動・実践活動** を行う。



私たちは、**JOC環境アンバサダー**です。



平成22年3月現在

### 環境アンバサダーだからこそできるアクション

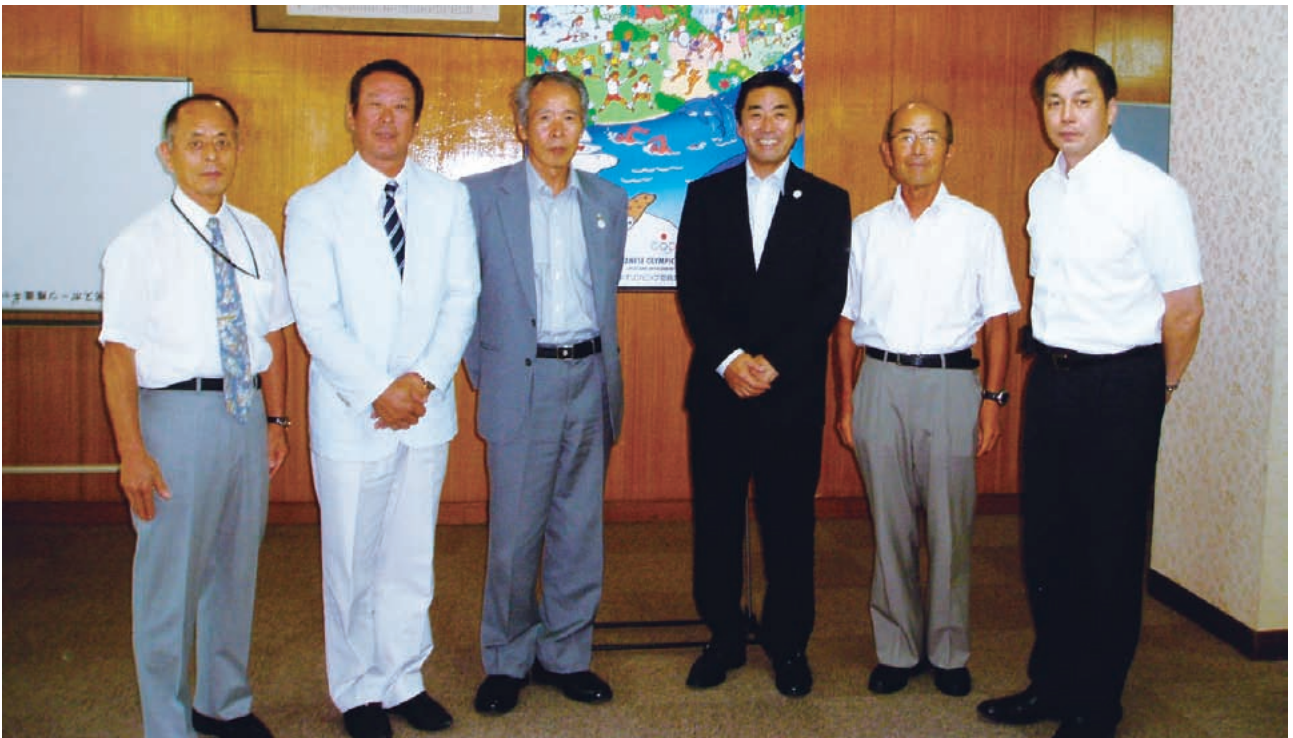
- ◇ スポーツを通じて環境保全意識を高める
- ◇ メディアで積極的に環境に関する発言をする
- ◇ 後輩の現役選手に対して、環境配慮をレクチャーする
- ◇ 海外への遠征時に感じた世界の温暖化をはじめとする環境問題の現状を訴える
- ◇ 世界に向けて日本のスポーツ界の取り組みを発信する
- ◇ 講演会などで、地球温暖化防止をはじめとする環境問題に関する話をする
- ◇ 個人基金を設け、環境保全活動に寄付をする
- ◇ スポーツ教室などを通じて、子どもたちに環境問題に対する教育を行う
- ◇ 次世代の環境アンバサダーを育成する

# JOC スポーツ環境専門委員会

## JOC Sport and Environmental Commission



後列左から、山口香委員、森末慎二委員、松岡修造委員、風間明委員、鎌賀秀夫委員、浅草和敏委員  
前列左から、橋爪功委員、佐野和夫副委員長、板橋一太委員長、水野正人 JOC 副会長、木村興治 JOC 総務委員長



左から、浅草和敏委員、森末慎二委員、板橋一太委員長、村里敏彰委員、橋爪功委員、風間明委員



田嶋幸三副委員長



荻原健司委員



平松純子委員



# 環境方針

## Policy of the JOC on Environmental Management Systems (EMS)

### 環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC 事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

### 行動指針

1. JOC 事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源リサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成18年3月17日

財団法人日本オリンピック委員会

会長 竹田 恆和

- 2009年7月11日付でISO14001の認証登録を更新(2度目)  
ISO(International Organization for Standardization) 14001



認証登録証を受け取った竹田恆和 JOC 会長

- JOC事務局内レクチャー



# 平成21年度 スポーツ環境専門委員会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2009

■写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
Photographic report of activities on Sport and Environment	

## 本文目次

Contents

1. スポーツ環境専門委員会活動の意義について	73
Objective of the JOC Sport and Environment Commission	
2. 第5回 JOC スポーツと環境・地域セミナー 開催報告	74
Report of the 5th JOC Regional Seminar on Sport and Environment	
3. 第6回スポーツと環境担当者会議 開催報告	81
Report of the 3th National Sports Federations Conference on Sport and Environment	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	84
Issues regarding awareness and implementation activities	
(1)スポーツ環境専門委員・アンバサダーの活動	85
Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission	
(2)各競技団体等の活動	103
Activities of the JOC affiliated NFs and organizations	
(3)(特非)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動	127
Activities of the Tokyo 2016 Bid Committee	
(4) JOC スポーツ環境活動者一覧	131
Activities person of Sport and Environment	
(5)スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	134
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs	
(6)国際大会での活動	137
JOC environmental activities at the International Games	
(7)環境省との連携について	139
Collaboration with the Ministry of Environment	
(8)スポーツと環境についてのレクチャー原稿	141
Lecture draft on Sport and Environment	
5. IOC スポーツと環境委員会について	152
IOC Sport and Environment Commission	
(1) IOC スポーツと環境委員会	153
IOC Sport and Environment Commission	
(2) IOC スポーツと環境・地域セミナー	155
IOC Regional Seminar on Sport and Environment	
6. 関連資料	157
References	
(1)スポーツ環境専門委員一覧	157
Member of Sport and Environment Commission	

(2) IOC スポーツと環境委員会小史 .....	159
Brief history of the IOC Sport and Environment Commission	
(3) JOC スポーツ環境専門委員会小史.....	160
Brief history of the JOC sport and Environment Commission	
(4)オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約).....	161
Olympic Movement's Agenda 21	
(5)第8回スポーツと環境世界会議 決議.....	165
A Resolution of 8th World Conference on Sport and Environment	



# 1 スポーツ環境専門委員会活動の意義について

## Objective of the JOC Sport and Environment Commission

### スポーツを通じた環境への取り組み

#### 2016東京招致が投げかけた環境課題

2016オリンピック東京招致は残念ながら実らなかったが、東京・日本が提案したコンセプトは高い評価を受けた。特に環境問題に関しては、「環境負荷の最小化」「自然と共生する都市環境の再生」「スポーツを通じた持続可能な社会づくり」の3つの柱で12の基本方針から構成されているが、それはIOCが世界のスポーツ界に呼び掛けている環境活動の全てを集約している。バンクーバーオリンピックは専門家集団の協力を得て環境問題に総合的かつ本格的に取り組んだ初めてのオリンピックと言われているが、スポーツ競技会やイベントの開催に当たって環境面から配慮されるべき諸事項を整理（SSET）し、温室ガス排出と環境努力に関する指標（GRI）を利用してその相殺（オフセット）を図るなど今後のオリンピックの開催に大きな一石を投じたものである。オリンピックに先だって開催された第8回スポーツと環境世界会議の決議では「各国国内委員会はオリンピック立候補都市が提案した内容や開催目標とともに開催が決定した都市の組織委員会が提示しているオリンピックの構想、具体的計画、遺産（成果物）について引き続き理解を深める必要がある」と記されている。



#### 地球規模で考え足もとから行動する

「地球規模で考え、足もとから行動する」（“Think globally, act locally”）。これはIOCが提唱するスポーツと環境活動のスローガンであり、IOCの「スポーツと環境・競技別ガイド」に示されている。地球温暖化というのは一見他人事のようにはあるがいつ我々の日常生活に異変が生じスポーツも今までのようには出来なくなるかもしれない・・・既にその兆候は現れているのだが。今、地球で起きていることを自分の問題として考えることが大切な理由である。既に日本のスポーツ界でも環境活動が展開されている。ゴミの分別回収や競技会場での横断幕の掲示、マイコップ、マイ箸などさまざまな取り組みが行われている。全国一斉に海岸の清掃を行っている団体もある。このような取り組みが地域や職場にも広がっている。また、メダリストや著名なスポーツ人の環境活動が子どもたちの環境活動に大きな影響を与えている。団体によっては上記のような活動のレベルを越えて業者やスポンサーも巻き込み競技会やイベントを本格的に環境対応化しようという試みも現れている。

#### スポーツ界の主体的取り組みを

政府は本年1月に「チャレンジ25」キャンペーンを開始した。京都議定書に次ぐ地球温暖化防止の枠組みとして我が国は他国の共同行動を前提として1920年までにCO<sub>2</sub>を1990年比25%削減することを提唱している。そのことに対応して低炭素社会の構築を目指そうとする国内活動の新しい展開である。これまでの「チーム・マイナス6%」キャンペーンに代わるものである。JOCやスポーツ界にも協力の呼びかけが行われている。我々の環境活動がこれから日本が目指そうとする低炭素社会の構築に資することはいうまでもないが、上述のように温暖化はわれわれ一人一人の問題である。スポーツ団体やスポーツ人の自主的かつ主体的取り組みが求められるゆえんである。

財団法人 日本オリンピック委員会  
スポーツ環境専門委員会  
委員長 板橋 一太

# 2 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

## Report of the 5th JOC Regional Seminar on Sport and Environment

### ■開催概要

1. 趣 旨：本会は平成13年度からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してきた。この度その活動のひとつとして、第5回の地域セミナーを福岡市で開催し、スポーツ界における環境保全の啓発・実践活動の必要性、及び九州地区のスポーツに携わっている関係者に本委員会の環境保全活動に対する理解と実践活動への協力をお願いした。
2. 共 催：(財)日本オリンピック委員会、福岡市(JOCパートナー都市)
3. 後 援：文部科学省、九州地方環境事務所、(財)日本体育協会、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、(財)福岡県体育協会(財)福岡市体育協会、(財)福岡市スポーツ振興事業団(特非)東京オリンピック・パラリンピック招致委員会
4. 日 時：平成21年9月4日(金) 13:30~17:00
5. 場 所：福岡市役所 15階 講堂  
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 電話：092-711-4657
6. 参加者：JOC役員他、JOC・日本体育協会加盟団体のスポーツと環境担当者九州地区の体育協会、教育委員会、スポーツ関係部局の環境担当者及びスポーツ指導者、JOCパートナー企業、JOCパートナー都市関係者他約250名
7. プログラム：13:30 主催者挨拶  
(財)日本オリンピック委員会スポーツ環境専門委員長 板橋 一太  
福岡市長 吉田 宏  
13:40 基調講演・トークショー「スポーツと環境とオリンピック」  
講演者 IOCスポーツと環境委員 水野 正人  
JOCスポーツ環境アンバサダー 岩崎 恭子  
塚原 光男  
14:50 活動報告  
「JOCスポーツと環境保全、啓発・実践活動について」  
JOCスポーツ環境専門委員長 板橋 一太  
15:20 休憩  
15:40 福岡市の環境施策について  
「循環型社会と低炭素型を目指して」  
福岡市環境局環境政策部長 井上 文博  
16:00 パネルディスカッション  
「スポーツ界における環境保全活動の新しい展開について」  
コーディネーター：JOCスポーツ環境専門委員長 板橋 一太  
パネリスト：九州産業大学工学部長 上和田 茂  
福岡市体育協会専務理事 木部 正俊  
アビスパ福岡ホームタウン推進部長 下田 功  
17:00 閉会の挨拶 (財)日本オリンピック委員会副会長 水野 正人

## ■ パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長からのメッセージ

IOC スポーツと環境委員会として、福岡市で第5回 JOC スポーツと環境地域セミナーが開催されることにお慶びを申し上げます。

IOC スポーツと環境委員会は1995年に創設されて以来、スポーツ界に於ける環境保全の啓発と持続可能なスポーツとイベント実践に向けて全力を尽くして参りました。

良くご存知のように、降雪量の減少、洪水、干ばつ、より強くなる紫外線など地球温暖化による気候変化が具象化し、また深刻になりつつあります。野外競技場では高い気温が選手を悩ませるなど大きく影響があります。今こそスポーツ関係者はこの状況を踏まえ対策を講ずるべきです。福岡は素質のある選手や指導者を育てるのみならず、第18回ユニバーシアード競技大会（1995／福岡）や新体操国際大会 in FUKUOKA 2007 など多くの国際大会を開催した最もスポーツの盛んな都市のひとつです。参加者の皆さんには是非 JOC のセミナーで環境について多くを学び、高い意識を保持して頂きたいと存じます。



IOC スポーツと環境委員会  
委員長 パル・シュミット

Dear President Takeda

On behalf of Sport and Environmental Commission of the IOC, it is my great pleasure to congratulate the 5th JOC Sport and Environment Regional Seminar in Fukuoka.

The commission has been striving their best to promote awareness and implementation of sustainable sport and event in the world since its foundation in 1995.

As we all know that the climate change is getting more sensible and serious such as less snowfall, flood, drought, stronger ultra violet rays caused by the global warming. It sure affects sports a great deal such as bothering athlete in high temperature at the outside competition venues. We, sport related people must realize the situation and take action now.

Fukuoka is one of the most active sport city not only bearing and fostering so many potential athletes and leaders but also hosting many international sport events such as The 18th Universiade Fukuoka 1995 and the Rhythmic Gymnastics International Competition in Fukuoka 2007. I hope that all the participants will learn a lot from this JOC regional seminar to keep up greater awareness on environmental issues.

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Pál Schmitt', written in a cursive style.

Pál Schmitt  
Chairman, IOC Sport and Environment Commission

## ■セミナー概要

去る9月4日、福岡市役所講堂で日本オリンピック委員会（JOC）とJOCパートナー都市である福岡市と共催で「第5回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」が開催され、九州地区の競技団体関係者を中心に約250人が参加した。セミナーは板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長、吉田宏福岡市長による主催者挨拶でスタート、基調講演、トークショー、活動報告、福岡市の環境政策、パネルディスカッションと、盛りだくさんの内容で行われた。

### ●基調講演、トークショー 水野副会長

トップバッターは、IOC スポーツと環境委員の水野正人副会長。「この100年で化石燃料を燃やした二酸化炭素が地球を覆い、熱が放出できなくなり温暖化を招いている。その結果が異常気象の増加となっている」と解説した。また「1990年代に当時のサマランチ IOC 会長が『スポーツ・文化』に加え『環境』をオリンピックムーブメントに取り入れると宣言したことに始まり、各国のオリンピック委員会が環境保全活動を進めている」と説明し、北京オリンピックは、大会前に車規制や工場休止で大気汚染を緩和したなどの事例を報告した。

### ●岩崎恭子さん、塚原光男さん

続いて、JOC スポーツ環境アンバサダーの岩崎恭子さんと塚原光男さんによるトークショーが行われた。岩崎さんは水泳の現場から、「私が小さいころはプールにカルキ（塩素）を入れていて、咳き込むこともありました。今は塩で消毒し地球に優しくなっています。また去年は、全国水泳チーム・クラブ環境活動コンテストを行いました」と活発な水泳連盟の活動を報告した。

塚原さんは、体操競技で使う炭酸マグネシウムについて「滑り止めなので、使わないというのは無理ですが、器具の近くに炭酸マグネシウムを吸い取る機械を置き、体育館に充満しないようにしていますし、他の

方法も研究しています」と説明。「スポーツは子供への教育も兼ねています。環境に対してできることをやりたい」と訴えた。

### ●板橋委員長 JOC の環境活動を報告

続く、JOC の活動報告では、板橋委員長が「スポーツの分野でも、環境問題と持続可能な開発の問題は無視できないテーマ」とのジャック・ロゲ IOC 会長の言葉を紹介。「JOC は、各競技団体に環境委員会を立ち上げるようお願いしたところ、60%の団体で設置、徐々に浸透してきている。ポスターの貼付やバナー（横断幕）の掲揚、競技会のプログラムに環境啓発の掲載など具体的な活動を説明した。

最後に、2009年3月にバンクーバーで開かれた「第8回スポーツと環境世界会議」について報告。「決議文はこう結ばれている。『最も革新的な精神を持つものは若者であり、環境と最も調和できるのも若者である』」と、若い世代との協力を訴える報告となった。

### ●福岡市も循環型社会へ

第2部は、福岡市環境局環境政策部の井上文博部長が『循環型社会と低炭素型を目指して』をテーマに講演。「福岡ソフトバンクホークスの選手が1日あたりのCO<sub>2</sub>削減目標を宣言するポスターが好評。住宅太陽光発電の補助は、福岡市の1kW 7万円の補助と国の補助を合わせると、3kW で31万円の補助となる。事業者には、毎週金曜日をノーマイカーデーとし、割引の1日乗車券を発行している」など数々の事例を紹介した。



JOC スポーツ環境アンバサダーの塚原光男さんと岩崎恭子さん



パネリスト、講演者ともに記念撮影

## ●パネルディスカッション

最後は、板橋委員長がコーディネーターを務め、パネルディスカッション『スポーツ界における環境保全活動の新しい展開について』が行われた。パネリストは、九州産業大学の上和田茂工学部長、福岡市体育協会の木部正俊専務理事、アビスパ福岡の下田功ホームタウン推進部長の3名。

上和田氏は「スポーツと景観」をテーマにした公共スポーツ施設作りの立場から、屋内スポーツ施設では、透光性のテフロン幕の屋根にすることで、昼間の照明が抑えられ省エネになると説明した。

木部氏は、大会運営の現場から、ボランティア清掃、ヨットハーバーの緑化などの取り組みを紹介。「マリンスポーツ、アウトドアも盛んで大会も多く、ソフトバンクホークスもある福岡市。42競技団体が、

積極的に環境に取り組んでいる」と話した。

下田氏は、Jリーグ『アビスパ福岡』の取り組みを紹介。選手が自らの清掃やごみの分別活動。小学校と幼稚園の芝生化プロジェクト、地面に穴をあけ芝を植える方法で、子供たちと地域の人が汗を流して芝生を植えることで、環境に興味を持ち、地域ネットワークも生まれる」と紹介した。

最後に水野副会長が「スポーツには価値があります。多くの人を巻き込み協力し合って良いスポーツの場を作り、みんなが幸せになる活動を進めましょう」と締めくくった。

## ○関連リンク

JOC スポーツ環境委員会の活動についてはこちら  
<http://www.joc.or.jp/eco/about.html>

## 出席者一覧

所属先	氏名	所属先	氏名
日本オリンピック委員会	水野正人	福岡市家庭婦人バレーボール連盟	福田律子
	板橋一太		藤川和代
	塚原光男		高野孝子
	浅草和敏		深見由紀子
	岩崎恭子		山下泰子
福岡県水泳連盟	山住哲生		赤星敦子
福岡市水泳連盟	舟木佳代子		江川弘子
日本サッカー協会	玉利聡一		水野くに子
福岡市サッカー協会	小柳稔	於保敦子	
福岡県スキー連盟	緒方速雄	日本バスケットボール協会	山田章博
	佐藤隆寛	福岡市バスケットボール協会	青木進
	古川光彦		岡部喜代子
福岡県テニス協会	西村充生		西村啓三
	本村照子		長澤正信
	佐々木信子		谷口和男
	古賀尚之	松岡泰生	
佐賀県テニス協会	松尾正一郎	福岡県スケート連盟	阿部憲三
熊本県テニス協会	田島衆一	日本ウエイトリフティング協会	福留富枝
福岡市テニス協会	森下恭三		守昌宏
福岡県ボート協会	澁谷吉彦	日本ソフトテニス連盟	福田登美男
	大西悦義	福岡県卓球協会	宮下恭子
	田中健次		江上友子
九州ホッケー協会	石原保之	福岡県馬術協会	金子涼子
福岡県ホッケー協会	一ノ瀬元史		木村カズ子
	田中泰彦	重松典子	
九州アマチュアボクシング連盟	河上博喜	福岡県ソフトボール協会	二木正伸
福岡県アマチュアボクシング連盟	宮崎高実		富浦巖
福岡市バレーボール協会	杉山博明		田尻春童
福岡市家庭婦人バレーボール連盟	吉田昌子	福岡市レディースバドミントン連盟	上田曜子
	石井サワ子	福岡市レディースバドミントン連盟 東区	興膳律子
	井上久子	福岡市レディースバドミントン連盟 中央区	安武壽子
	林幸江	福岡市レディースバドミントン連盟 早良区	倉内こずえ
	堀美代子	福岡市レディースバドミントン連盟 西区	前田明子
	北園敦子	福岡市レディースバドミントン連盟 博多区	近藤房子
	益田和子	福岡市レディースバドミントン連盟 南区	松岡順子
	山本圭子		白垣幸子

所 属 先	氏 名
福岡市レディースバドミントン連盟 城南区	松 本 敬 子
福岡市ラグビーフットボール協会	大 町 博 憲
	結 城 利 治
福岡市空手道連盟	水 口 雄 三
	茂 田 長 俊
福岡市カヌー協会	大 塚 一 男
全日本アーチェリー連盟	番 隆三郎
全日本銃剣道連盟	上 村 正
財団法人 全日本なぎなた連盟	砂 川 邦 子
福岡県なぎなた連盟	上 野 絹 子
福岡市なぎなた連盟	荒 木 圭 子
	馬男木 幸 子
福岡市ボウリング協会	山 口 佳 秀
福岡県武術太極拳連盟	吉 田 林 之
福岡市武術太極拳連盟	中 村 清 子
	宮 地 麗 子
	筋 田 かよ子
	江 見 礼 子
	高 瀬 明 世
福岡県トライアスロン連合	野 口 隆 平
	山 中 良 晃
福岡市トライアスロン連合	岩 岡 文 彦
	後 藤 章 夫
日本ボディビル連盟	政 枝 勝 憲
	磯 野 武 夫
福岡県ボディビル連盟	木 下 俊 昭
全日本テコンドー協会	別 府 清 和
福岡県テコンドー協会	藤 崎 裕 志
福岡県ダンススポーツ連盟	塚 本 徹
	光 安 秋 人
	橋 本 双 美
	寺 田 純 生
	光 安 秋 人
福岡県ゲートボール連盟	月 岡 美次郎
	吉 田 昭 敏
	高 宮 啓一郎
	手 嶋 悌三郎
福岡市インディアカ協会	成 吉 静 穂

所 属 先	氏 名
福岡市インディアカ協会	林 浩
	植 山 孝 子
	植 山 英 司
	越 川 笑 香
福岡市バウンドテニス協会	下本地 實
	坂 本 由美子
福岡県体育協会	松 永 和 生
	津 田 宏
飯塚市体育協会	赤 間 公 輔
	佐 瀬 弘 祐
宇美町体育協会	宮 内 作 良
佐賀県体育協会	大 坪 郁 弘
	西 山 大 作
熊本県体育協会	阪 本 達 也
	島 崎 聖 司
鹿児島県体育協会	寺 前 重 幸
福岡市体育協会	森 肇
粕屋郡体育協会	藤 征 弘
大野城市体育協会	上 野 貴 裕
宇美町体育協会	宮 内 作 良
三筑ジュニアバレーボールクラブ	富 久 富美子
宮竹なぎなたスポーツ少年団	村 山 房 江
福岡市体育指導員協議会	阿座上 恭 一
	蘆 刈 好 行
	稲 光 恒 好
	入 江 美代子
	植 田 幸 二
	内 林 潤 一
	大 坪 雅 幸
	大 穂 義 昭
	折 居 憲 司
	片 平 幸 子
	河 野 純 子
	河 野 美 雪
	岸 川 彰 美
	工 藤 侃 一
	鯉 川 弘 宣
坂 井 保 幸	

所 属 先	氏 名	所 属 先	氏 名
福岡市体育指導員協議会	佐々木 一人	熊本県教育庁	森 山 秀 生
	貞 方 量 子	ミズノ	佐 藤 雅 宏
	佐 藤 薫	博報堂 DY メディアパートナーズ	中 山 裕 章
	佐 藤 洋 子		野 口 美 恵
	島 雄 潤 子		大 崎 明 美
	下 村 敦 子	東京オリンピック・パラリンピック招致本部	川 田 秀 孝
	末 永 忠	福岡県教育庁体育スポーツ健康課	中 山 純 治
	高 野 征 男	福岡市スポーツ振興事業団	白 川 詔 子
	藤 堂 涼 子		西 嶋 善 博
	西 村 光 正	道路下水道局建設調整課	上 薄 浩 二
	杷 野 吉 親	保健福祉局保険年金課	佐 藤 裕
	平 木 幸 子	東区企画振興課	古 籾 直 樹
	平 田 尚 子	博多区地域振興課	大 野 康 光
	平 野 文 子	中央区地域振興・支援課	松 田 進
	藤 瀬 初 子		鉄 屋 善 彦
	船 越 昭 弘		高 木 郁 子
	細 川 浩		山 崎 武 文
	本 田 稔 子	南区企画振興課	吉 田 哲 也
	松 井 正 博	城南区区政推進部地域振興課	中牟田 信 孝
	松 本 和 彦		石 橋 正 直
	水 崎 勉		中 井 進 一
	水 田 一 明	早良区地域振興課	船 越 竜 一
	村 上 秀 幸		岡 田 竜 輔
	村 上 美 知		浅 地 秀 彦
	村 山 道 雄	西区地域振興課	吉 田 好 廣
	森 芳 興		大 塚 史 朗
	安河内 幸 子	西区地域支援課	藤 島 昌 徳
	山 田 晃 爾	JOC 事務局	山 本 佳 代 子
	山 田 正 道	福岡市市民局	秋 葉 将 秀
	山 田 貴 子		阿 部 亨
	大 和 憲 治	福岡市市民局スポーツ部	川 島 秀 雄
	横 山 憲 治	福岡市市民局スポーツ事業課	久木原 哲 雄
	吉 村 田 津 子		村 田 敏 浩
中央区体育振興会	杷 野 吉 親		副 田 武
	内 林 潤 一		伊勢川 幸 満
	有 菌 靖 子		田 中 俊
兵庫県教育委員会事務局 スポーツ振興課	八 木 康 文	岩 尾 彰 子	
	野 村 眞 一		



# 3 第6回スポーツと環境担当者会議開催報告

## Report of the 6th National Sports Federations Conference on Sport and Environment

### ■開催概要

1. 趣 旨：スポーツと環境に関する啓発・実践活動の理解と、関係団体及び多くの関係者との環境保全について相互の連携、活動の推進を図るために標記会議を開催した。
2. 主 催：(財)日本オリンピック委員会
3. 後 援：文部科学省、環境省、(財)日本体育協会
4. 日 時：平成21年11月20日（金）10：00～12：30
5. 場 所：味の素ナショナルトレーニングセンター 1階 大研修室
6. 出席範囲：①本会役員、スポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー  
②本会加盟団体環境担当者  
③JOC パートナー企業／ワールドワイドパートナー 計 約90名
7. プログラム：テーマ「スポーツの力を変革に活かす」

10：00	開会挨拶 (財)日本オリンピック委員会副会長 水野正人
10：05	JOCのスポーツと環境保全・啓発活動について (財)日本オリンピック委員会スポーツ環境専門委員長 板橋一太
10：20	環境省との連携について 環境省地球環境局温暖化対策課国民生活対策室長 小森 繁
10：35	スポーツと環境の今後について IOCスポーツと環境委員 水野正人
11：00	「スポーツ関係環境技術の紹介」について ◇大会運営における紙の削減について (財)日本水泳連盟会長 佐野和夫 ◇温暖化防止と芝生について (特非)日本芝草研究開発機構事務局長 神田 功 ◇砂入り人工芝について (社)日本テニス事業協会事務局長 加藤 潤 ◇温度上昇の対策について(ペンキ塗装) 日本特殊塗料(株)開発本部第一技術部技術三課 三好章夫 ◇トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会 JOCパートナー都市 横浜市環境創造局環境科学研究所課長補佐 石井 彰
12：00	質疑応答
12：25	閉会挨拶 (財)日本オリンピック委員会スポーツ環境専門委員長 板橋一太
12：30	終了

## ■ 会議概要

日本オリンピック委員会（JOC）は11月20日、東京都北区の味の素ナショナルトレーニングセンターで、第6回スポーツと環境担当者会議を開催した。JOC 役員、スポーツ環境専門委員、スポーツ環境アンバサダー、JOC 加盟競技団体環境担当者、JOC オフィシャルパートナーなど約90名が出席。「スポーツの力を変革に活かす」をテーマに意見交換を行った。

最初は、JOC のスポーツと環境保全・啓発活動について、板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員長が報告。各競技団体の役員がバナーやポスターと写った写真をお願いしたい。また選手が環境のバナーを持った写真も、啓発につながるのをお願いしたい。「各競技団体のプログラムに環境ポスターを掲載するようお願いしているが、まだ57%。もっと充実させる必要がある」と話した。

環境省からは、小森繁・地球環境局温暖化対策課国民生活対策室長が参加。環境省とスポーツ界との連携について、チームマイナス6%の取り組みを報告。「2012年までに国民の6%630万人の参加を目指しているが2009年11月17日現在で321万人と3万3000団体が参加。いい推移をしている」という。「1人1人の取り組みを深めていくためにも、各競技団体には普及啓発にご協力いただきたい」と呼びかけた。

水野正人 IOC スポーツと環境委員（副会長）は「スポーツと環境の今後について」と題し講演。2009年のバンクーバー世界会議で提唱された「持続可能なスポーツとスポーツイベントの道具箱（SSET）」という言葉を紹介し、「持続可能なスポーツのために、宿泊、会場立地、コピー用紙の削減、公共交通の利用、ハイブリットカーの導入などの具体的な戦略を持つことが大切」と訴えた。

また各現場からの取り組みについて、「スポーツ関係環境技術の紹介」として次の事例が報告された。

①日本水泳連盟からは佐野和夫会長が、大会運営における紙の削減について説明。「選手のスタートリストや試合結果などの用紙を配布せずに、すべてウェブを通じてリリースすることで、年間195万6100枚のA3用紙を節約できた。これは植林木150本に相当す



る」と話し、今後は地域大会でも用紙削減の取り組みを行いたいと話した。

②温暖化防止と芝生について、神田功・日本芝草研究開発機構事務局長がゴルフ場の持つ環境効果について説明。「手付かずの自然は樹木が老齢化すると二酸化炭素の吸収が下がっていく。ゴルフ場では頻繁に芝生を刈り入れしているため、二酸化炭素を吸収する能力が高く、手付かずの自然のまま放置するよりも環境効果が高い」と報告した。

③人工芝のリサイクルについて、加藤潤・日本テニス事業協会事務局長が説明。テニスコートの人工芝の寿命は約7年だが、砂が入り込んで再利用できなくなるため、産業廃棄物として埋め立ててきた。だが、砂と人工芝を分離して資源として活用する特殊装置が開発され、活用が始められている。「産業廃棄物の埋め立て地にも限界が来ている。特殊装置を使って人工芝と砂を分離することで、リサイクルが可能だ」と説明。その特殊装置を積んだ4tトラックを会場まで運び込み、説得力のある報告を行った。

④ペンキ塗装による温度上昇の対策について、日本特殊塗料（株）の三好章夫氏が説明。高反射率塗料を建物の壁や屋根、屋上などに使うことで、温度上昇を抑制。「会社の社宅で実験したところ、一般塗装に比べ2～3度の温度低減効果が確認された。ヒートアイランド対策になる」と話した。

⑤トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会について、石井彰・横浜市環境創造局環境科学研究所課長補佐が説明。「水質や海底の状況など細かい条件をクリアしなければならず、きれいな海作りを実行した」という。赤潮の対策として、海にスクリーンを張ることで水平方向透明度5mを実現し、大会を成功に収めた事例を紹介した。

最後は板橋専門委員長が「スポーツの力を変革に活かしましょう」と宣言し、熱い議論を締めくくった。



人工芝と砂を分離する特殊装置が披露された

## ■出席者一覧

敬称略・順不同 平成21年11月20日現在

所属先	出席者名
日本オリンピック委員会	水野正人
	木村興治
	板橋一太
	荒木田裕子
	尾崎正則
	藤原庸介
	佐野和夫
	浅草和敏
	風間明
	鎌賀秀夫
	橋爪功
	平松純子
	原田早穂
	中村淳子
	日本水泳連盟
丸笹公一郎	
全日本スキー連盟	小川知伸
	宮沢賢一
日本テニス協会	生沼明人
	田中章一
日本ボート協会	清水一巳
日本アマチュアボクシング連盟	立川武雄
日本バレーボール協会	西部卓志
	斎藤聖二
日本バスケットボール協会	松岡憲四郎
日本セーリング連盟	青山篤
日本ハンドボール協会	兼子真
	家永昌樹
	羽田裕一
日本自転車競技連盟	大池新次
日本ソフトテニス連盟	柳下秋久
日本卓球協会	小川敏夫
	後藤広子
全日本軟式野球連盟	大山則夫
	熱海奈津美
日本相撲連盟	嶋勝秀
日本馬術連盟	大波多廣一
	飯田悟
日本フェンシング協会	藤原義和
全日本柔道連盟	前田徳重
日本ソフトボール協会	鈴木征
日本バドミントン協会	本多修治

所属先	出席者名
全日本弓道連盟	戸部孝仁
日本ライフル射撃協会	塚越ゆかり
全日本剣道連盟	小川俊夫
日本近代五種・バイアスロン連合	坂野勝
日本ラグビーフットボール協会	高野敬一郎
	長谷川茂
日本山岳協会	松隈豊
日本カヌー連盟	山口徹正
日本アイスホッケー連盟	建部彰弘
全日本ボウリング協会	鈴木信吾
全日本アマチュア野球連盟	柴田穰
日本スポーツ芸術協会	村瀬弘行
	相原茂明
日本武術太極拳連盟	東嶋健一
日本トライアスロン連合	鈴木信之
	松生治子
日本ビリヤード協会	上村祐太
日本ボディビル連盟	磯野武夫
	小西康道
日本ダンススポーツ連盟	鴻巣久枝
日本セパタクロー協会	三澤勝
アトスオリジン	星みどり
	渡辺麻衣子
環境省	松本行央
日本テニス事業協会	小澤久雄
日本特殊塗料	鈴木仁
横浜市	宮崎三美
2009横浜国際トライアスロン大会等実行委員会	大久保拳志
博報堂	酒井達朗
	榎本芳久
キュー	五十嵐勇太郎
博報堂 DY メディアパートナーズ	川廷昌弘
	中山裕章
	大崎暁美
	野口美恵
一季出版	喜田任紀
フォート・キシモト	米岡伸剛
JOC 事務局	阿部幹雄
	山本佳代子
	秋葉将秀
	山崎貴子

# 4 スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

## Issues regarding awareness and implementation activities

### (1) スポーツ環境専門委員・アンバサダーの活動

田嶋幸三副委員長〈(財)日本サッカー協会〉……………	85
佐野和夫副委員長〈(財)日本水泳連盟〉……………	87
浅草和敏委員〈(財)日本バレーボール協会〉……………	89
風間 明委員〈(財)日本陸上競技連盟〉……………	90
鎌賀秀夫委員〈(財)日本レスリング協会〉……………	92
橋爪 功委員〈(財)日本テニス協会〉……………	94
平松純子委員〈(財)日本スケート連盟〉……………	95
村里敏彰委員〈(財)日本スキー連盟〉……………	97
森末慎二委員〈(財)日本体操協会〉……………	98
山口 香委員〈(財)全日本柔道連盟〉……………	99
松岡修造委員〈スポーツ環境委員・アンバサダー〉……	101
中村淳子委員〈スポーツ環境アンバサダー〉……………	102

### (2) 各競技団体等の活動

(社)日本ボート協会……………	103	(財)日本バドミントン協会……………	116
(社)日本ホッケー協会……………	103	(社)日本ライフル射撃協会……………	116
(財)日本バスケットボール協会……………	104	(財)日本ラグビーフットボール協会……………	117
(財)日本アイスホッケー連盟……………	104	(社)日本山岳協会……………	118
(財)日本セーリング連盟……………	105	(財)全日本ボウリング協会……………	119
(社)日本ウエイトリフティング協会……………	109	日本ボブスレー・リュージュ連盟……………	120
(財)日本ハンドボール協会……………	110	全日本アマチュア野球連盟……………	121
(財)日本自転車競技連盟……………	111	(社)日本カーリング協会……………	122
(財)日本ソフトテニス連盟……………	111	(社)日本トライアスロン連合……………	122
(財)日本卓球協会……………	112	(社)日本スカッシュ協会……………	123
(財)全日本軟式野球連盟……………	113	(社)日本ボディビル連盟……………	124
(社)日本馬術連盟……………	113	日本カバディ協会……………	124
(社)日本フェンシング協会……………	114	日本セパタクロー協会……………	125
(財)全日本柔道連盟……………	115		

### (3) (特非) 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動……………127

## (1) スポーツ環境専門委員の活動

Activities of the member of JOC Sport and Environment Commission

### 田嶋幸三 副委員長

(財)日本サッカー協会専務理事／環境プロジェクト・リーダー

日本サッカー協会では、従来活動の継続とともに、「チーム・マイナス6%」から「チャレンジ25キャンペーン」への登録を実施した。以下にJFAの活動、Jクラブの活動を報告する。

#### ◇ Jリーグ

「Jリーグ百年構想」に向けて活動する中で、ゴミ分別回収やホームタウン清掃など環境面の取り組みを継続した。新たな取り組みを開始するクラブも多く、活発に取り組みを実施している。

#### 〈クラブ・トピックス〉

アルビレックス新潟	「クールアース・デー記念 みんなで、エコ・チャレンジ！」(2009年6月)
ヴィッセル神戸	「楽天×ヴィッセル神戸 エコプロジェクト」床発電システム導入等の実施(2009年3月)
FC東京 川崎フロンターレ	「多摩川エコクラシコ」(多摩川の河川敷における清掃活動)の実施(2009年7月)
鹿島アントラーズ	「鹿島アントラーズ・エコプログラム～みんなで集めた食用油で、チームトラックを動かそうプロジェクト～」の実施(2009年5月) ※「COOL BIZ OF THE YEAR 2009」部門賞を受賞(2009年11月)
名古屋グランパス	「街をきれいに、街を笑顔に。」ホームタウンみんなで清掃プロジェクト in NAGOYA(2009年4月)
ベガルタ仙台	「第5回環境保全米シポジウム～まるごと食べよう環境保全米～」への協力(2010年1月)

#### ◇ JFA

- ① 国連グローバル・コンパクトにスポーツ団体として初の署名(2009年7月7日)
  - ・「人権」「労働基準」「環境」「腐敗防止」への自発的取り組みを行うもの
- ② 環境プロジェクト
  - ・環境負荷調査(2009年10月に実施した日本代表戦3試合の環境負荷把握の為の調査)
  - ・海外スタジアム環境調査(イングランド・ドイツ等海外主要スタジアムの設備等の調査)
- ③ JFA グリーンプロジェクト
  - ・全国に芝生の校庭やグラウンドが広がる活動を応援
  - ・「ポット苗方式芝生化モデル事業」(芝生の苗を全国49か所に無償提供。計157,000㎡を芝生化)
- ④ 「チーム・マイナス6%」／「チャレンジ25キャンペーン」
  - ・JFAハウスでのペットボトルキャップ回収活動により、50,640個を回収(2008年9月～)

- ・システム環境の改善（サーバー交換時）において仮想化技術の採用により省電力化、効率化を実施

⑤クリーンサポーター活動

〈通算活動実績〉開催回数（116試合）－参加人数（16,559名）

年度	実施回数	参加人数（人）			
		合計	平均	最大	該当競技会
2006年	15	2,044	136.3	296	AFC アジアカップ2007予選大会（日本代表対イエメン戦）
2007年	18	1,850	102.8	174	キリンチャレンジカップ2008（日本代表対チリ代表）
2008年	18	2,985	165.8	388	キリンカップ2008（日本代表対コートジボワール代表）
2009年	22	3,298	149.9	368	キリンチャレンジカップ2008（日本代表対スコットランド代表）

## 佐野和夫 副委員長

(財)日本水泳連盟会長／スポーツ環境委員長

財団法人日本水泳連盟では、スポーツ団体が取り組むことのできる環境活動の重要性を認識し、また自然に深く関わる競技ならではの視点から環境問題を身近に捉え、継続的活動を積極的に行うとともに、活動の輪を競技レベルから普及レベルにまで広げてきた。今後も(財)日本水泳連盟、(社)日本スイミングクラブ協会、(社)日本マスターズ水泳協会の水泳3団体だけの活動に止まらず、新しい環境活動の方向性を日本国内、ひいては全世界に発信していけるような役割を担っていきたいと考えている。

### [ I ] 2009年度競技会における環境活動

#### (1)大会運営における紙の削減について

〈従来〉

- ・日本水泳連盟では競技会ごとの結果(リザルト)を、役員、選手、マスコミ、また希望したチームへ、紙に印刷して配布。
- ・2004年度、SEIKO社の協力を得て公式競技結果のホームページでの公開を開始  
⇒リザルト用紙の配布を縮小。
- ・2008年8月には、携帯電話でのレース速報配信も実現。  
⇒紙の削減、年間約189万枚以上。

〈現在〉

- ・登録・エントリーから記録・結果までの電算化
- ・ホームページや競技会場内スクリーン等の積極的活用など  
⇒日本水泳連盟での紙の削減合計 年間約195万6,100枚以上
- ※日本製紙グループホームページより  
『収穫時の植林木の大きさを高さ20m、直径20cmと仮定して計算すると、1本の植林木から約13,000枚のA4コピー用紙ができる』  
このことから、195万6,100枚の削減＝植林木の約150本分の削減

この日本水泳連盟での紙の削減対策は、2010年2月17日付け「朝日新聞」にも掲載され、大きな反響を呼んだ。スポーツ団体として取り組むことのできる新しい環境活動を提言していくことの重要性を再確認することができた。

#### (2)エココンテストの実施(日本水泳連盟、日本マスターズ水泳協会、日本スイミングクラブ協会共催)

平成21年度「第1回全国水泳チーム・クラブ環境活動コンテスト」表彰式

(2009年6月4日ジャパンオープン2009(東京辰巳国際水泳場)時)

グランプリ受賞 林水泳教室(神奈川県)

準グランプリ受賞 スポーツプラザ報徳(神奈川県)

埼玉スウィンスイミングスクール(埼玉県)

※コンテストは初回ということもあり、応募団体は約30団体であったが、非常にレ

ベルの高いコンテストとなり、関係者の意識付けに大変有意義であった。  
また、本年度は「第2回エココンテスト ECO スローガン募集」を実施し、「ジャパンオープン2010」(2010年6月東京辰巳国際水泳場)での表彰を予定。

(3)看板やバナーの Reuse

〈従来〉

看板・バナー；大会毎作成 ⇒ 廃棄

〈現在〉

看板・バナー；リユース ⇒ 他大会で再利用

焼却しても有害ガスの出ない素材を用いた看板や会場装飾用のバナーを作成、日本水泳連盟主催競技会(競泳・飛込・水球・シンクロ)において、大会毎に大会ロゴやスポンサーロゴ部分のみを入れ替え、再利用=リユースした。

[Ⅱ]2010年度競技会他における環境活動アクションプラン

(1)大会運営における紙の削減について

日本水泳連盟に加盟している47都道府県水泳連盟(協会)主催大会(約1,500大会)において、同等の削減対策を実施。

日本水泳連盟主催1大会における平均削減枚数；約21万7,350枚

⇒ 各加盟団体主催大会における平均削減枚数；約15万枚

⇒ 約2億2,500万枚/年 削減

⇒ 植林木約17,000本の伐採からの救済

継続的 Reduce

(2)オープンウォータースイミング(OWS)における環境活動の推進

本種目は、2008年北京より正式オリンピック種目となり特に自然に関わる。

日本水泳連盟 OWS 委員会活動

①毎年 OWS ジャパンオープン館山大会時、参加者と海浜清掃

②「地球を泳ごう」「地球で泳ごう」スローガンを掲げての積極的活動参加

③自然との一体化を目指したエコチャレンジ

④マングローブの植林やサンゴの種付けなどを行う団体への寄付活動 他

(3)日本水泳連盟としての活動の幅の拡充

〈従来〉

競泳競技中心の環境活動

〈今後〉

5種目合同(飛込、水球、シンクロ、オープンウォーター、日本泳法)の日本水泳連盟としての特色を生かした幅広い活動の実践

①全種目での紙削減対策

；ホームページ利用の情報発信、モバイルでの速報サービス等、各種目において実践

②日本水泳連盟公式マスコット「ばちやぼ」、岩崎恭子氏(競泳)、原田早穂(シンクロ)氏が務めるスポーツ環境アンバサダーによる、子供たちや参加者、観客へ向けた環境問題への啓発活動実施。

以上



## 浅草和敏 委員

(財)日本バレーボール協会執行役員／環境委員会委員長

日本バレーボール協会では業務推進事業本部の主要事業のひとつに、環境問題啓発活動の促進を挙げて、JOC スポーツ環境委員会の環境基本理念と行動指針を全面的に支持して協力し、地球環境の保全に貢献することとしている。これを受けて環境委員会は、JOC スポーツ環境専門委員会事業に積極的に参加する中で、日本バレーボール協会が主催して国内で開催する国際大会と国内競技会において、『CO<sub>2</sub>削減にみんなが手を挙げれば 温暖化はブロックできる』のメッセージを発信して、積極的に環境に関する啓発と実践活動を継続して実施している。

### 1. 協会主催の全日本バレーボール大会における啓発・実践活動について

日本バレーボール協会主催の全国大会は、小学生から中学、高校、大学、実業団、クラブ、家庭婦人に到る全カテゴリーで、9人制バレーボール大会が12大会、6人制バレーボール大会が23大会開催されている。北は北海道から南は九州・沖縄に到るすべての全国大会において、大会会場へのメッセージバナーの掲出と、大会プログラムへの環境記事掲載を励行し、大会会場における選手、役員、観客への啓発活動を行った。大会を主管する開催地では、協会評議員として予め指名を受けている環境推進委員を主体に、資源とゴミの分別収集や紙コップの記名使用によるリユース等の3Rの実践に積極的に取り組んでいることから、全国各地で着実にこの地道な実践活動が定着してきている。

### 2. 日本ビーチバレー連盟による「海辺を守ろう！運動」について

日本ビーチバレー連盟は、単独では『海面上昇で砂浜が消える 温暖化は私たちのコートを奪う』のメッセージバナーを以って活動すると共に、NPO 法人日本ビーチ文化振興協会と協働して、世界的な地球温暖化による海面上昇や漂流ゴミ等の海辺の環境問題を取り上げて、海辺環境再生プロジェクトとして「海辺を守ろう！運動」～守ろう！創ろう！育てよう！～を展開し、海辺環境を守ってスポーツやレクリエーション、癒しの場として海辺利活用を推進して地域活性化活動に貢献している。

この運動は、日本バレーボール協会のビーチバレー種目オリンピック強化選手のトップアスリートや人気アスリートが、バナー掲出の会場で活動宣言して運動の啓蒙と盛り上げを図り、トップ・人気ビーチアスリートが“ゴミバスター”と称して試合の合い間に海辺のゴミ拾いをしているので、ファンや観客が自然にこれに加わって実践活動の成果を得ている。

この運動の対象大会は、「第4回ビーチライフ in 新舞子」(新舞子マリンパーク)、「第4回ビーチライフ in お台場」(お台場海浜公園)、「第2回ビーチライフ in 渋川」(玉野市渋川海岸)の3大会で、各大会それぞれに大会会場の最寄り駅や開催地区及び公立施設へのポスター掲示をすると共に、事前に自治体の協力を得て市内の会場近隣学校へパンフレットを配布するなどのPRに努めて、大会参加の延べ人数は28,000人の盛況であった。

また、この運動の一環として「ビーチライフ in」シリーズ大会において、海辺で最も多く出るゴミのペットボトルのキャップを回収し、エコベンチ(キャップ約13,600個で二人掛けのベンチ)を再加工して小学校や児童館等の公共施設に寄贈する地域貢献活動も行っている。

## 風間 明 委員

(財)日本陸上競技連盟環境委員

(財)日本陸上競技連盟は本年も地球温暖化防止を推進する一つとして、JAAF グリーンプロジェクトの環境保全活動を継続し、当連盟の主催する各種陸上競技大会において、植樹とチームマイナス6%の会員募集を中心とした活動を実施した。

本年はJAAF グリーンプロジェクトの横断幕を作成し、各主催大会で掲出し環境保全環境の啓蒙活動を行った他、小学生を対象にしたキッズアスリートプロジェクト・夢の陸上キャラバン隊で環境保全啓蒙活動を新たにスタートし、より良い地球環境の中で競技大会を開催するとともに、将来のスポーツ界が地球環境の変化による競技会が中止されるようなことのないよう啓蒙を行った。

東京マラソンではエキスポ2010で、環境省の推進しているチャレンジ25のチャレンジ宣言募集を行った。

今後も環境保全の啓蒙を行っていく。

### ◎平成21年度 JAAF グリーンプロジェクト実施結果

#### 1. 長野マラソン 4月19日(日)長野市

植樹、チームマイナス6%会員募集222名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

◎4月にJAAF 専用環境横断幕の作成し競技場に掲出した

◎主管地域陸協に環境保全活動の協力を依頼し、活動の重要性を認識してもらった

#### 2. 第93回日本陸上競技選手権大会 6月26日(金)~28日(日)広島市

植樹、チームマイナス6%会員募集309名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 3. 第25回全国小学生陸上競技交流大会 8月28日(金)~29日(土)横浜市

◎JAAF グリーンプロジェクト花の種の配布を始めた。

チームマイナス6%会員募集315名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 4. スーパー陸上競技大会2009川崎 9月23日(水・祝日)川崎市

チームマイナス6%会員募集201名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 5. 第64回国民体育大会トキめき新潟大会 10月2日(金)~4日(日)新潟市

植樹、チームマイナス6%会員募集408名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 6. 第5回日本ジュニア・第3回ユース陸上競技選手権大会

10月16日(金)~18日(日)甲府市

チームマイナス6%会員募集187名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 7. 第40回ジュニアオリンピック陸上競技大会、第93回日本陸上競技選手権リレー大会

10月22日(木)~25日(日)横浜市

チームマイナス6%会員募集368名、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

#### 8. キッズアスリートプロジェクト 11月4日(水)岩手、11月20日(金)高知

陸連環境アンバサダー瀬古利彦レクチャー

#### 9. 横浜国際女子マラソン 11月15日(日)横浜市

チームマイナス6%会員募集224名、花の種配布、環境横断幕、環境ポスター、募金活動

10. 都道府県対抗女子駅伝大会 平成22年1月16日（日）京都市  
植樹、環境横断幕、環境ポスター、花の種と陸連グリーンプロジェクト趣旨配布、募金活動
11. 都道府県対抗男子駅伝大会 平成22年1月24日（日）広島市  
植樹、環境横断幕、環境ポスター、花の種と陸連グリーンプロジェクト趣旨配布、募金活動
12. 東京マラソン2010EXPO 平成22年2月25日～27日（土）東京都  
チャレンジ25チャレンジ宣言募集1,614名  
チャレンジ25パネル、幟、陸連環境活動パネル、映像放映、環境ポスター、花の種と陸連グリーンプロジェクト趣旨配布、総務委員会プロトコール部員1名支援、陸連公式メールマガジン会員募集活動
13. びわ湖毎日マラソン大会 平成22年3月7日（日）

**環境保全活動（植樹・チャレンジ宣言者募集）**

大会名	実施日	場所	植樹	チームマイナス6%募集
長野マラソン	4月19日	長野	○	222件
日本陸上競技選手権大会	6月26～28日	広島	○	309件
全国小学生陸上交流大会	8月28～29日	横浜		315件
スーパー陸上	9月23日	川崎		201件
国民体育大会	10月2～4日	新潟	○	408件
日本ジュニア・ユース選手権大会	10月16日	甲府		187件
ジュニアオリンピック競技大会	10月24～25日	横浜		368件
キッズアスリートプロジェクト	全国9会場			
横浜国際女子マラソン	11月15日	横浜		224件
全国都道府県女子駅伝	22年1月17日	京都	○	花の種配布
全国都道府県男子駅伝	22年1月24日	広島	○	花の種配布
東京マラソン EXPO	2月25～27日	東京		チャレンジ25 1614件
びわ湖毎日マラソン	3月7日	滋賀	○	チャレンジ25 35件

## 鎌賀秀夫 委員

(財)日本レスリング協会スポーツ環境委員長

### 1. 会場における環境保全啓発活動

	競技会名／開催地	開催日	参加数	備考
1	平成21年度 全日本女子選手権大会 東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園 総合運動場体育館	平成21年 4月4日～5日	160団体 511名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
2	JOC ジュニアオリンピックカップ 2009年度全日本ジュニア選手権大会 神奈川県横浜市・文化体育館	平成21年 4月22日～23日	1,180名	横断幕、ポスター掲示
3	アムール・ティムール 国際クラッシュトーナメント ウズベキスタン共和国・テルメズ市	平成21年 4月8日～11日		
4	沼尻杯 全国中学生選手権大会 茨城県水戸市・県立スポーツセンター	平成21年 6月13日～14日	467名	横断幕、ポスター掲示
5	第26回全国少年少女選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場 第一体育館	平成21年 7月24日～26日	175クラブ 1,307名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示 パンフレットの配布
6	第14回関東幼児会 千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館	平成21年 8月23日	18クラブ 83名	横断幕、ポスター掲示
7	平成22年度 第27回全国少年少女選手権大会 大会実行委員会打ち合わせ 広島県広島市・広島サンアリーナ会議室	平成21年 9月5日	23名	ポスター掲示
8	第64回国民体育大会・トキめき新潟国体 新潟県・新潟市白根カルチャーセンター	平成21年 9月27日～30日		横断幕、ポスター掲示 パンフレット・報告書の 配布
9	第3回アジアインドゲームズ (競技数：24競技219種目) ベトナム社会主義共和国 ハノイ市・ホーチミン市	平成21年 10月30日～11月8日	12種目130名 (日本選手団)	
10	天皇陛下御在位20周年記念 天皇杯 平成21年度全日本選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木競技場 第二体育館	平成21年 12月21日～23日	295名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
11	第23回少年少女レスリング選手権大会 東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦 東京都新宿区・スポーツ会館	平成22年 2月11日	32クラブ 309名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示
12	第14回全国少年少女選抜東京大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念 青少年総合センター	平成22年 3月6日～7日	111クラブ 419名	横断幕、プログラム掲載 ポスター掲示

## 2. 機関誌・大会プログラムでの啓発活動

	大会プログラムに掲載した競技会
1	平成21年度全日本女子選手権大会
2	平成20年度全日本選抜選手権大会
3	第26回全国少年少女選手権大会
4	天皇杯平成21年度全日本選手権大会
5	第23回少年少女レスリング選手権大会
6	第14回全国少年少女選抜大会

※協会機関誌、春、夏、秋、冬号へ掲載

## 3. 「日本レスリング協会」スポーツ環境委員会名簿

	氏名	所属
委員長	鎌賀 秀夫	全国少年少女連盟
委員	木名瀬重夫	全日本女子連盟
委員	真田 栄作	高校体育連盟専門部
委員	本田原 明	日本社会人連盟
委員	白井 正良	全国少年少女連盟
委員	吉澤 昌	日本格闘競技連盟
委員	関 貴史	全日本学生連盟

## 4. 平成21年度のまとめ

本年度は、日本協会の各傘下団体から委員を選出してもらい、各委員と協力し環境保全・啓発活動を推進してきた。協会が主催する大会に加え、協会の傘下団体が主催する大会での啓発活動へと広がっているが、団体毎の活動のみで組織的に活動ができず、反省する部分も見受けられた。また、個人的には、海外遠征に際し、ポスターなどを持参し、日本の環境についての活動内容をアピールした。

来年度に向けて、現在行っている通常の啓発活動に加え、委員会内で各競技団体の活動内容と当協会の活動内容を比較、検討したうえで、できることを年間の目標として定め組織的に活動して行こうと思う。

## 橋爪 功 委員

(財)日本テニス協会スポーツ環境委員長

テニス協会にスポーツ環境委員会が設立されてから5年目に入り、多少の差はあっても、社会的な地球温暖化への関心の高まりも追い風となり、テニス界における環境保全活動は全国的に前進してきた。

### 1. テニス界における環境保全の啓発・活動

- (1)JTA 主催14大会をはじめ、コーチーズカンファレンス、修造チャレンジや地域のジュニア大会で環境バナーやポスターの掲出、写真撮影を実施した。
- (2)「テニスの日」の全国共同イベントとして、47都道府県の会場で「クリーンアップ大作戦」をスタッフと参加者が一体となって実施した。
- (3)松岡修造プロの協力による心の環境ポスターを500枚制作し、47都道府県で約250枚、JTA 主催大会や公営コートで約250枚を掲出した。このポスターは好評なので来年度も増刷して活用する予定。
- (4)懸案であった「テニス de エコ」環境チェックシートは、原案がまとまり大会やイベントでの実施の実現に向けて、関係する委員会との調整をはじめた。

### 2. 環境保全のための協働

- (1)都道府県テニス協会との連携では、テニスの日の「クリーンアップ大作戦」や「心の環境ポスター」、「環境だより」を軸にして進めた。今後は双方向での発信と交流が課題である。
- (2)JOC 主催の「スポーツ環境委員会」、「地域セミナー」、「スポーツ環境担当者会議」などに各担当者が積極的に参加し、情報の共有と交流を深めることができた。「スポーツ環境委員会」での各競技団体の活動は参考になることが多いので、関係委員会とスタッフに報告している。
- (3)NPO グローバルスポーツアライアンスとの協働を進めるために、JTA 主催14大会でのエコフラッグの掲出、9地域テニス協会へのエコフラッグの配布、使用済みテニスボールのリユースでの協力を進めた。

### 3. 今後の課題

従来の活動に加え、テニス界全体での創造的で継続的な3R活動の展開

## 平松純子 委員

(財)日本スケート連盟フィギュア委員

(財)日本スケート連盟にスポーツ環境委員会の組織が立ち上がってから6シーズンが経過しました。

昨シーズンも、主要国内大会や、日本国内で行われた国際競技大会にスポーツ環境担当委員を設けよりきめ細かい啓発、実践活動に努めました。

### ●主要国内大会

(スピード)

第16回全日本スピード距離別選手権大会

バンクーバーオリンピックスピード日本代表選手選考競技会

第78回全日本スピード選手権大会

第33回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会

第20回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会

第33回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会

(フィギュア)

第35回西日本フィギュアスケート選手権大会

JOC ジュニアオリンピックカップ

第78回全日本ジュニアフィギュアスケート選手権大会、第78回全日本フィギュアスケート選手権大会

### ●日本開催国際大会

(スピード)

2010世界オールラウンドスピード選手権大会アジア地区予選会

2010アジアスピードスケート距離別選手権大会帯広大会

2010アジアショートトラックスピードスケート選手権大会

相模原大会

(フィギュア)

2009NHK 杯国際フィギュアスケート競技大会

2009～10シーズン ISU グランプリファイナル

国際フィギュアスケート競技大会

上記大会の各会場で、スポーツ環境ポスターの掲示を行いました。

今期、新しい試みとして、全国よりフィギュア審判員が集まる2009年度日本スケート連盟審判員講習会で“スポーツと環境”についてのレクチャーを行いました。今後も毎年、この

講習会でレクチャーを行い、スポーツと環境についての啓蒙運動を続けていきたいと思っています。

又、3Rの推進では、

- リデュース エネルギーや資源を大切にするため、大会でも電力消費量、印刷物の削減、プロトコールなどのDVD化などを実施して紙の使用量を減らす事につとめました。
- リユース 紙の再利用、競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再使用することなどを促しました。
- リサイクル ごみの分別の徹底により新しい資源を生み出す事への手助けの推進をおこないました。

今後の課題、目標としてスケート連盟の全員がスポーツと環境問題、保全に対してより積極的に取り組んでいきたいと思っています。





## 村里敏彰 委員

(財)全日本スキー連盟常務理事／スポーツ環境委員長

私達スキー関係者は、地球温暖化や自然環境に関していつも敏感であり、率先して環境保全に関わり活動していかなければならないと考えている。近年、雪不足や天候異常でスキー大会やスキー行事の中止や延期等余技されることが増えてきており、温暖化や異常気象は私達スキーヤーを悩ませている。雪上で楽しく有意義に過ごすために、雪上環境を守って行く義務を私達スキー関係者は課せられていると強く認識している。

スキー連盟としては、会員の全てがチームマイナス6%へ加入し、お互い環境保全の意識を高めるようにしている。また、「I Love Snow キャンペーン」は5年目を迎え、「雪を通じた感動体験の共有」、「親子の絆を深める機会の提供」、「自然に対する感謝を表す活動」、「健康や楽しみを得るための機会の提供」の四つのキーワードを掲げ、更に具体的な啓発活動を行っている。

今季は特に「自然に対する感謝の気持ちを表す活動」としての「I Love Snow エコ・アクション」を始動させた。現実の問題として、温暖化が進むと私達スキーヤーやスノーボーダーが、スノースポーツを楽しめなくなる。自然を、そして雪を守ることを出来ることからひとつひとつ行おうという趣旨である。具体的には、「I Love Snow エコ・アクション」のロゴマークを作成し、そのマグネットを販売し、一個につきCO<sub>2</sub> 100kgをニュージーランドの森林管理プロジェクトの植林事業（京都クレジット）にて植樹しオフセットする。小さなことから形にして、スキーヤー皆でエコアクションの芽を出し、育てて行こうという想いで進めている。またエコアクションの一環として「スポーツゴミ拾い大会」を開催して、自然環境保護の対する意識を高める啓蒙活動を行った。このような活動がスキー連盟の加盟団体・クラブが独自に植樹やゴミ拾いの等マウンテンクリーン活動も開催するようになってきている。[www.ilovesnow.jp](http://www.ilovesnow.jp) で詳細活動をご覧頂きたい。

具体的な活動は以下のとおりである。

1. 会員に対するチームマイナス6%への加入促進活動
2. 「I Love Snow」キャンペーンの展開
  - ・ キャンペーングッズの販売による環境保全に関する啓蒙活動
  - ・ 雪上イベントを開催し、参加者・マスメディアへの環境保全メッセージの発信
  - ・ エコ活動に注視した「I Love Snow エコ・アクション」を展開
    - ゴミ拾いイベントを開催し、最後に雪上人文字で環境保全メッセージの発信
    - エコマグネット販売によるカーボンオフセット
  - ・ ホームページを活用し、選手から自然との共生メッセージを発信
  - ・ キャンペーンオフィシャルテーマソングによる若者への環境メッセージの発信
  - ・ スキーマーケット活性化につながるイベントに出展し、一般スキーヤーへの環境保全に関する啓蒙活動
  - ・ 大会ゼッケンへのキャンペーンロゴ掲示による環境保全メッセージの発信

## 森末慎二 委員

(財)日本体操協会環境委員長

日本体操協会では、前年度の取り組みを継承しつつ、本年度は以下のとおり環境保全活動の実践に取り組んだ。

### 【報告】

#### 1. 環境啓発横断幕の設置

前年度より継続して、各競技大会や催事などにて環境啓発に関する横断幕を会場内に設置した。同時に会場アナウンスによる啓発活動を実施した。

#### 2. 炭酸マグネシウム対策

体操競技では、選手が演技時に滑り止め用として「炭酸マグネシウム」を使用する。炭酸マグネシウムは、会場内の空気を汚すなど懸念される部分があることから、器具付近では掃除機を使用してこれを吸い取ることを実施してきた。

また、炭酸マグネシウムを入れる容器においては、粉が外部に粉塵化することを最小限に抑えること目的として、球体状で上部に取出し口があるもの、あるいは蓋が付いたものなど商品の改良が進められ、活用してきた。

#### 3. ゴミ分別回収

体操競技や新体操、一般体操などの会場では、ゴミの分別回収や持ち帰りをアナウンスによって啓発活動を実施した。一般体操では、催事にむけて各団体より運営委員を2名ずつ選出し、当日は会場内の清掃に協力を得た。

### 【課題】

- ・炭酸マグネシウム利用時は、必要以上に撒き散らさないように努める。また、床に落ちた炭酸マグネシウムは、これまでと同様に掃除機で吸い取る。
- ・深刻化しつつある環境問題を各々が認識できるよう、「地球温暖化防止啓発活動」を継続して取り組む。
- ・各加盟団体および各都道府県組織において、環境保全について主体的に取り組めるよう、推進をはかる。

## 山口 香 委員

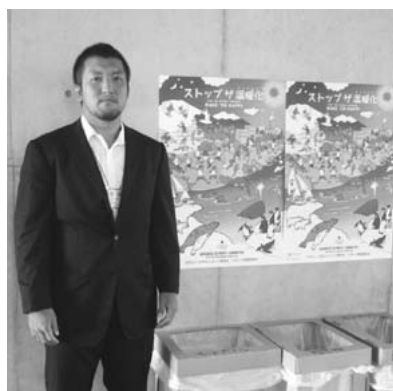
(財)全日本柔道連盟 ルネッサンス国際委員

### ●全日本柔道連盟の環境への取り組み

全日本柔道連盟には、環境委員会は設置されておきませんが、ルネッサンス委員会を中心に環境への取り組みを実施しています。以下、2009年度に実施しました環境への取り組みについて報告いたします。他の競技連盟、団体に比べますとまだまだ十分とは言えない状況ではありますが、地道な啓発活動によって少しずつでも環境への意識が高まり、ひとりひとりが自覚を持って行動できるようになればと願っております。来年は昭和33年第2回大会以来、52年ぶりに東京において世界選手権が開催されます。今大会より各国2名の選手がエントリーされることから、世界各国から700名を超える人たちが東京に集います。柔道において日本は常に世界のリーダーとしての役割を果たしてきましたが、環境分野においてもその役割をしっかりと担い、あらゆる機会をつかって世界へ向けて指導力を発揮していけるよう努めていきたいと思っております。

#### 1. 大会、イベントにおける啓発活動

全日本ジュニア体重別選手権大会(9/12、13、埼玉県立武道館)、柔道フェスタ2009(10/18、北海道、福井、岐阜、大分、岡山)、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(11/14、15、千葉ポートアリーナ)などの大会、イベントにおいて、会場内にバナー、ポスターを添付し、啓発活動を行った。また、会場内ではゴミの分別を呼びかけ、実施した。



## 2. カレンダー作成

ルネッサンス委員会ではキャッチコピーと選手のイラストを載せたカレンダーを作成しているが、今年度は環境をテーマに作成した。



## 松岡修造 委員

JOCスポーツ環境アンバサダー  
(財)日本テニス協会理事待遇／環境委員

〈修造チャレンジトップジュニアキャンプ〉開催時に、会場内におけるポスター掲出や横断幕の提示、ゴミの分別など啓発活動を積極的に行った。

### ■修造チャレンジ開催概要

日程	対象	会場
2008年 10月14日(火)～19日(日)	松岡修造とJTAナショナルチームに選ばれた14歳以下の男子ジュニア選手18名 (前半と後半に分けて開催)	荏原湘南スポーツセンター
2009年 3月10日(火)～13日(金)	松岡修造とJTAナショナルチームに選ばれた15歳以下の男子ジュニア選手13名	ナショナルトレーニングセンター

#### ●2008年10月



#### ●2009年3月



## 中村淳子 JOCスポーツ環境アンバサダー

(財)全日本柔道連盟国際委員

近年、世界的な問題となっている環境問題について、スポーツ、柔道を愛する私達に出来る事は何なのか、一人一人が考え取り組んでいけるよう、「H21年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会」において、柔道に携わるすべての人々へ啓発活動を実施した。

柔道は屋内競技であり、自然の影響を受けにくいので、環境問題を身近に感じる事が少ないように思うが、実際は自分たちの行動や生活習慣が、環境に大きな影響を与えるという事を理解し、環境問題を考え、環境保全を実行して行く義務があるという事を伝えた。柔道の大会は、朝早くから夕刻遅くまで行われる為、会場で食事などをとる事が多いことから、ゴミ等が多くなりがちだという事に着目し、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の実行を実践して行くように呼びかけた。捨てる物でも、混ぜてしまえばゴミになるが、きちんと分別する事で、資源になるという事を理解してもらい、分別に努めた。また、室内でも、電気のスイッチをこまめに消すなど、節電する事、冷暖房の負荷を下げる事を心がけ、エネルギーの削減を呼びかけた。大会運営の面においても、試合経過や結果の用紙の配布を削減していく事や、ペットボトルなどの使用を控え、マイボトルの利用を推奨するなど、組織や個々で取り組んでいける事があるので、今後も引き続き地道な啓発活動を行っていききたい。



全日本ジュニア柔道体重別選手権大会でのスピーチの様



## (2) 各競技団体等の活動

Activities of the JOC affiliated NFs and organizations

### (社)日本ボート協会

日本ボート協会では、社会的な環境問題への意識の高揚やボート活動そのものが川・湖・湾等の自然の中で行われるスポーツであることを考慮し、2007年度に「安全環境委員会」を設立、加えて、環境保全活動の基本となる『環境方針』を制定し、「身の周りのできることから実行」をモットーに、地道な日常活動を継続してきている。

#### ●2009年度の主な活動について

都道府県協会、その所属団体、個人等、いろいろなレベルで諸活動を実践した。

1. 啓発活動……大会・会議体等での環境活動の紹介、ゴミの分別回収
2. ボート環境保護・改善…大会開催時におけるゴミの分別収集・清掃、練習場所・水域付近における危険物・流木などの除去およびゴミの回収・清掃
3. 地球環境保全……マングローブ等の植樹、エコキャップ収集活動

#### ●2010年度の活動計画について

これまで展開してきた「啓発」と「実践」の両面の活動を反復・継続し、その定着を図る。

1. 大会開催時のポスター(ストップ・ザ・温暖化等)添付などによる環境保全の啓発
2. 大会プログラムに環境保全広告の掲載
3. 練習水域(川・湖等)の清掃の定例化
4. マングローブ等の植樹

安全環境委員長 清水 一巳

### (社)日本ホッケー協会

当協会は主管協会・連盟に依頼し、啓発・実践活動を行った。活動の一環として、全国大会会場にスポーツと環境の横断幕の掲揚、ポスターの掲示を行った。

今後も全国の方々に広めていけるように、より多くの啓発・実践活動を考えている。

事務局長 西中 武士

## (財)日本バスケットボール協会

環境保全への取り組みに出遅れた日本バスケットボール協会だったが、他競技団体の活動を手本にさせて頂き、平成21年4月に特別委員会として木内専務理事を委員長に「環境委員会」を発足させ正式に活動を開始した。早速、“チーム・マイナス6%”に参画（その後、“チャレンジ25キャンペーン”に切替え）し、協会HPにWebサイトへのリンクを貼ると共に、6月に開催の傘下団体代表者が集まる評議員会において委員会立上げの報告と各団体でも環境保全に向けた積極的な活動を行うよう協力を呼び掛けた。

平成21年度日本協会主催大会での活動としては、平成21年6月に愛知県小牧市で開催した第1回東アジアバスケットボール選手権大会から本格的な啓発・実践活動を開始。中国・韓国を初めとした6カ国が参加し、アジア選手権大会（8月に中国で開催）への出場権獲得に向け、非常に盛り上がった大会となったが、一方、参加各国及びFIBA及びアジア協会役員へ、スポーツの世界から環境保全の大切さを発信させる日本の取り組みについて十分に伝わったのではと自負している。以降、日本協会主催大会を中心に、会場内への環境横断幕及びJOCポスター掲示、プログラムへの環境保全取り組みへのメッセージ掲載等を取り組んできた。

また、傘下団体の一つの日日本バスケットボールリーグ（JBL）については以前から「GREEN ACTION！JBL」と銘打ち、“チャレンジ25キャンペーン”及び各開催地が取り組む環境保全活動と積極的に協働、リーグ・チーム・選手と一体となり取り組んでおり、試合会場にJICAブース設置、場内アナウンス、TV中継番組内で環境保全への取り組みを紹介する等、啓蒙活動を継続して推進している。

平成22年度以降についても、JOC並びに各競技団体の活動を手本にさせて頂き、傘下団体と協同で啓蒙活動を更に活発化するよう努力していきたい。

## (財)日本アイスホッケー連盟

(財)日本アイスホッケー連盟では、平成19年4月に環境委員会を設立し、環境保全の啓発と実践活動を行っている。

47都道府県の加盟団体に呼びかけ、環境啓発横断幕およびポスターを掲出の協力を依頼し、活動を全国に広げ連携を図った。

主要な国内大会において、ごみ減量のキーワード「3R」

リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）を実践した。

2009年12月栃木県日光市で行われた全日本女子中学・高校アイスホッケー大会では、『チームECO』と称し、ごみの減量に取り組んだ。

「マイカップ運動」として、前年大会で記念品として配布したタンブラーを、マイカップとして持参するよう呼びかけ、タンブラーを持参した人には、大会デザインのタンブラーの内紙とエコグッズをプレゼントした。新規参加者にもタンブラーを配布した。

地元ボランティアの協力を得て、使い捨て食器は使わず、豚汁・おにぎり・コーヒーなど



をリユース食器で提供し、使用済み食器を回収、洗浄し繰り返し利用した。

『チーム ECO』ののぼり旗を設置し「3R」の周知と意識向上を図った。

その他、各地で開催される大会会場におけるゴミ分別を指導、徹底し、紙資源のリサイクル運動も推進している。

2010年度はチャレンジ25キャンペーンに参加し、主催大会を通じて加盟団体と連携し、引き続きごみ減量「3R」に取り組むと同時に、CO<sub>2</sub>削減を目指した資源リサイクルキャンペーンをスタートさせたい。

#### 2009年度 環境保全啓発活動を行った国内大会

大会名	期間	会場
第4回日光杯全日本女子中学・高校生大会	2009年12月25～27日	栃木県日光市 霧降アリーナ、細尾ドーム
第65回国民体育大会冬季大会 (成年の部・少年の部)	2010年1月27～31日	北海道釧路市 釧路アイスアリーナ、十條アイススケートセンター、釧路柳町アイススケート場
長野カップ2010	2010年2月11～13日	長野県長野市 ビッグハット
第14回全日本女子選手権 (B)	2010年2月26～28日	愛知県 日本ガイシアリーナ モリコロアイスアリーナ
第77回全日本選手権	2010年3月1～7日	北海道苫小牧市 白鳥アイスアリーナ、沼ノ端スケートセンター
第29回全日本女子選手権 (A)	2010年3月11～14日	北海道札幌市 月寒体育館
第5回風越カップ全日本少年大会	2010年3月26～29日	軽井沢町風越公園アイスアリーナ
第15回全日本オールタイム選手権	2010年4月10～11日	青森県八戸市 新井田インドアリンク 南部山アイスアリーナ
平成21年度関東大学リーグ戦	2009年9月19日～11月29日	東京都西東京市 ダイードドリンクコアアイスアリーナ
秩父宮杯第59回関東大学選手権大会	2010年4月3日～5月30日	東京都西東京市 ダイードドリンクコアアイスアリーナ

## (財)日本セーリング連盟

世界的に経済環境の厳しいなか、皆様には堅実にご清栄のことと存じます。

自然の中で活動を行うセーリングスポーツを通して環境意識を啓蒙する「JSAF 環境キャンペーン」に格別のご理解、ご協力をいただき、誠にありがたく、心より厚く御礼申し上げます。

2009年度も、昨年度に引き続いて種目別の全日本選手権大会における環境キャンペーンを実施いたしました。具体的には、環境フラッグ並びにスポンサーロゴの表示された横断幕を掲揚し「残したいのはきれいな海」を標語とし、レース運営規則にゴミの投棄を禁止する項目を追加、環境意識の証として参加者全員にJSAF 環境バナー(3角形の小旗)を配布して競技中に掲揚を義務付け、環境意識の普及啓蒙に努力いたしました。延べ2,040名の参加

選手や運営関係者が、環境への意識を高める機会となりました。

また最も中心的な「海の日」の活動につきましては、まず、例年通りスポンサーロゴの表示されているJSAF「海の日」ポスターを作製いたしました。これには、前年度に引き続いて（社）燈光会主催の「全国少年少女燈台の絵コンテスト」のご好意で入賞作品をポスターの図柄としてご提供いただき、大変な好評を博しました。

このポスターは、7月20日の海の日に向けて3月のポートショウ会場での配布を皮切りに全国関係組織に2,500枚を配布いたしました。

これと並行して、海の日環境キャンペーン参加イベントを全国的に募集し、全国各地より49イベント、参加者総数7,140名のセーラーが「海の日」に活動をおこないました。

すべてのイベントにおいて、環境フラッグ並びにスポンサーロゴの表示された横断幕を掲揚し「残したいのはきれいな海」を標語として、環境意識の証として参加者全員にJSAF環境バナーを配布してイベント参加中掲揚を義務付けるなどして、参加選手や運営関係者環境への意識を高める貴重な機会となりました。

2009年度は新たな試みとして「JSAF全国少年少女海の絵画コンテスト」を「海の日」にちなんで実施いたしました。この試みは、海の日のために全国に配布するポスターの図柄を確保する目的で計画、実施いたしました。

子供たちの描く絵は、極めて美しく、純粹に心に訴える力に溢れています。描くほうも、観て楽しむほうも自然環境を意識する大変良い機会となることは、子供たちはもちろん大人たちにとっても大いに役立つことと考えました。

締め切りの10月末には全国各地より少年少女の作品が270点も送られて参りました。小学生低学年から中学生まですばらしい作品ばかりで、海と船の絵を描かれている柏村勲画伯と世界的マリニイラストレーターの高橋唯美さんのお二方に審査をお願いし、11月に各賞の選定と次年度のポスターの図柄となるグランプリの選定をしていただきました。

こころみの第1回としては多くの応募を得ることができ、全国の絵の好きな少年少女たちに海と船と自然を意識してもらうよい機会となると同時に、セーリングスポーツを少しでも意識してもらう機会ともなりました。

応募様式や結果発表、表彰状にも、スポンサーロゴを表示させていただきました。

このように、スポンサーの皆様のご協力により、「海の日」を中心として、全国規模で環境意識の啓蒙とセーリングスポーツの普及に有効に活動させていただくことができました。

また全国の少年少女からベテランセーラーに至るまで、ご協力をいただいておりますスポンサーの皆様の存在を十分に意識していただくこともできたことをご報告申し上げます。

これらの活動の詳細は日本セーリング連盟の機関紙「J-Sailing」誌上に記事として掲載し、全国10,000名の連盟登録者に配布されました。

また、選手権大会、イベントによっては、専門誌「舵」誌上や地方紙に掲載されたり、期せずしてその活動シーンが映画「海の子」のシーンになったりもいたしました。

以上、活動詳細ならびに写真を添付してご報告申し上げます。

「残したいのはきれいな海」を標語として、JSAF環境キャンペーンは競技選手、運営関係者をはじめ、全国の海好きの人々や、全国の絵の好きな少年少女達に毎年楽しみにしてもらうことのできる活動へと地道に充実してきております。

今後とも引き続き皆様のご理解とご協力をいただきますよう、謹んでお願い申し上げます。

● JSAF 環境キャンペーン2009 全日本大会2009

No.	大会名	参加者数	開催場所
1.	第35回全日本 Int. 14クラス級選手権大会	30名	神奈川県江の島
2.	2009年度トッパー級全日本選手権大会	250名	滋賀県大津
3.	全日本470級選手権大会	200名	福岡県小戸
4.	第49回パールレース	270名	三重県鳥羽～神奈川県江の島
5.	全日本セーリング選手権 全日本 SS 級選手権	250名	千葉県稲毛
6.	日本ドラゴン級選手権大会	50名	富山県新湊
7.	全日本学生ヨット個人選手権大会	260名	愛知県蒲郡
8.	全日本学生ヨット選手権大会	170名	岡山県牛窓
9.	高松宮杯全日本実業団ヨット選手権大会	100名	千葉県稲毛
10.	全日本シードスポーツ級選手権大会	50名	神奈川県江の島
11.	JSAF オリンピックウィーク2009	160名	神奈川県江の島
12.	第41回日本オペティミストセーリング選手権大会	250名	神奈川県江の島
13.	テザークラス世界選手権大会	200名	和歌山県和歌浦
延べ参加者数		2,240名	

● JSAF 環境キャンペーン2009 「海の日」 キャンペーン

No.	イベント名称	参加者数	開催場所
1.	海の日海上パレード	100名	長崎県長崎港
2.	葉山エメラルドセーリングカップ	200名	神奈川県葉山
3.	第1回本実業団ボードセーリング すいかカップ	150名	神奈川県津久井浜
4.	相模湾 江の島・葉山 ヨットラリー	150名	神奈川県江の島・葉山
5.	第13回泳げる霞ヶ浦市民ヨットフェスティバル	200名	茨城県霞ヶ浦
6.	広く環境をテーマにしたスポーツイベント	500名	山口県光市
7.	第21回みちのく銀行青函カップレース	300名	北海道函館市
8.	宇土マリーナカップ RKK クルーザーレース	150名	熊本県戸島
9.	若洲ヨット祭り	500名	東京都若洲
10.	天神祭り奉納ヨットレース	200名	大阪市北港
11.	第3回バルコム BMW 杯	400名	広島県観音
12.	2008 B & G ヨット大会 (東日本)	100名	愛知県蒲郡
13.	2008年ボート天国「第20回大阪市長杯市民ヨットレース」	60名	大阪府北港
14.	海上クリーニング	50名	兵庫県芦屋
15.	横浜港ボート天国	300名	神奈川県横浜港
16.	市民ヨット教室	50名	神奈川県葉山
17.	海竜マリーナ周辺海岸清掃	200名	富山県新湊
18.	榎本武揚没後100周年記念事業「帆船あこがれ」	100名	岩手県宮古
19.	岩手県ヨット個人選手権大会	80名	岩手県宮古

No.	イベント名称	参加者数	開催場所
20.	境港大漁カップヨットレース	100名	鳥取県堺港
21.	海の日旬間ヨット試乗会ビーチクリーン	50名	北海道瀬棚
22.	いわき「きれいな海を残そう」キャンペーン	30名	福島県いわき
23.	ジュニア・レディースセーリング体験教室	120名	宮城県七ヶ浜
24.	BYC CUP 第5戦	30名	滋賀県琵琶湖
25.	Clean up campaign and sailing	100名	佐賀県唐津
26.	和歌山県知事杯 レース	100名	和歌山県和歌浦
27.	ワカヤマディングオープンレース	50名	和歌山県和歌浦
28.	第11回 真鶴レース	80名	神奈川県葉山～真鶴
29.	海陽ヨットハーバーの清掃活動	100名	愛知県蒲郡
30.	関東420級オープンヨットレース	20名	東京都若洲
31.	マリンフェスティバル in Yasu	100名	高知県夜須
32.	「海を見よう。潮を見よう。ついでにごみをみつけようセーリング」	100名	北海道函館・小樽・室蘭
33.	鹿児島カップ火山めぐりヨットレース	350名	鹿児島県鹿児島湾～大隈群島
34.	海の日記念 ヨット体験試乗会	150名	徳島県徳島港
35.	「海の日」協賛ヨットレース	120名	香川県高松
36.	しまなみ海道ヨットミーティング	100名	愛知県弓削島
37.	「海の日」体験セーリング浜名湖	80名	静岡県浜名湖
38.	「海の日」キャンペーン	100名	千葉県稲毛
39.	第1回本実業団ボードセーリング すいかカップ	150名	神奈川県横須賀
40.	兵庫県民体育大会 ポイントレース	160名	兵庫県西宮
41.	外洋東関東「海の日」ビーチクリーンレース	200名	千葉県銚子
42.	海の日環境キャンペーン いわきの海クリーンアップ大作戦	80名	福島県いわき
43.	しまなみ海道10周年記念事業 しまなみ海道ヨットミーティング・インターポートしまなみ	40名	瀬戸内
44.	福岡ヨットクラブ杯 ヨットレース	180名	福岡県小戸
45.	第407回 小網代フリートレース	180名	神奈川県小網代
46.	ミニヨット体験	20名	宮城県石巻
47.	「海の日・マリンスポーツ開放」	80名	山口県光市
48.	第33回伊勢湾オープンヨットレース	450名	三重県津
49.	Int. 14 Class 体験試乗会	30名	神奈川県江の島
		参加者数	7,140名

● JSAF 環境キャンペーン2009 全国少年少女「海の絵画」コンテスト

応募総数

265点

小学校低学年 金、銀、銅 賞

各1名

小学校高学年 金、銀、銅 賞

各1名

中学校 金、銀、銅 賞 各1名  
グランプリ & JSAF 会長賞 1名

● JSAF 環境キャンペーン2009 掲載記事他

1. 機関紙 J-Sailing 第77号 第79号 第80号 第81号 毎回配布数10,000部
2. 専門誌「舵」誌他、地方新聞、タウン誌など
3. 映画「海の金魚」火山めぐりヨットレースの場面では環境フラッグが映像に登場
4. JSAF ホームページに随時掲載

● JSAF 環境キャンペーン2009

「海の日」ポスター全国配布 2,500枚

● JSAF 環境キャンペーン2009

スポンサーロゴ掲載カレンダー 1,000部

環境委員会／常務理事 青山 篤

## (社)日本ウエイトリフティング協会

当協会主催大会の審判・監督会議時に、当協会の保全啓発活動について説明し、出席者に環境保全を念頭に置いた競技会運営を心がけるように呼びかけている。

また、国民体育大会、全国高校総体、社会人選手権大会・国体記念杯女子大会では、開催地自治体がゴミの分別収集を行った。

全日本学生連盟では、清掃班を編成して4時間毎に競技会場トイレの環境巡回、清掃活動を行うとともに、競技大会の監督・審判会議においては、ゴミの減量化・再生資源のゴミの分別・持ち帰りの呼びかけを常に行った。また、全日本選手権においても、競技役員の飲物用紙コップへ記名し、繰り返し使用することでゴミの減量化を図った。

大阪府羽曳野コロセアムで開催する西日本学生連盟主管の全日本新人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会（2部）における競技大会では、競技役員の昼食を、会場内食堂の通常の食器を使用したランチメニューとし、ゴミの減量を図っている。横浜市磯子スポーツセンターで開催する東日本学生連盟主管の全日本新人選手権大会・全日本大学対抗選手権大会（1部）では、環境への負荷軽減の配慮の為、弁当に紙と経木でできた容器を使用している。

全日本学生連盟に協力を仰ぎ、競技大会での環境保全への様々な取り組みを試み、評価し、広報することで、環境配慮への意識向上、また、環境保全への積極的な取り組みが全国の都道府県協会をはじめ、競技者・競技役員に波及するように活動を行っている。

理事／環境委員会委員長 守 昌宏

## (財)日本ハンドボール協会

全世界的な環境問題を改善してゆくためには、我々一人一人の自覚が不可欠である。そこで、日本協会、各都道府県協会、各連盟に「環境（専門）委員会」を設置し、啓発運動を展開してゆくこととした。

1. 総務部の中に「環境委員会」を設置した（2007/11/1より）。
2. JOC にならい日本ハンドボール協会の環境方針として、まずは5Rの推進\*を決定。
3. 環境省が主導するプロジェクト「チームマイナス6%\*\*」に参加し、協力・連携する。
4. 各都道府県協会、各連盟にまずは「担当」の設置を促し、専門委員会設置の準備をして貰う。
5. 環境保全の啓発活動を4の担当（又は委員会）と連携し、大会等で全国展開する。

\*5Rの推進     リフューズ（Refuse：環境負荷となるものを購入しない）

                  リデュース（Reduce：排出量を抑制）

                  リユース（Reuse：排出物をそのまま利用）

                  リフォーム（Reform：形を変えて再利用）

                  リサイクル（Recycle：資源として再利用）

\*\*「チームマイナス6%」のCO<sub>2</sub>削減のための6つのアクション

ACT 1 温度調節で減らそう（冷房は28℃、暖房時の室温は20℃にしよう）

ACT 2 水道の使い方減らそう（蛇口はこまめにしめよう）

ACT 3 自動車の使い方減らそう（エコドライブをしよう）

ACT 4 商品の選び方で減らそう（エコ商品を選んで買おう）

ACT 5 買い物とごみで減らそう（過剰包装を断ろう）

ACT 6 電気の使い方減らそう（コンセントからこまめに抜こう）

### 6. 具体的活動

#### ①大会における啓発

- ・環境ポスター、環境バナーを会場内に掲出し広報した。
- ・環境ポスターを大会プログラムに印刷するようになった。
- ・環境バナーを2枚追加作成し、一大会での複数会場使用の場合に対応できるようにした。

#### ②チームマイナス6%の普及

都道府県協会・連盟・役員に「チーム・マイナス6%」News Letterを再配信し、参加を促進した。

#### ③チャレンジ25宣言（2010年1月28日）

チャレンジ25宣言を行い、協会ホームページからリンクをさせた。また、都道府県協会・連盟・役員に「チャレンジ25キャンペーン」News Letterを再配信し、キャンペーン参加を促進した。

#### ④事務局におけるクリーン購入・エネルギー節約

エコ商品の購入、ペーパーレス化、クールビズ

環境委員会委員長 兼子 真

## (財)日本自転車競技連盟

大会会場における環境保全の啓発活動を、秋田県・山梨県・新潟県・石川県・静岡県・三重県・広島県・山口県の8県、12大会において行った。

1. ゴミの分別収集
2. バナーの掲示
3. ポスターの掲示
4. パンフレットの配布

その地道な活動により、会場の自治体において住民さらに観光客への自転車活用を推奨する動きが生まれた。これは、低炭素社会の実現に向けて大変喜ばしいことである。

また、事務局においてはコピー用紙の再利用を推進した。

なお、機材のリユースは環境保全に有効であるが、金属疲労等の安全チェックの経費削減が実現への大きな課題である。

事務局長 大池 新次

## (財)日本ソフトテニス連盟

(財)日本ソフトテニス連盟環境部会は、平成21年度に設置されました。

設置前年度(20年)に「この星にスポーツを」の横断幕を作成し、傘下48都道府県支部に2枚ずつ配布し、各支部の施設に常設するとともに大会や会議での啓発活動として掲載いただく活動からスタートしました。

21年度には、下記の全国大会会場で環境ポスター掲示、リーフレット配布、機関誌・大会プログラムに「ストップザ温暖化」の刷り込み、分別ゴミ箱の設置、マイペットボトルにより紙コップ削減のリディース活動等々を実施して、大会参加の選手や観客と関係者の方々に環境問題に対して強い関心を持っていただく機会となった。

また、21年12月に開催された全国評議員会及び22年2月に開催された全国指導者研修会(小、中、高の指導者の代表者の研修会)では、「スポーツと環境についてのレクチャー原稿」を配布し、各支部において影響のある人々、特にジュニア層について機会があれば環境保全のアピールをしていただくよう依頼した。

22年度も引き続き上記の活動を各支部との連携を図り推進していく予定である。

記

主な大会名	開催日	会場	主管団体
全日本シングルス選手権大会	5月16～17日	狭山市	埼玉県ソフトテニス連盟
全日本実業団選手権大会	7月24～26日	白子町	千葉県ソフトテニス連盟
全日本小学生選手権大会	8月6～9日	岐阜市	岐阜県ソフトテニス連盟

主な大会名	開催日	会場	主管団体
全日本高等学校選手権大会	8月5～12日	明日香村	奈良県ソフトテニス連盟
全国中学校大会	8月17～19日	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟
全日本選手権大会	10月16～18日	三木市	兵庫県ソフトテニス連盟
西日本選手権大会	7月18～19日	鹿児島市	鹿児島県ソフトテニス連盟
東日本選手権大会	7月18～19日	狭山市他	埼玉県ソフトテニス連盟
国民体育大会	9月26～30日	新潟市他	新潟県ソフトテニス連盟
ジュニアジャパンカップ	11月21～24日	宮崎市	宮崎県ソフトテニス連盟



## (財)日本卓球協会

日本卓球協会環境委員会は、平成17年度に設置された。翌18年度より、環境ポスター、標語の掲示と環境委員会で作成した分別ゴミ箱を全国大会会場に設置する等の啓蒙活動を、大会開催地の主管団体そして会場関係者にご協力をお願いし、実施してまいりました。

平成21年度も、これまでの環境委員会の活動を継承し、環境問題に対し、息の長い継続性のある活動としたいと考え、今まで通り以下の加盟団体、大会会場にご協力をお願いしてまいりました。ご協力をいただきました関係各位に対しまして心より御礼申し上げます。

4月28日から5月5日の世界卓球選手権横浜大会では、選手・役員にペットボトルを3本支給し、大会会場・練習会場・ホテル等に設置した給水場でミネラルウォーターを給水してもらい、資源の有効活用を計った。

また、第32回全国レディース卓球大会に於いて「チームマイナス6%」のロゴマークを①参加賞のエコバック、②IDカード、③大会プログラムに入れ、啓蒙活動を行った。

啓蒙活動へのご理解とご協力ありがとうございました。

### ご協力いただいた大会会場と主管団体（平成21年度）

大会名	開催日	会場	団体
H.I.S.2009年 世界卓球選手権横浜大会	4月28日～5月5日	横浜アリーナ	神奈川県卓球協会 横浜市卓球協会



大会名	開催日	会場	団体
全国ラージボール卓球大会	6月24～27日	山形県総合運動公園総合体育館	山形県卓球協会
全国レディース卓球大会	7月24～26日	さいたま市記念総合体育館	埼玉県卓球協会 さいたま市卓球協会
全日本卓球選手権大会 (団体の部)	10月16～18日	旭市総合体育館	千葉県卓球連盟 旭市卓球協会
全日本卓球選手権大会 (マスターズの部)	10月30日～11月1日	岩国市総合体育館	山口県卓球協会
全日本社会人卓球選手権大会	11月6～8日	奈良市中央体育館	奈良県卓球協会 奈良市卓球協会
全日本卓球選手権大会 (カデットの部)	11月13～15日	広島県立総合体育館	広島県卓球協会 広島市卓球協会
全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部)	1月12～17日	東京体育館	東京都卓球連盟
ジャパントップ12卓球大会	2月11日	国立代々木競技場第二体育館	東京都卓球連盟
全国ホープス選抜卓球大会	3月26～28日	熊本市総合体育館	熊本県卓球協会
全国中学選抜卓球大会	3月27～28日	緑ヶ丘スポーツ公園体育館	山梨県卓球協会

## (財)全日本軟式野球連盟

財団法人全日本軟式野球連盟では平成17年度より連盟としての環境保全啓発ポスターとチラシを作成して競技会場で掲出・配布し当連盟関係者・大会参加者及び観客に向けて環境保全の啓発を促し環境保全意識の向上を図っている。

平成21年度全国大会6大会各会場においてバナー、ポスターの掲出、パンフレットの配布を行った他、NPBの地球温暖化防止活動「Let's省time!」環境啓発チラシを印刷し、当連盟主催の全国大会で配布の他、特に子ども達に環境問題について興味をもってもらうよう47都道府県各支部へ少年・学童大会での配布を促し計3万枚を配布した。

また、昨年度に引き続きバットの廃材をリサイクル加工して作成したミニバットストラップの販売収益の一部を輸送費として、使用可能な状態で不要となった軟式野球ボールを各都道府県支部より募り、集まった軟式野球ボールを本年12月には中国・フィジー・ケニアへ計3,849個寄贈した。今回経費の都合により寄贈できなかったが、スパイクやグラブも各支部の協力により集まってきたので、今後これらも寄贈できるようにしていきたい。

専務理事 渡邊 起祐

## (社)日本馬術連盟

当連盟は環境委員会の一員として、当連盟の主催大会において、スポーツ環境保全の啓発・実践活動を行った。

活動の一環として、主催大会会場でのスポーツ環境保全の横断幕の掲揚、ポスターの掲示

のほか、当連盟が発行する機関紙「馬術情報」に環境保全の広告を掲載し、会員に対する環境保全の啓発を行った。

また、競技参加者にエコバックを配布するとともに、大会スタッフはエコマークの入ったベストを着用させ、再利用可能な資源の利用に取り組んでいる。

当連盟は、今後も環境保全と馬術の振興に努めてゆく。

開催日	競技会名	競技会場	参加人数
5月22～24日	第30回全日本ジュニア総合馬術大会2009	JRA 馬事公苑	82
7月18～20日	第25回全日本ジュニア馬場馬術大会2009 兼 CDI *** Gotemba	御殿場市馬術・スポーツセンター	52
8月7～9日	第33回全日本ジュニア障害馬術大会2009	山梨県馬術競技場	267
9月11～13日	第39回全日本総合馬術大会2009 Part I	山梨県馬術競技場	58
9月19～21日	第61回全日本障害馬術大会2009 Part II	三木ホースランドパーク	130
9月19～21日	第10回全日本エンデュランス馬術大会2009	北海道鹿追町	32
10月23～25日	第39回全日本総合馬術大会2009 Part II 兼 CIC3*	三木ホースランドパーク	35
11月13～15日	第61回全日本馬場馬術大会2009 兼 CDI *** Gotemba	御殿場市馬術・スポーツセンター	125
11月21～23日	第61回全日本障害馬術大会2009 Part I 兼 CSI3* Tokyo	JRA 馬事公苑	88

## (社)日本フェンシング協会

当協会の平成21年度の主な活動は以下の通りである。

1. 高円宮牌フェンシング・ワールドカップ GP2009（平成21年5月8日～10日・東京駒沢オリンピック公園体育館）におけるゴミ分別収集の徹底、環境保全バナーの掲示、環境ポスターの掲示を行った。
2. JOC ジュニアオリンピックカップ・フェンシング選手権大会（平成22年1月8日～11日・東京駒沢オリンピック公園体育館）におけるゴミ分別収集の徹底、環境保全バナーの掲示、環境ポスターの掲示を行った。
3. その他に全日本選手権大会、国民体育大会、他の協会主催大会における環境ポスターの掲示、パンフレットでの環境保全活動の訴求広告掲載などを行った。また、オリンピック出場選手を中心に啓発活動を展開した。
4. 破損した装備品回収の一元化推進を進めており、再資源化を図っている。
5. 事務局ではコピー紙の再利用、ペーパーレス化を引き続き推進している。

平成22年度についても、大会、指導者研修、合宿等の場を通じて競技者や指導者・管理者を対象とする啓蒙活動を推進する。

事務局長 川口 大三

## (財)全日本柔道連盟

財団法人全日本柔道連盟では、前年度に引き続き、柔道ルネッサンス委員会と事務局が中心となって、環境保全に関わる啓発・実践活動に取り組んだ。

当連盟主催の下記大会・イベントにおいて、横断幕・ポスターを会場内に掲示し、選手や当連盟役員とも協力して、スポーツと環境保全活動の啓発に努めた。練習会場においては、担当の係員を配置し、選手たちによる自発的なゴミ分別を徹底した。

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会では、中村淳子・JOC 環境アンバダサーが、試合と試合の合間に競技会場でスピーチを行い、参加選手や観客に向けて、一人一人が日常生活の中で環境を意識して行動することの重要性を訴えた。

1. 平成21年皇后盃全日本女子柔道選手権大会（平成21年4月19日、横浜文化体育館）
2. 平成21年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（平成21年9月12日～13日、埼玉県立武道館）
3. 平成21年度柔道フェスタ（平成21年10月18日、大分、岡山、岐阜、福井、北海道）
4. 平成21年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（平成21年11月14日～15日、千葉ポートアリーナ）

平成21年度も、単に全国レベルの大会だけでなく、都道府県柔道連盟・協会における柔道ルネッサンス委員会が主導し、多くの都道府県レベルの大会・講習会等において、観客や保護者に対するゴミ持ち帰りの呼び掛け、ゴミ分別の徹底、参加者全員による大会終了後の会場内清掃等、会場美化運動を実施している。

特に今年度は、柔道ルネッサンス委員会が毎年作成している柔道ルネッサンス・カレンダーのテーマを「地球に生きる」として環境保全を謳い、6,000部作成して全国の加盟団体及び関係各団体に配布して、啓発に取り組んだ。さらに、平成16年から21年にかけて各大会・講習会に行われた柔道ルネッサンス・スピーチを編集し、平成22年3月に発行した「柔道ルネッサンス・スピーチ集」の巻末に「スポーツと環境」というテーマで啓発文を掲載した。

柔道界としては、嘉納治五郎師範の遺訓である「精力善用」「自他共栄」という柔道の根本原理を、「人と自然との共存」というテーマにおいて応用実践することで、今後も環境保全に努めていきたいと考えている。



柔道ルネッサンス・スピーチ集



スピーチ集「スポーツと環境」

総務課長 坂本 健司

## (財)日本バドミントン協会

本会では平成18年4月1日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げました。

年々、地球規模による環境問題に対し、環境委員会を中心に登録会員全員に向けて、環境保全の意識を高めることを中心に地道な活動ではありますがおこなうことにします。

基本的に昨年と同様の活動を行い、より環境保全の意識を高めることを徹底いたしました。

1. 理事会及び年3回の評議員会にてより多くの会員に案内していただくためにパンフレットを配布する。
2. 本会の主催する国内競技会19大会にポスターを配布し、開催会場での掲示を依頼しました。特に観客の多い日本リーグは全国18ヶ所にて開催しており、特に重点的に配布する。

また、国内で行われる国際3大会においても同様の活動をしております。しかし、国際大会でのアジア諸国においてはスポーツと環境問題の関係が分からない国も多く、今後理解を深めていきたいと思っております。

3. 国内事業部と連携をとり、大会参加者、主催大会すべての開催県・主管団体に対して以下三つのお願いをして、全大会要項に必ず記載することといたしました。

### 依頼事項

- ①ゴミの分別収集に協力してください。
- ②部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- ③マイ歯ブラシを持参して大会に参加して下さい。

4. 今年、初めての試みとして、紙の使用を極力削減することを目標に、会員登録申し込みシステム、大会の申し込み等CD、電子メール化等の方法を推進している。

今後においては基本姿勢である「出来ることから始める」をモットーにより一層のエコを目指して、地道に努力していきたいと思っております。

## (社)日本ライフル射撃協会

日本ライフル射撃協会では、総務委員会内に環境問題を扱う「環境部会」を設置し、環境保全への取組みと、会員の環境意識向上を図る施策の立案と実行を担当する。

### ● H21事業活動

- ・ 競技会・講習会・会議等への環境ポスター掲示。
- ・ 機関誌への環境ポスター掲載、パンフレット配布による会員に対しての啓発活動
- ・ ゴミの分別回収。
- ・ 競技後の使用銃弾（鉛弾）の回収と処理作業。

## ●今後の活動について

1. 競技会での環境に関する呼びかけとイベント実施
  - ・競技会場や事務所等への環境ポスターの掲示
  - ・機関誌への環境に関する記事掲載による会員への啓発活動
  - ・講習会や研修会での環境教育の体系的なカリキュラムの導入
2. ゴミの分別収集の徹底とゴミの減量化
  - ・使用銃弾（鉛弾）の回収と適正な処理の確認
  - ・使用済み紙標的のリサイクル
  - ・グリーン購入と再生品利用
3. 施設利用の際の場内清掃の励行（クリーン運動）
  - ・ゴミのポイ捨て禁止の徹底とゴミの持ち帰り
  - ・場内駐車場での静かな運転とアイドリングの禁止
  - ・射撃場への緑化と花の栽培の推進
4. 施設管理者の配慮
  - ・省エネの実践（空調施設・OA 機器・照明設備の節電）
  - ・省エネルギー型蛍光灯への切り換え及び不必要な蛍光灯の取り外し
  - ・ソーラー照明など自然エネルギーの利用

総務委員会環境部会 田村 恒彦

## (財)日本ラグビーフットボール協会

日本ラグビーフットボール協会は、管理委員会に環境部門を設置より3年目迎え、環境部門委員によりJOC、各スポーツ団体等が既に行っている環境活動への取り組み事例の研究及び検討を行い、『社会貢献活動の1つと位置付け、ラグビーを通じて環境保全に関する啓発・実践活動の推進を図る』ことをテーマとして下記の事業を実施した。

### 1. 事業活動

- ①日本協会『環境保全活動推進宣言』に基づいた推進活動の展開
- ②『チームマイナス6%』（環境省主管）加盟メンバーとして環境保全活動への推進協力継続
- ③広報委員会との連携・協力体制により環境PR活動推進を図る
- ④トップリーグ事業委員会とのコラボレーションによる相乗効果を図る
- ⑤11月20日開催のJOC環境担当者会議に参加し他団体の取り組み事例の研究
- ⑥すべての実践活動を広報PRに連動させ、更なる環境啓発に向けた相乗効果を図る

### 2. 具体的な実施内容

- ①広報活動（環境啓発PR）  
広報委員会との連携でホームページ、機関紙、大会プログラム、メンバー表等への掲出により関係者、ファンへの環境保全運動を推進

- ・「FOR ALL, FOR EARTH」の日本協会環境タイライン活用
- ・「チームマイナス6%」の露出
- ・7月7日「クールアース・デー」をHPにてPR配信  
(七夕ライトダウン、ノーカーデー、1人1日1kgのCO<sub>2</sub>削減運動)
- ②試合(競技場)を観客・ファンへの環境啓発活動のチャンスと捉えてのPR推進、JOC環境協力バナー(横断幕)を作成し試合グラウンドに掲出。また場内アナウンスにより、ゴミ分別回収協力による資源再利用
- ③環境省の協力により、トップリーグ全チームキャプテンの環境メッセージPRビデオを制作し、秩父宮での公式試合開催時に大型モニターにて放映し環境PRをビジュアルに行った
- ④試合開催時にチームマイナス6%デスクを設置しファンへの参加協力呼びかけ
- ⑤トップリーグ参加チームと日本協会による「Try For Green プロジェクト」を展開。トライ数に応じた寄附により、森林保全活動支援を行う(8月網走市での植林活動を実施)

## FOR ALL, FOR EARTH.

平成22年度、日本ラグビーフットボール協会では2016オリンピック公式競技決定、2016ワールドカップ日本開催を好機と捉え、環境活動の推進をチーム一丸となって進めていく。

環境部門 高野 敬一郎、児玉 隆一郎、岩上 教行、片山 良太

### (社)日本山岳協会

当協会における環境保護に関する活動は、登山者がフィールドとしている山岳地域の自然環境保護と環境保全を中心に活動している。具体的には次のような活動を年間を通して行っている。

- ①独自制度である「自然保護指導員制度」の普及及び推進
- ②自然保護委員総会(各都道府県に1名配置)の開催
- ③環境省等関係する団体と連携した自然環境保護活動
- ④山岳地域におけるゴミ捨て防止、トイレマナーの向上等の推進
- ⑤各地域における清掃登山等の実践

「その本来の姿を失いつつある」と云われている自然。自然環境変化の影響を受けやすい山岳では、ライチョウの棲息減少、増えすぎたシカ、クマやサルの人里への侵出など、変化が顕実化してきています。これらの変化は、連鎖的・相乗的に生態系全体に深刻な影響を及ぼしています。我々は環境保全に寄与するため生息の実態を把握することからはじめるべきと考え、これらの野生動物の棲家を活動のフィールドにする登山スポーツ愛好家に呼びかけ、「山の野生鳥獣目撃レポート」プロジェクトをほかの山岳団体と連携して全国活動を実施しています。

### ●登山者のマナー

1. 自然を傷めないこと  
植物の盗掘、湿地帯等への踏み込みをしない。
2. 水場を汚さない  
残飯等は持ち帰る。洗剤は使用しない。水場の上流には立ち入らない。
3. テイクイン・テイクアウト  
山に持ち込んだものは、全て持ち帰る。山では焼却しない。ゴミを埋めない。
4. ゴミを持ち込まない工夫  
食材は多く持ち込まない。食べられる量だけ調理する。
5. トイレマナーを守る  
登山口で済ませる。携帯用トイレの使用を習慣づける。
6. その他  
野生動物への配慮（ペットの持ち込み等）。移入植物の侵入への配慮。

## (財)全日本ボウリング協会

### 1. 実施概要

当協会におけるスポーツと環境保全についての取り組みは、平成21年度も引き続き常設委員会である「普及開発委員会」が担当した。

### 2. 平成21年度事業活動

- ・協会定時評議員会、理事会にて、ポスターの掲示とパンフレットの配布
- ・文部科学大臣杯争奪第48回全日本ボウリング選手権大会において、記録速報紙等の用紙使用量削減を実施
- ・協会主催の大会、イベントでの環境保全のためのルール、マナー等周知徹底と指導

### 3. 具体的な実施内容

当協会が主催する全国大会の「監督会議」や「選手ミーティング」で環境保護とルール、マナーの遵守について注意喚起を行い、大会中は場内アナウンスやポスター掲示、パンフレットの配布等を、選手、役員、観客など、大会に関わるすべての人がマナーを意識し守ってくれるよう導くことを目標とし実施した。

競技エリア内の環境保全については、国際ルールの厳格化にともなう国内ルール改正内容が周知、徹底されてきており、大会出場歴の浅いジュニア層への重点的指導を継続して行った。

また平成21年度は、協会最大の大会である全日本選手権大会において、競技記録担当と協力し、エコロジーにつながる新たな取り組みを実施した。参加選手や来場者が記録を確認する方法として、これまでは紙プリントによる速報の配布を行ってきたが、今回は場内2ヶ所にプロジェクターと大型スクリーンを設置して公開し、参加チーム監督へ渡していた全記録集もデータ形式での提供を推奨し、記録ルーム内でも記録閲覧は端末

画面で行うことにより、コピー用紙の使用量を大幅に削減することに成功した。従来の記録紙配布の形式では、不特定多数へ配布するために供給量の調整が難しく、最終的にゴミとして処分せざるを得ない状況にもなっていたため、実施の効果は非常に高かった。速報を見る側からも、情報更新の早さも伴って好評を得ることができ、今後もこの方法をより多くの大会で採用してもらえよう働きかけていきたいと考えている。

#### 4. 今後の活動について

新たな具体策を実施、成功することができた平成21年度の流れを止めることなく、さらに拡大を目指して取り組んでゆきたい。「施設を大事にすることが、自分の最高のプレーを引き出す」ことを競技者自身が意識し実践することで、観客にもその姿勢が伝わり、連鎖反応が起こることを期待しながら、対策を進めてゆきたいと考えている。

## 日本ボブスレー・リュージュ連盟

### 1. 実施概要

当連盟は毎年開催されているアジアカップを初め全日本選手権大会等各種大会、競技会運営では、分別袋等を用意しごみの分別、持ち帰り等日常の環境保全に関する取り組みとして実施している。また、事務局ではエネルギー節減の他コピー機変更に伴いPCから直接faxやプリンターとして使用したり、会議資料のコンパクト化、ペーパーレス化とコスト節減に心がけ、ものを大切にする3R (Reduce、Reuse、Recycle) 実行に日々努めている。しかしながら、人工トラックの場合その競技施設自体が、自然の山を切り開き、莫大な費用をかけて建設した上に、冷却施設や電気代等、毎年のランニングコストも大きい。それに反して、競技人口が少なく、競技施設の他の利用価値が少ないということ、それだけで環境に配慮したスポーツとは胸を張って言えないのが現状である。

### 2. 平成21年度事業活動、活動内容

スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動として実践していることに、競技施設長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の夏場の環境整備作業がある。例年、地元長野県連盟は8月の最初の日曜日と決め、8年前から「夏フェスタ・イン・スパイラル」という名称で、この事業を行っている。最初は、普及・強化事業の一環として、夏場にも広くそり競技の普及をはかろうという目的で始めた。

この日は、連盟の選手・役員だけでなく、地元の長野市浅川地区の住民を中心に構成された「浅川スパイラル友の会」・選手の関係者で構成された「リュージュ振興会」・地元の浅川小学校等の団体が集まり、広大な敷地内の草刈りやゴミ拾いを実施。選手も一緒に参加し、地域住民や子供達と汗を流しながら、この活動を行っている。子ども達にとって選手たちが、自分がお世話になっている競技施設の草刈りをしている姿を見ることが、大変なインパクトがあるし、自分もあのようなスポーツ選手になってみたいという気持ちを持てるのではないかと期待している。汗を流して自分の競技する場所をきれいにしている選手の姿を目の当たりにすることは、未来ある子ども達に、そのよ



うな意識を育てる活動こそ、大きな意味でスポーツを通じた環境保全の啓発活動になると考えている。

### 3. 今後の活動について

さらに、そりスポーツと環境という面で考えていきたいことがある。雪国で自然と生まれた子ども達のそり遊びがある。現在、競技施設が長野市ボブスレー・リュージュパークのみという状況の中では、選手は増やしたい、しかし増やせば、十分な練習量が期待できないと言ったジレンマがある。もう一度、私たちは、その原点に戻り、ふんだんにある雪を使った普及活動ができないか考えている。もともと、そり遊びが持っている楽しさに目をつけて、普及活動ができないかということである。そこにはアイデアや工夫、また情報提供のあり方など、子ども達に興味を起こさせるための壁はあると思うが、それこそ環境を生かしたスポーツ活動となるはずである。スポーツにとって恵まれた環境とは何だろうと考えると私たちは、まず与えられた自然環境を活用すること、それが環境保全への意識を育てる一つと考え、今後もそり競技発展のため、努力していこうと思う。

事務局長 池田 芳正

## 全日本アマチュア野球連盟

### ●日本野球界としての取組み

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われている。バット材として適するまでに70年以上もかかるこの木材を安定供給させるため「NPO 法人アオダモ資源育成の会」を設立し、今年で10周年を迎えた。

野球界では、将来のバット材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをとおして植栽環境保全にも貢献しながら“バットの森”を育てる取組みを展開している。

### ●平成21年度植樹報告

日時	場所	参加者	植樹本数
7月11日	新冠国有林2164林班ろ小班	約180名 (参加チーム：札幌市篠路高校野球部)	1,000本
7月23日	苫小牧国有林1357林班い2小班	約120名 (参加チーム：北星学園大附高校野球部、苫小牧駒澤大学野球部、NPB オールスター出場選手9名)	200本
9月26日	由仁町道有林119林班02小班	約150名 (道都大学野球部、八雲高校野球部、千歳市内少年野球チーム)	500本
10月17日	苫小牧つた森山林	約40名 (参加チーム：苫小牧工業高校野球部、苫小牧東高校野球部)	100本

全日本アマチュア野球連盟事務局長・スポーツ環境委員会委員長／  
NPO 法人アオダモ資源育成の会事務局長 内藤 雅之

## (社)日本カーリング協会

競技場である北海道北見市常呂町カーリングホールは以前よりゴミの分別収集を徹底して行っているため、競技会場も屋外でも設置されたゴミ箱が既に分別収集となっていました。従って既存のゴミ箱の上にポスターを貼りました。選手並びに観客はしっかりとルールに従ったゴミ捨てを徹底していました。

事務局長 浦川 ヒサ子

## (社)日本トライアスロン連合

昨今東京都内ではトライアスロンの一環としてアクアスロン大会（スイム、ラン）が盛んに行われております。ボランティアをしながらですがJOCのポスターの掲示、パンフレットの配布を積極的に行っております。参加者はレースに参加することを目的としているため環境については二次的に捕らえているようである。その中でもスポーツにも環境問題はかかわりがあることを強調するべきである。

ある大会では参加者選手及びギャラリーにマイ箸を購入してもらい、ブースで食事をした後の食器類は洗った後、再使用することでリサイクルに貢献していた。少なくともゴミの量は減った。どの大会でもゴミは必ず出るその量を減らす事は工夫次第で出来る事なのではないか。

各大会では大会要綱にはゴミは持ち帰りましょう！等々呼びかけている。今後もこれを徹底、浸透することを望む。各大会の主催自治体でも同様にしている。それは地域の活性化とともに社会に貢献しているとの意識のあり方が現れていると思う。これは継続する事項ではないか。その他、環境については視点を変えてみる事も必要で、各主催者側からの意見を聞く事で違う観点で取り組むことも必要である。

昨年は横浜トライアスロン国際大会が開催された。横浜市環境局の積極的な活動により横浜山下公園前の水質を向上させ国際トライアスロン連合の水質基準をクリアし、きれいな横浜港の海でトライアスロンが繰り広げられたことは社会的にも成果に値するものではないか。

我が日本トライアスロン連合環境委員会では上記ゴミの分別は当然のことと捕らえ啓発と実践で活動しております。各地における大会関係者とのコミュニケーションを大切に、よりよい環境で多くのトライアスロン関係者が満足できる大会を目指したい。

最後に兵庫県トライアスロン協会の提言を引用したい。

「自然を多く抱える兵庫県のトライアスロン界にとって、環境との共生をはからねばなら

ない21世紀は明るいといえる。なぜなら、自然環境が悪化して減れば、われわれの舞台も減るからである。自然の中でのトライアスロンがトライアスロンたる所以であって、作られた競技場の閉ざされた世界だけではトライアスロンはありえないのだ。

兵庫県トライアスロン協会は、その礎を出来るだけ早く築き、もっと気軽に楽しめるスポーツ環境を目指し、「thinking global, acting local」という姿勢で、明るくさわやかで民主的な運営を行うスポーツ団体でありたいと願うばかりである」

2010年も毎年同様な活動になるかと思うが気持ちを新たに積極的な活動で全国に波及する事を望む。

JTU 環境委員会委員長 鈴木 信之

## (社)日本スカッシュ協会

社団法人日本スカッシュ協会の平成21年度は、協会主催大会である「2009きよなん町・サンセットブリーズ CUP 第38回全日本スカッシュ選手権大会」と、「第23回ジャパンジュニアオープンスカッシュ選手権大会」、「JOC ジュニアオリンピックカップ第14回全日本ジュニアスカッシュ選手権大会」で次のキャンペーンを行った。

キャンペーンの名称とロゴは前年度を引き継ぎ、「JSA エコキャンペーン」である。

### 1. マイボトル・マイカップ

飲料廃棄物を減らす事がメインの目的であるが、飲料スポンサーへの配慮から、水分摂取の呼びかけを強調した。冷水の他に麦茶を用意し、昼食などで飲める様にした。そのことによって観客も参加できる様になり、よりキャンペーンを意識して貰う事ができた。

### 2. 分別収集

会場の地区によって収集の方針が違うので、その地区に応じた分別を行った。ペットボトルのキャップを別に集める事も、順調に浸透してきている。その他、賞品などの輸送に伴い発生した梱包材を廃棄する場合、エアパッキングの空気を抜くなどの工夫をして廃棄物体積を小さくするなどの工夫も行った。

ジュニア大会での積極的な環境活動は、次世代を担うジュニアに環境意識を持って貰え、スカッシュというスポーツからより視野の広い社会観を持つ事ができる様になる。ジュニア主導で行う事により、シニアの大会での選手の協力もより積極的な形となってくる。

その他に、特にキャンペーンとしては行っていないが、各委員会ではEメールの活用が定着しており、ペーパーレスを行い、使用済みスコアシートの裏紙利用など、紙の再利用にも務めている。更に移動の際の乗用車相乗りや大会会場へのシャトルバス運行による排気ガス削減にも取り組んでいる。

社団法人日本スカッシュ協会では、平成22年度より、普及渉外委員会の中の専門小委員会

として、「環境対策委員会」を設ける事になった。これにより、これまで以上に活動を積極的に進める事ができるようになる。スカッシュは競技から出る廃棄物が殆ど無いスポーツであるが、大会に集まる選手の環境意識を高める事で社会貢献を目指す。

当協会が環境活動を始めて2年。この間にも世界における自然環境の悪化が極めて明確化し始め、嫌がおうにも環境を考えざる得ない状況となってきている。一般の意識が高くなってきている事もあり、大会参加選手の協力がより積極的になってきている。分別収集などは当然の意識となってきている。喜ばしい事ではあるが、何とかこの環境破壊を食い止めない事には、スポーツをするゆとりすら無くなるのではないかという不安を感じる。設置された委員会を軸に、より積極的に環境保全意識を高めようとする所存である。

環境委員会委員長／常務理事 宮城島 真知子

## (社)日本ボディビル連盟

スポーツの原点は体であり、その体を作るのが運動と食事と環境です。

日本ボディビル連盟はいままでJOCスポーツ環境委員会の会議には参加してきましたが、組織化は2001年に設置されたJOCスポーツ環境委員会より遅れて2009年10月の総会で環境委員会が設置されたところです。まだまだ未熟な活動ですが今後、役員が中心となり全国の公認クラブ、選手、大会観客、関係者等の方々に環境問題の啓発活動を進め、環境保全意識の浸透と高揚を図っていきたくと考えています。また、日本連盟事務局では電子化によるペーパーレス化を図ると共に、ボディビル全日本選手権大会をはじめ各ブロック大会、地方大会等年間約50回開催される大会会場でゴミの分別化、大会プログラムへ啓発資料の掲載、環境標語横断幕の設置、ポスター掲示等の実践活動を進めていきたくと考えています。

当連盟は「出来ることからやる。」「STOP！ 地球温暖化」をスローガンに役員一丸となり環境問題に積極的に取り組んで参ります。

環境委員会委員長 磯野 武夫

## 日本カバディ協会

日本カバディ協会では、平成19年4月に環境委員会を設置以来、引き続きスポーツと環境保全の啓発、実践活動を行っている。

主な活動内容としては、主に当協会が主催した大会（全日本選手権大会、東日本大会、西日本大会）でのポスターの掲示、会場でのパンフレットの配布、全日本選手権大会では横断幕の掲示を行った。また、大会中は数回アナウンスを流し、ゴミは分別して会場に捨てずに持ち帰る、冷暖房の電源には触らない等環境保護を呼びかけた。大会プログラムにも注意事項を記載し、指導を徹底した。その他の競技会についても、同様に関係者にアピールした。

事務局における活動としては、ペーパーレス化推進の為、文書データは郵送やFAXでの

送受信を避け、Eメールによる連絡事項のやり取りを極力行った。コピー、FAX用紙の両面使用を徹底し、ゴミの削減、資源節約に努めた。また、事務所を出るときは電源を抜くなどのエネルギー、コスト削減にも心がけている。

カバディは、ほとんど道具を必要としないエコなスポーツである。今後、より一層環境問題への意識付けを行い、積極的に環境保全に貢献していきたい。

実施期日	事業内容	会場
6月14日	春季カバディ選手権大会	早稲田大学、所沢キャンパス
7月25～26日	第3回東日本カバディ選手権大会	板橋区、帝京高等学校／中学校体育館
9月13日	秋季カバディ選手権大会	早稲田大学、所沢キャンパス
10月24日	第11回西日本カバディ選手権大会	鳥取県米子市、箕蚊屋体育館
11月21～22日	第20回全日本カバディ選手権大会	渋谷区、国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室
1月31日	ニューイヤーカバディ選手権大会	早稲田大学、所沢キャンパス
2月28日	第19回全国学生選手権大会	文京区、駒込高校体育館

## 日本セパタクロー協会

### 1. 実施概要

日本セパタクロー協会では、平成21年度もスポーツと環境保全に関する啓発・実践活動を積極的に推進してきた。事務局では、チームマイナス6%で紹介されているCO<sub>2</sub>削減生活のアイデアなどを参考にして、極力二酸化炭素の排出をおさえる努力をし、低炭素化社会づくりの重要性について、大会などを通して会員に啓発する活動をすすめてきた。

### 2. 平成21年度事業活動

- ・事務局におけるエコを意識した業務の実践
- ・大会時の啓蒙活動及びCO<sub>2</sub>削減活動の実践
- ・環境イベントへの参加

### 3. 具体的な実施内容

- ・事務局の空調温度管理及び稼働時間の短縮、照明のこまめな消灯
- ・不使用時のPC電源OFF
- ・ゴミ分別の細分化及びエコキャップの推進（収集・寄付）
- ・大会開催時のゴミの分別・持ち帰り、公共交通機関利用の呼びかけ
- ・大会会場でのスポーツと環境保全に関するポスター掲示
- ・エコフラッグムーブメントへの賛同
- ・チームマイナス6%関連イベントへの参加

---

#### 4. 今後の活動について

今後は、チャレンジ25で推奨している6つのチャレンジのうち、特に以下の事項について推進したい。①クールビズ、ウォームビズの実践 ②マイバッグ、マイボトルの使用 ③公共交通機関の利用 ④カーボンオフセット商品の選択 ⑤地域の環境イベント参加

また、国際協会とタイアップして、国際レベルでの展開を強化していきたいと考えている。

環境委員会委員長 三澤 勝

### (3) (特非) 東京オリンピック・パラリンピック招致委員会の活動

#### Activities of the Tokyo 2016 Bid Committee

※2016年東京オリンピック招致に際して、平成21年2月12日に東京都がIOCに提出した「立候補ファイル」の内、「環境」に関するIOCからの質問への回答の抜粋。

#### 1. 大会組織委員会が計画している環境事業について、その目標等を述べてください。 また、大会に伴う環境への悪影響を回避する対策について述べてください。

その中では、以下の項目にふれてください。

- ・ 持続可能な会場設計及び建設
- ・ 水管理及び下水処理
- ・ 輸送
- ・ エネルギー供給、再生可能エネルギー利用
- ・ 大気汚染・騒音
- ・ 自然環境、文化遺産の維持発展
- ・ 廃棄物処理
- ・ 環境意識の啓発

#### 2016年東京オリンピック・パラリンピック環境ガイドライン

##### Winning the Earth's Future – 環境を最優先する2016年東京大会

オリンピック・パラリンピック競技大会は、生命、人類の可能性と多様性、それらを結ぶ感動を祝福する世界最大の祭典である。

オリンピックには競技自体のすばらしさに加えて、世界をより良い方向へと導く偉大な力、他に比べるもののない発信力がある。

世界最大規模の都市・東京の中心でオリンピックを開催することは、都市と人間、自然との調和、持続可能な地球の未来への重要なステップとなる。

2016年東京大会における環境への取組は、アスリートや大会関係者のみならず、観客、テレビ視聴者など世界中のあらゆる人々が舞台に立てる。その舞台では、誰もが勝利者となれる。勝ち取るのは、地球の未来である。

##### 2016年東京オリンピック・パラリンピック環境ガイドライン

環境ガイドラインは、2016年東京大会における環境マネジメントの最も重要なツールである。このガイドラインは、大会を通じ、個別の項目を定める様々なガイドラインの最高指針として、環境理念や環境事業の体系、ステイクホルダーとの連携や協力、施設別の環境目標、それらを実現する手法を定める。

#### 環境対策の3つの柱

環境ガイドラインは、次の3つの柱に基づいている（図1参照）。

##### ・ 環境負荷の最小化

2016年東京大会は、人類が直面している世界的な環境変動にポジティブな影響をもたらす、世界初のオリンピックである。カーボンマイナスオリンピック、環境負荷の少ない交通・運輸システムの構築、廃棄物から資源へ（5Rを進めるオリンピック）、大気・騒音・水質等環境への負荷の最小化により、ポジティブインパクトゲームを実現し、環境への負荷を最小化する。

東京都は、ライフサイクルアセスメントの専門家の意見に基づき、カーボンマイナスガイドラインを策定した。直接的であると間接的であると問わず、大会開催に伴うカーボン排出を最小化する。また、排出したカーボンは、2010年に開始するカーボンマイナスプログラム

によってオフセットする。

・自然と共生する都市環境の再生

水と緑の回廊で包まれた環境共生型の都市として、東京を再生する。臨海部の大会会場の一つである「海の森」の整備など、緑を大幅に増加させるとともに、各クラスターをグリーンロード・ネットワークで結び付ける。また、海から開催区域へ風を導く「風の道」や生物多様性に配慮して、施設を整備する。大会のために新たに建設する施設は、低カーボン、低エネルギー型にするとともに、敷地内・屋上・壁面に緑化を施すなど、環境共生都市を体現するデザインとする。

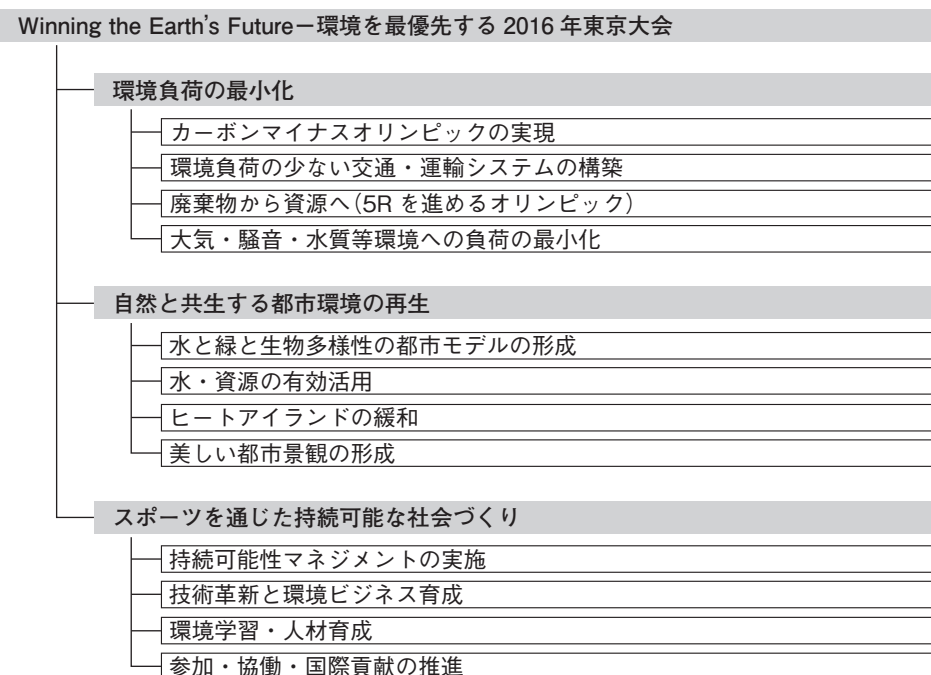
・スポーツを通じた持続可能な社会づくり

都内の小中学校、ユースキャンプ参加者、観客を対象として、スポーツと環境に関するプログラムを学ぶオリンピック環境学習を、国、JOC、東京都、環境NGO、民間企業、地域社会と連携して、幅広く展開する。

東京都は2007年に、スポーツ・文化に関する国内外との交流を推進するため、約2億ドルのスポーツ・文化振興交流基金を創設した。今後、こうした基金も活用し、スポーツを通じた環境への貢献を進める。

カーボンマイナスオリンピックを実現するため、開催決定後、大会組織委員会は速やかに国内外におけるカーボンマイナスプログラムに着手する。全世界のスポーツクラブが提案する環境プロジェクトに対して技術的・財政的支援を進めるエコスポーツクラブプログラムは、その重要な柱である。

図1 2016年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の環境政策の体系





## 2. 環境に関する目的や目標を達成するために用いる手法について、その詳細を述べてください。

### 持続可能性マネジメントシステム

大会組織委員会は、東京都の支援を得て、環境ガイドラインに基づくトータルマネジメントシステムによって実効性ある環境対策を推進する。

実施状況は、大会組織委員会に設置する環境専門家委員会が継続的に検証し、評価する。大会組織委員会は、評価書を環境アドバイザー委員会に報告するとともに、公表する。

### カーボンマイナスガイドライン

東京都は、ライフサイクルアセスメントの専門家の意見に基づき、2016年東京オリンピック・パラリンピック・カーボンマイナスガイドラインを策定した。

このガイドラインは、カーボンマイナスを定義するとともに、大会に伴って発生するカーボンはどう捉えるかについて、広範な対象範囲と厳密な算定方法を定めている。また、カーボンマイナスを達成するための、包括的なプログラムを示している。

大会組織委員会は、カーボンマイナスを実現するため、既存施設を最大限活用する。新たに建設する施設は、自然エネルギーを活用するパッシブデザインを積極的に導入する。また、高効率化技術や省エネルギー技術、再生可能エネルギーの活用を推進する。一方、大会開催中の施設運営等に伴って排出したカーボンは、即時オフセットする。

大会組織委員会は、カーボンの削減を実現するため、都民や企業と幅広く連携し協働するカーボンマイナス・ムーブメントを展開する。このようにして、大会組織委員会は、気候変動にポジティブな影響を与える大会を実現する。

## 3. 大会における環境面での実験的な取組や、環境開発計画、及び環境にやさしい技術の導入について述べてください。

### 水と緑の再生、生物多様性の維持発展プロジェクト

大会組織委員会は、2016年東京大会を通じ、様々な環境技術や開発手法を駆使して環境最優先の大会を実現し、様々なレガシーを残す。その中でも、東京を水と緑の回廊に包まれた環境共生都市として再生することに、とりわけ重要である。

東京都の長期的な都市戦略「10年後の東京」は、その冒頭に、水と緑に囲まれた都市空間の再生、高度な都市活動と自然環境の共生を掲げている。東京都はこの計画に基づいて実行プログラムを定め、取組を開始している。

2016年東京大会は、緑が隅々にいきわたった都市のオリンピックとなる。

緑の都市再生のシンボルである「海の森」事業は、多彩な環境技術を駆使して着々と進んでいる。都内の公園や街路樹の落葉、上下水道等の発生土処理材をリサイクルした堆肥によって豊かな土壌をつくり、募金により購入した苗木や子供たちが種子から育てた苗木を植林する。森を創るすべてのプロセスに、様々な人々、あらゆる世代が幅広く参加する「緑のムーブメント」により事業を進めている。生物多様性に配慮しつつ、48万本を植林し、完成後は88haの緑あふれる森、水にふれあひスポーツが楽しめる海辺、鳥や水生動物等の生物多様性が維持されたサンクチュアリが誕生する。

東京都は、大規模開発に際し緑地の整備を求め、一方、事業者も施設の価値を向上させるとともに社会的責任を果たす観点から、敷地内や屋上・壁面の緑化に取り組んでいる。

こうした取組に加えて、2016年東京大会のクラスターとして整備される大規模緑地の整備

とそれらをつなぐ道路の街路樹倍増、河川や運河の護岸緑化、公共交通機関の沿線緑化を進め、約700haの緑地を整備する。

同時に、小中学校の校庭芝生化により約300haの緑地を生み出し、2016年までには合わせて約1,000haの新たな緑地を創出する。

東京ベイゾーンは、市街地へ海の風を呼び込む導入部という重要な位置にあたる。そこで、この地域に整備する新たな施設は、水と緑の回廊に包まれた新たな環境共生都市の象徴として、敷地内の緑化はもとより、屋上・壁面緑化、ビオトープの整備を進める。これらの施設は、環境最優先のオリンピックを実現するとともに、景観上も重要な役割を果たすものとなる。

選手村は、日本の気候に応じた伝統的な建築技術と最先端の環境設備との融合を体現する一つのモデルとなることを目指している。日本の伝統的な建築材料である木材を多用し、自然の光や風を取り入れるパッシブデザインの居住空間は、エネルギーを最小限に抑え、快適な環境を提供する。

一方、東京湾のさらなる水質改善に向け、高度下水道処理施設の整備、水生生物を活用した水質浄化等を推進する。今後、浸透膜技術など、最先端の環境技術を導入した取組についても検討する。

#### 4. 質問事項以外で、招致委員会が特に付け加えたいことがあれば述べてください。

##### スポーツを通じた持続可能な社会づくり

良好な環境は、優れたパフォーマンスを引き出す必要条件である。エリートアスリートであると、草の根のスポーツ愛好家であるに関わらず、スポーツをするとき、人は環境に最も敏感となる。

一方、スポーツの与える喜びや感動は、人を具体的な行動へと駆り立てる力をもつ。スポーツを原動力として環境への意識を高め、環境負荷のより少ない行動を促していくことが重要である。

2016年東京大会は、すべての大会関係者、スポンサーやサプライヤー、観客、TV観戦者等に対し、環境に貢献する具体的な行動を求める大会である。

著名なオリンピックやパラリンピアン、アスリートによる環境啓発キャンペーン「フェアプレイ・フォー・アース」が、大会のコミュニケーションプログラムに織り込まれることとなる。

新たに建設する施設には、最先端の環境技術を導入する。また、バックヤードツアーや環境設備のプレゼンテーション、放送事業者の協力を得てオリンピック中継の合間に環境技術を紹介することなどにより、大会そのものを人々が環境を強く意識するショーケースとする。また、大会施設やライブサイトで、スポンサー、サプライヤー等の環境配慮に関する展示会を開催する。

大会組織委員会が直接購入する製品やサービスはもとより、大会関係者に対しても、再生素材を使用したユニフォームや用品類など、環境負荷の少ない製品やサービスを優先的に使用することを求める。また、アスリートやNOC、IFの協力を得て、都内の児童生徒や学生、ユースキャンプ参加者、観客、一般都民を対象に、環境学習・環境啓発プログラムを実施する。

一方、大会組織委員会は、全世界のスポーツクラブが提案する環境プロジェクトを、エコスポーツクラブプログラムを通じて、技術的・財政的に支援する。

## (4) JOCスポーツ環境活動者一覧

Activities person of Sport and Environment

### ■ 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

List of environment commissions in each JOC affiliated NFs and organizations

(平成22年3月現在)

団体名	委員会名/役職/氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)日本陸上競技連盟	JAAFグリーンプロジェクト 委員長 有澤政雄	副委員長：中尾敬治、瀬古利彦、戸松哲男 委員：石上敬久、瀬戸邦宏、三浦敬司、牛嶋英輔、大野 弘、甲斐澄子、五味 恵、斎藤文子、高村佐太郎、林 潤二、矢作和昭、櫻井治男、日隈広至	三宅 聡
(財)日本水泳連盟	スポーツ環境委員会 委員長 佐野和夫		小川知伸
(財)日本サッカー協会	環境プロジェクト 委員長 田嶋幸三	委員：岡田武史、濱口博行、羽生英之、真田幸明、加賀山公、湯川和之、藤ノ木恵、玉利聡一、窪田慎二	玉利聡一
(財)全日本スキー連盟	スポーツ環境委員会 委員長 村里敏彰	委員：吉田英一、富田政利、林 辰男、山田 隆、古川年正、齋藤二郎、瀬尾 洋、佐藤 昭	宮沢賢一
(財)日本テニス協会	スポーツ環境委員会 委員長 橋爪 功	副委員長：宗 中正 委員：秋山英宏、飯田 剛、佐々木信子、吉田友佳、中内まどか、松岡修造、秋山 忍、大西哲夫、生沼明人	関口久美
(社)日本ボート協会	安全・環境委員会 委員長 清水一巳	委員：小沢哲史	竹内麻記子
(社)日本ホッケー協会	総務委員会 スポーツ環境部会 委員長 寺田一夫	副委員長：瀧上正志、馬場治男 委員：川崎東一郎、西中武士	西中武士
(社)日本アマチュアボクシング連盟	環境部会 委員長 寺崎 誠(部会長)	副委員長：荒木 健	内海祥子
(財)日本バレーボール協会	環境委員会 委員長 浅草知敏	副委員長：橋口陽一 委員：西部卓志、上杉 忠	小田桐隆司
(財)日本体操協会	総務委員会・環境対策部 委員長 森末慎二		八木沢則子
(財)日本バスケットボール協会	環境委員会 委員長 木内貴史	副委員長：山田章博 委員：成澤偉三郎、品田奥義、有本 功、羽角国広、松岡憲四郎、弘田充宏	羽角国宏 松岡憲四郎
(財)日本スケート連盟	スポーツ環境活動委員会 委員長 山崎弘雄	副委員長：岩島直己	山本 洋
(財)日本アイスホッケー連盟	環境委員会 委員長 君塚 晋	副委員長：谷田順一 委員：木野内毅、細谷妙子	細谷妙子
(財)日本レスリング協会	スポーツ環境委員会 委員長 鎌賀秀夫	委員：木名瀬重夫、真田栄作、本田原明、白井正良、吉澤 昌、関貴 史	
(財)日本セーリング連盟	環境委員会 委員長 青山 篤		前田彰一
(社)日本ウエイトリフティング協会	スポーツ環境委員会 委員長 守 昌宏	副委員長：野呂記代志 委員：後藤節哉、舟喜信生、仁科健太郎、篠弘 明	貝沢久美
(財)日本ハンドボール協会	環境委員会 委員長 伊藤宏幸	副委員長：兼子 真 委員：家永昌樹、羽田裕一、村上 隆	兼子 真

団体名	委員会名／役職／氏名	副委員長・委員会ほか	事務局
(財)日本自転車競技連盟			大池新次
(財)日本ソフトテニス連盟	環境部会 委員長 柳下秋久	委員：藤原伸二、神崎公宏、宮下恭子、津田 誠、 田鹿明彦	竹田 稔
(財)日本卓球協会	環境委員会 委員長 後藤広子		渡邊紗智子
(財)全日本軟式野球連盟	委員長 牧野勝行	委員：渡邊起祐	熱海奈津美
(社)日本馬術連盟	環境委員会 委員長 大波多廣一	委員：矢作直也	飯田 悟
(社)日本フェンシング協会	環境委員会 委員長 川口大三	副委員長：河原塚淳	川口大三
(財)全日本柔道連盟	柔道ルネッサンス特別委員会 委員長 山下泰裕	副委員長：細川伸二 委員：山口 香	坂本健司
(財)日本ソフトボール協会	スポーツ環境委員会 委員長 鈴木 征	委員：笹田嘉雄、豊嶋芳紀	横田博之
(財)日本バドミントン協会	委員長 今井茂満	副委員長：近岡 昭 委員：池田公子、本田修治	今井茂満
(社)日本ライフル射撃協会	総務委員会環境部会 委員長 永谷喜一郎	委員：永谷喜一郎、田村恒彦、高 淳一	塚越ゆかり
(財)日本ラグビーフットボール協会	管理委員会環境部門 委員長 岡本武勝	副委員長：児玉隆一郎 委員：岩上教行、片山良太、大山高行	橋登紀子
(社)日本山岳協会	自然保護委員会 委員長 長谷川茂	委員：青木敏雄、浅見 豊、岩崎繁夫、梅山義弘、 遠山若枝、小原美子、小高令子、斎藤長作、 徳永邦光、廣田 博、細野賢治、松隅 豊、 三ツ木遠男、山口泰雄	松隅 豊
(社)日本カヌー連盟	環境対策委員会 委員長 八楸美由紀	副委員長：本田 泉	岩上禎宏
(社)全日本アーチェリー連盟	主担当 島田晴男	副委員長：穂苺美奈子	島田晴男
(社)全日本銃剣道連盟	委員長 兼坂弘道	委員：大塚 享、関 高、村井敏夫、西尾耕一郎、 東 昭夫、伊藤武人、上萬 涼、上村 正、 渡辺邦夫	藤田廣大
(財)全日本ボウリング協会	普及開発委員会 委員長 榎本隆明	副委員長：黒河敏一 委員：金安利和、荻野和男、伊藤 寛、青木 稔、 多田信行	宮内久美子
日本ボブスレー・リュージュ連盟			池田芳正
全日本アマチュア野球連盟	スポーツ環境委員会 委員長 内藤雅之	委員：柴田 穰	
(社)日本トライアスロン連合	委員長 鈴木信之	副委員長：松生治子 委員：中島あゆみ、小金澤光司	中山正夫
(社)日本スカッシュ協会	環境対策委員会・ JSAエコプロジェクト 委員長 宮城島真知子	副委員長：小前ひろみ	梶田招希子
(社)日本ボディビル連盟	環境委員会 委員長 磯野武夫	副委員長：磯野俊夫 委員：高岡光弘	小西康道
日本カバディ協会	環境委員会 委員長 九重 卓	副委員長：林 佳子 委員：河合陽児、松橋耕二、高野一裕、津田はる、 佐藤美奈子	河合陽児
日本セバタクロウ協会	環境委員会 委員長 三澤 勝	副委員長：寺本 進 委員：赤石量也、中塚智之	三澤 勝

## ■ JOC スポーツ環境アンバサダー

*JOC Sport and environment ambassadors*

(平成22年3月現在)

氏 名	オリンピック出場大会	競技名	出場種目
瀬古 利彦	1984 ロサンゼルス 1988 ソウル	陸上競技	男子マラソン
岩崎 恭子	1992 バルセロナ 1996 アトランタ	水泳	女子200m平泳ぎ 女子4X100mメドレーリレー
原田 早穂	2004 アテネ 2008 北京		シンクロナイズドスイミング
岡田 武史	1984 ロサンゼルス予選	サッカー	
荻原 健司	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野 2002 ソルトレークシティ	スキー	ノルディック複合団体 ノルディック複合個人
松岡 修造	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ	テニス	男子シングルス
大林 素子	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ	バレーボール	女子チーム
塚原 光男	1968 メキシコ 1972 ミュンヘン 1976 モントリオール	体操	男子
黒岩 敏幸	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野	スケート	スピードスケート
八木沼 純子	1988 カルガリー		フィギュアスケート・ 女子シングル
小林 孝至	1988 ソウル	レスリング	フリースタイル
中村 淳子		柔道	女子

## (5) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

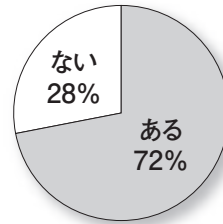
Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

JOC加盟55団体を対象に6年前から、「スポーツと環境」に関するアンケートを実施。活動の現状や浸透状況を把握しつつ、今後の指針づくりにも役立てている。

平成21年度は94%の回答が得られ、その7割の団体で「スポーツ環境委員会」あるいは「環境保全プロジェクト」が設けられ、6年前のほぼ3.5倍にのぼっている。

### 【平成21年度】

#### 1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか



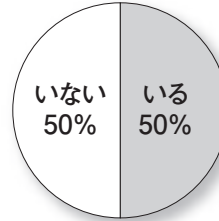
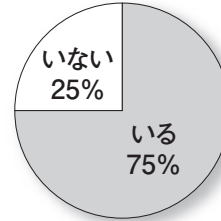
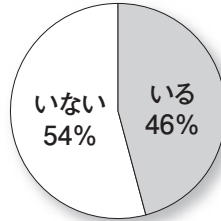
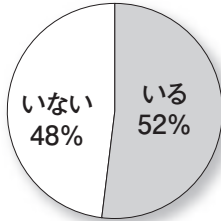
#### 2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

ア 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している

イ 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している

ウ トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするようにすすめている

エ 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している



#### オ その他

- 大会リザルト用紙の大幅削減（ペーパーレス）、全国水泳チーム・クラブ環境活動コンテストの実施
- 文具等は再生品を購入する等配慮（本連盟会員登録の申込書にチーム・マイナス6%チーム宣言欄を設けそこで登録可能。また会員証にその旨を記載）競技の特性で環境に配慮した用具はまだ無い
- 両面コピー、分別廃棄等
- 環境キャンペーンフラッグ、ステッカー、横断幕など
- 大会参加選手へのエコバッグ配布、大会スタッフのベストにエコマーク製品を使用
- 環境標語と募集、入選作品の横断幕を作成、支部協会封筒に印刷し、啓発
- 主催行事にてポスターの掲示
- 鉛弾頭の回収、CO<sub>2</sub>ガスに変えて空気圧縮を空気放銃に使用
- 日本協会 HP にて啓発活動の推進
- 簡易トイレの携帯、ゴミ分別持ち帰り推進
- 植林活動
- 事務局の空調温度設定を徹底している

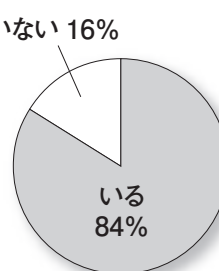
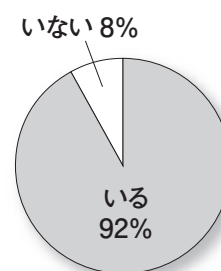
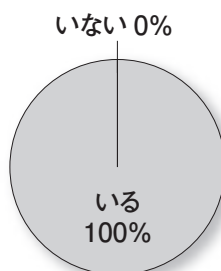
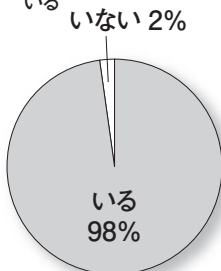
#### 3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

ア 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮している

イ ごみの分別を実施している

ウ ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

エ 会場設営、運営の際、環境に配慮されるよう働きかけている

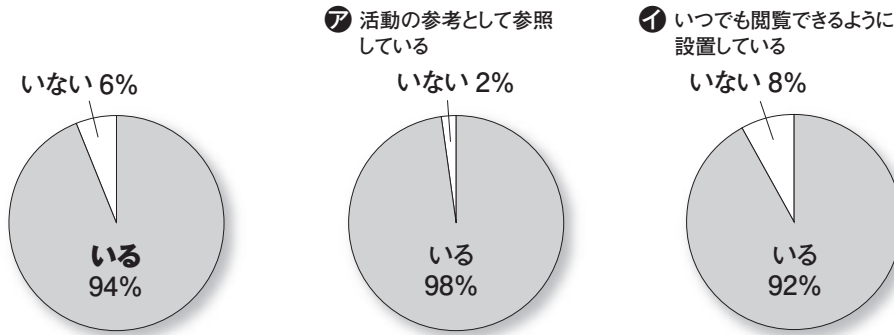


④ その他

- 環境横断幕の掲出、競技役員用エコシャツの使用
- エコキャップ収集活動
- 監督、主将会議、実行委員会に徹底励行
- NFのHPに「チーム・マイナス6%」にリンクを貼り取り組みへのPRを実施
- 役員の飲料用プラスチックカップはカップに記名して同じものを使用
- 会場での担当役員による指導(スチュアートが兼務)
- トップ選手の競技会でのアピール
- ジュニア発掘会場ではBB弾の回収を実施
- ゴミの集積場所撤去による自己解決を推進
- 監督会議等において環境保全を徹底、場所は日本武道館に決定
- ジャッジのペーパーレス化

4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

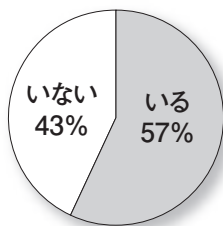
いと答えられた場合：どのように活用していますか



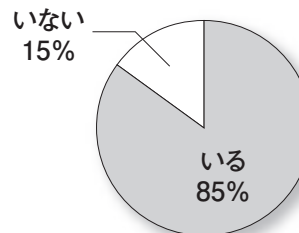
⑦ その他

- 関係者訪問時の持参
- 地方協会にも配布
- 環境保全をめざし国体時に植樹を実施
- 海辺のゴミ拾い運動、ペットボトルキャップ回収→ベンチ製作
- 他団体の活動を参考に実施
- 理事会に報告
- 理事会、総会で案内
- 事務局及び種目別強化センターに設置し、閲覧可能
- 大会会場、講習会場からのゴミの持ち帰り

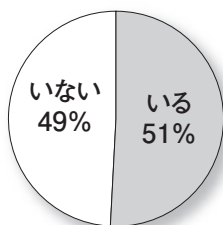
5 機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか



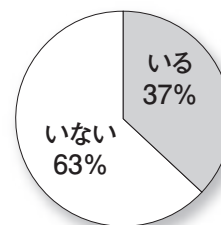
6 事業実施の時に、横断幕、ポスターおよびパンフレットを配布していますか



7 会議、大会開催時に環境についてのスピーチを行っていますか



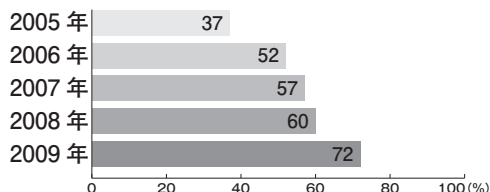
8 貴団体は環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーに登録していますか



## 【年次推移】

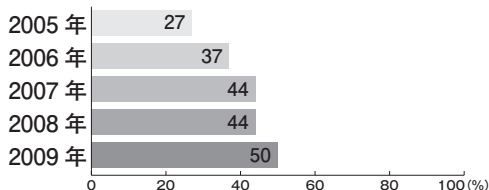
※数値はすべて「はい」の割合  
※過去5年の推移

### 1 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

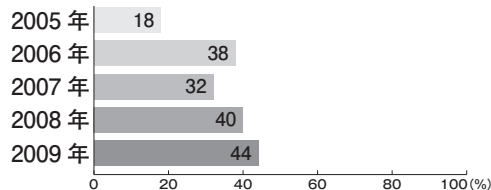


## 2 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

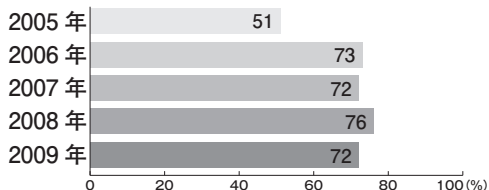
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



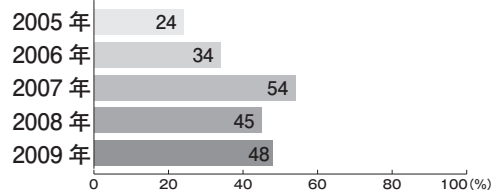
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている

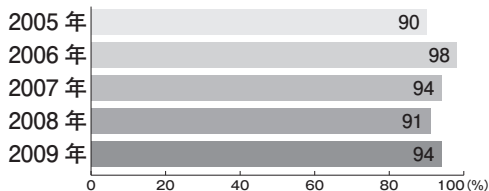


エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

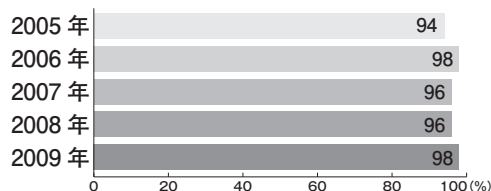


## 3 競技会における環境保全のため実施されている活動について

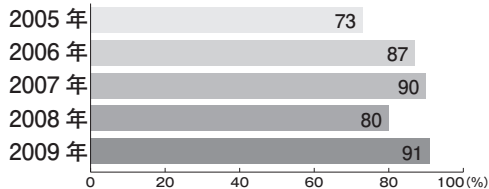
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



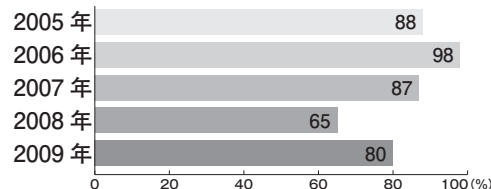
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している

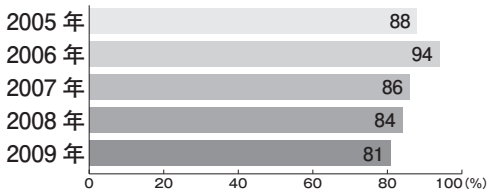


エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する

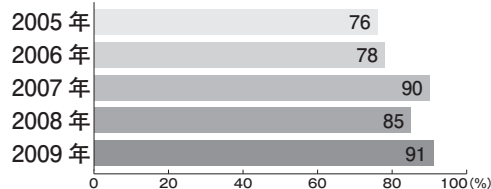


## 4 JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している





## (6) 国際大会での活動

JOC environmental activities at the International Games

### 【第21回オリンピック競技大会（2010／バンクーバー）】

#### 「スポーツを支える舞台、自然を大切にしましょう。」

バンクーバーで開催される第21回オリンピック冬季大会に参加される皆さんが日頃の練習で鍛えた力を存分に発揮して成果を挙げられるよう健闘を期待します。

近頃は二酸化炭素ガスの排出が多くなり、昔と比べて体感できるほど地球温暖化が進行しています。その一つの現象として北極の水や地球各地にある氷河もこれから数十年で融けてしまい、今まで年中消えずにあった世界の山々の雪もその多くの部分がやがて消滅するだろうと言われています。日本の北に位置する地域では池や湖が自然に凍り、多くのスケーターがその中で育ちました。世界の降雪量が少なくスキー競技会場が頻繁に変更、中止の事態が起っています。

雪と氷の競技に限定されている冬季大会は将来、雪と氷が無くなったら消滅してしまうのです。

私たちスポーツに関係する者もこの地球の自然の恩恵で活動をしています。IOC、JOC、国際・国内の競技団体は今こぞってこの環境を守ることを、温暖化を防止してスポーツが健全に出来るように色々な活動を推進しています。

以前は「地球規模で考えて、身の回りで出来ることを実行しよう」と、まずポスターなどで環境保全の重要性を啓発し、不要な電灯を消すことや、コピーを余分にとらない、紙の裏表を使う、リサイクルのためにゴミの分別をするなどの対策を実践してきました。

スポーツ界ではスポーツやイベントが地球上で持続できるように、スポーツ関係者すなわちIOC、NOC、IF、NF、役員、競技者、政府、自治体、地域コミュニティ、報道、輸送、スポンサーを始め関連業者、施設建設業者、施設管理者そしてオリンピック大会・世界大会や国内選手権の組織団体が環境保全に対して連絡を密にして協働体制を取ることになっています。

また、より効果の高い諸活動とするために、1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティング・コミュニケーションを具体化することが提唱され、このバンクーバーの大会から実践されています。

バンクーバー・オリンピックに参加する選手・役員の皆さんは、私たちがスポーツを活動できる自然環境に敬意を払い、環境保全に向けて高い意識を持ち、身の回りで出来ることを実行しましょう。また、機会があればこの考えを多くの皆さんに伝えてください。



財団法人日本オリンピック委員会  
スポーツ環境専門委員会

## [第25回ユニバーシアード冬季競技大会 (2009／ベオグラード)]

## [第5回東アジア競技大会 (2009／香港)]

### 「地球温暖化防止に高い意識を持ち、出来ることを実行しましょう」

ベオグラードで開催される第25回ユニバーシアード競技大会、及び香港で開催される第5回東アジア競技大会に参加される選手・役員の皆さんが実力を存分に発揮し素晴らしい成果を上げられることを期待しています。

選手・役員の皆さんも十分に認識されていると思うが、近年、地球温暖化が大きな気候変動を引き起こし私たちの社会生活に極めて深刻な影響を与えています。幾つメダルを取ろうと、前人未到の世界記録を作ろうと、温暖化が深刻な気候変動を起こし、もし人類を含む生態系が絶滅するなら何の意味も無いのです。

地球や人類の長い歴史の中で世界の人口はこの100年で約4倍の60億人に増加しました。20世紀に石油や石炭をエネルギー源として文明は加速度的に発展し、生活は非常に便利になった反面、大量のエネルギー消費から温暖化ガスのひとつである二酸化炭素ガスを排出し地球の平均気温は上昇し続けているのです。

IOCは1990年代初頭に、オリンピックムーブメントは今までの「スポーツ」と「文化」に加え「環境」の3本柱で推進されるものと表明し、1995年にはスポーツと環境委員会を設置しました。2001年にはJOCも設置し、これらの委員会が中心になりスポーツ界の環境保全活動を関係競技団体、スポーツ関係者や環境省と連携して強力に推進しています。

現在、日本スポーツ界では、選手を含む全てのスポーツ関係者が連携を密にして、環境問題の現実を認識し具体的な対策を理解してもらい啓発活動と環境保全対策を実行する実践活動の二つを展開しています。

私たちは限りある資源、エネルギー源を大切に使うために、それらを節約し、再利用し、リサイクルしなければなりません。エネルギー節減のために余計な電灯のスイッチを小まめに切ります。「混ぜればゴミ、分ければ資源」と言う言葉が示すように、全てのものを分別することで再び資源として再利用します。又、CO<sub>2</sub>を吸収し酸素を放出する樹木を増やすことも重要な活動です。

選手の皆さんは、その言動が注目されています。スポーツだけではなく日常生活においても社会の模範になるように環境問題を良く理解し、スポーツ界の温暖化防止、環境保全活動に努めて下さいますようお願いいたします。



財団法人日本オリンピック委員会  
スポーツ環境専門委員会

## (7) 環境省との連携について

*Collaboration with the Ministry of Environment*

### 環境省との地球温暖化防止のための連携活動

#### 「チーム・マイナス6%」、そして「チャレンジ25キャンペーン」

##### JOC と環境省

JOC は、京都議定書に基づき温室効果ガスを削減するための大規模国民運動「チーム・マイナス6%」に発足時の2005年から参加し、環境省との協力・連携をとってきた。世界各国の大会や合宿、国際会議、そしてもちろん国内での大会や練習などにおいても実感するようになった地球温暖化、気候変動による危機。その事実を肌で感じているアスリートや競技関係者が全国民の模範となって温暖化防止活動をその象徴となって推進すべく、JOC と JOC 加盟国内スポーツ団体は率先して行動を起こし、大会などを通じて その参加者や観戦者への呼びかけを行ってきた。

日本の環境行政を司る政府・環境省も、こうした JOC 及び加盟国内スポーツ団体の積極的な活動姿勢とその行動の影響力、そして国民の憧れの対象であるアスリートからの情報発信力を多めに評価し、また期待し、これにより、JOC と環境省「チーム・マイナス6%」の連携は深化した。

##### チーム・マイナス6%とのコラボレーション

JOC とチーム・マイナス6%は、一人でも多くの人々の気付きを促し、未来の子供たちのために今の私たちもできることを考えるきっかけとなるよう、スポーツ界からの顔の見える情報発信を考え様々な活動を協力しておこなってきた。

2006年2月のトリノオリンピック以降の、アスリートや JOC 環境アンバサダーからのメディアやイベントを通じての発信を行った。

2007年からは陸上・水泳・サッカー・スキー・テニス・バレーボール・体操・スケート・レスリング・柔道の、JOC スポーツ環境専門委員会委員輩出10団体の主催／関係大会において、そのスポーツ独自の地球温暖化防止メッセージが書かれた横断幕を掲出し、選手・関係者がこれを持って記念撮影を行い、大会プログラムにはそのメッセージとそのスポーツのトップアスリートなどが登場する広告を掲載し、会場内ブースではチーム員登録ブースを設けるなど、複合的なコラボレーション活動を実施した。

2008年、北京オリンピックの年には、オリンピック参加全選手・役員用にマイバッグを製作、壮行会で鴨下一郎環境大臣（当時）から代表選手へ手渡した。日本選手団の帰国後は、メダリストたちがマイバッグを持った集合写真を「オリンピックは地球以外で開催できない」というメッセージとともに全国紙に新聞広告として掲載し、さらにこの広告をポスターとして各所に掲出、各 NF の大会プログラムに掲載するなど、メダリストたちの発信力が存分に生かされた、地球温暖化防止メッセージの全国的発信を行った。

またこの年の10月12日には「「スポーツと環境」グリーンアクションフォーラム」を開催（主催：JOC、特別協力：チーム・マイナス6%（環境省））。竹田恆和 JOC 会長は「スポーツ界はその影響力を活かし、低炭素社会実現に大きな力となるべき」と挨拶。斎藤鉄夫環境

大臣（当時）は「スポーツが持つ影響力を発揮して欲しい」と期待を語った。ディスカッションでは末吉竹二郎国連環境計画金融イニシアチブ特別顧問・水野正人 IOC 環境委員・板橋一太 JOC スポーツ環境専門委員会委員長がアスリートのメッセージが環境アクションを生む力になると議論。トークショーでは北島康介選手、谷本歩実選手、太田雄貴選手がそれぞれ「わたしが環境大臣だったら…」などそれぞれの経験や思いを語り、最後は参加者全員で「スポーツと環境 アクション決議」を読み上げて今後の行動への決意を表した。

2009年には、味の素ナショナルトレーニングセンターなどで開催された『平成21年度「体育の日」中央記念行事スポーツ祭り2009』の会場内メインステージのすぐ横にチーム・マイナス6%のPRブースを設け、スポーツ好きの幅広い年齢層の来場者の方々が気軽に楽しめるゲームやパネルを展示し、「電気をこまめに消そう」などのメッセージをつたえる環境省のマスコットの「コマメちゃん」も登場して、多くの方が訪れ、チーム員登録を行った。

#### チャレンジ25キャンペーンとスポーツ界

2010年1月、鳩山由紀夫首相（当時）は国際社会における日本の目標と、その実現のための日本国内での新たな国民運動の合言葉として「チャレンジ25」を掲げ、1月19日、首相官邸で各界の著名人が参加するなか、「チャレンジ25キャンペーン」キックオフイベントが開催された。JOCからは大林素子 JOC スポーツ環境アンバサダーが出席。その他スポーツ界からは岡田武史さん（JOC スポーツ環境アンバサダー）、杉山愛さんが出席。そして鳩山首相・小沢鋭仁環境大臣と今後の環境行政とスポーツの関わりについて意見を交わすとともに、チャレンジ25応援団キャプテンとなった加山雄三さんらとともに「チャレンジャー」として今後も地球温暖化防止のためのメッセージ発信活動を進めることとなった。

#### Think Globally、Act Locally

地球温暖化防止のための、ひとりひとりの生活や考え方の進化。より効果的な温室効果ガス削減と、持続可能な地球環境のための低炭素社会づくり。そして平成22年度には国際条約にもとづき生物多様性についての国際会議が名古屋で開催されるなど、地球環境については様々な視点での取り組みが進んでいる。

IOC は UNEP（国連環境計画）と連携してオリンピック事業において数々の取組みを行っており、JOC も IOC と共に、「Think Globally、Act Locally（地球規模で環境問題を考え、足もとから行動する）」というスローガンを掲げ、日本国内での具体的活動を展開するとともに、政府・環境省と連携を重ねてゆく。



## (8) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

### Lecture draft on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

「私達スポーツを愛するものは環境保全の大切さを理解し温暖化防止などにエネルギー・資源の節減やゴミの分別などできる事から実行しましょう」

## スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

### 1. スポーツと環境についての理解

#### (1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れませんがそれは幻想です。
- ② 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。

#### (2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- ① 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。

#### (3) Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する)

- ① 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

### 2. 協力依頼

#### (1) まず、環境でどのような問題があるかを理解しましょう

- ① 地球規模で温暖化が進み、それが原因で気候が大きく変動し、私たちの環境が破壊されています。
- ② 農業、漁業、多くの産業が気候変動によって大きな打撃を受けています。
- ③ 生態系の根本である食物連鎖が途切れて絶滅種が多くなりつつあります。

#### (2) 高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ① エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
  - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)

- b. 再使用 (Reuse)。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることで。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
  - c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)
- ②夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減
- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
  - b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)
- ③ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
- a. 『混ぜればゴミ、分ければ資源』の言葉通り、廃棄物を分別する事で資源として再利用やリサイクルが可能になります。
  - b. 日常生活やスポーツ活動の中でも分別を心がけましょう。
- ④温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行しましょう。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

## スポーツと環境について15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

### 1. 私達は全員地球人です (宇宙船地球号の乗組員)

- ①46億年前に地球は形成されました。
- ②300万年前に人類が地上に出現しました。
- ③1万年前に大家族制による農業革命が occurred しました。
- ④20世紀は人類の転換期 (文明の急速発達) でした。
- ⑤便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染が進んでいます。
- ⑥環境問題を列記してみましよう。
  - a. 地球温暖化
  - b. オゾン層破壊
  - c. 酸性雨
  - d. 野生生物種の減少
  - e. 森林の減少
  - f. 地球規模の砂漠化

- g. 海洋汚染
- h. 有害廃棄物の越境移動
- i. 大気汚染

## 2. スポーツと環境についての理解

- ①スポーツを愛する私たちも皆、地球人。
  - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です。
  - b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります。
- ②私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。
  - a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能なのです。
  - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生き続けても地球からのバックアップなしには生き続けられません。
  - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります。
- ③ Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、身の回りのできる事を実行する。)
  - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
  - b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てばできる簡単な事です。

## 3. スポーツと環境活動の経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林。
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）。
- ③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名。
- ⑥1994年IOC100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催。
- ⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
- ⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催。
- ⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催。
- ⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）でOlympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。
- ⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。  
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践。
- ⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催。  
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対して

パートナーシップを組むことが決議された。

- ⑭2005年第6回 IOC スポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催。
- ⑮2007年第7回 IOC スポーツと環境世界会議を中国・北京で開催。
- ⑯ IOC ジャック・ロゲ会長が IOC のスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた。
- ⑰ IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞。
- ⑱ IOC は UNEP が進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明。

#### 4. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ①『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスを丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な社会の開発をしようというものです。
- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ社会のどのような要素にもどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミをある一定期間（約25日）酵素処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらはまた資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です。

(5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています

- ①エネルギー資源を節減する為に3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。
  - a. 削減（Reduce）。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）
  - b. 再使用（Reuse）。同じモノをできるだけ多い回数使うように工夫をすることで



す。例えばサイズの問題で着る事ができなくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

- c. リサイクル (Recycle)。使えなくなった物を上手く分解して素材ごとにリサイクルし再び資源として使用することです。(例：ペットボトル→繊維)

#### (6)夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫で冷暖房のエネルギー使用を削減

- a. 冬には暖かい下着を着用し、或いはもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることができます。(ウォーム・ビズ)
- b. 夏はできるだけ涼しい服装や、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クール・ビズ)

#### (7)温暖化の源である二酸化炭素を減らす為に炭酸同化作用（二酸化炭素を吸って酸素を放出する作用）をする樹木を増やす手伝いをしましょう

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが模範的活動を推進し社会の中で環境保全のリーダーとなるように願っています。

## スポーツと環境について30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

### 1. 私達は全員地球人（宇宙船地球号の乗組員）

- (1)46億年前に地球は形成されました
- (2)300万年前に人類が地上に出現しました
- (3)1万年前に大家族制による農業革命が occurred
- (4)20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした
- (5)便利な社会になった反面、大量の化石燃料を消費する事によって温暖化が進み、気候が大きく変動し自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます

### 2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

#### I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1)海面水位上昇による土地の喪失
- (2)豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3)生態系への影響や砂漠化の振興
- (4)農業生産や水資源への影響
- (5)マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

## Ⅱ. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1)森林の衰退
- (2)湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3)歴史的な遺跡や建造物などへの影響

## Ⅲ. オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1)皮膚がんや白内障の増加
- (2)免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3)動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4)大気汚染などの影響

## Ⅳ. 野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1)遺伝子資源の減少
- (2)観光・レクリエーション資源の減少
- (3)生態系の破壊
- (4)食物連鎖の破壊

## Ⅴ. 森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1)そこに生息する野生生物種の減少
- (2)土壌（表土）の流失
- (3)森林に蓄積された炭素がCO<sub>2</sub>となって放出される事による温暖化の進行
- (4)水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

## Ⅵ. 地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1)食糧生産基盤の悪化
- (2)生物多様性の喪失
- (3)貧困の加速
- (4)気候変動への影響
- (5)都市への人口の集中
- (6)難民の増加

## VII. 海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1)生態系の破壊
- (2)漁業資源や観光資源の喪失
- (3)有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

## VIII. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

### 3. スポーツと環境についての理解

#### (1)スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージで環境問題とは関係が無いと思われるかも知れないがそれは幻想です
- b. 人間として社会生活をしているものはスポーツマンを含め、皆で環境を考え、空気や水や土を大切に環境保全を実行する義務があります

#### (2)私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります

- a. 地球に生きる全ての生態系は地球の外で生きて行く事は不可能です
- b. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行する必要があります
- c. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きていても地球からのバックアップ無しには生き続けられないのです

#### (3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)

- a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのように温暖化や汚染が進み、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです
- b. そして、地球規模で起こっている問題を考えつつ対策を実行しますが、それは私たちの生活の中で少し意識を持てば出来る簡単な事です

### 4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- ①1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- ②1976年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）
- ③1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- ④1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
- ⑤1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- ⑥1994年IOC 100周年パリ・コンGRESでスポーツと環境分科会開催
- ⑦1995年IOCにスポーツと環境委員会設置
- ⑧1995年第1回IOCスポーツと環境世界会議をスイス・ローザンヌで開催
- ⑨1997年第2回IOCスポーツと環境世界会議をクウェート・クウェート市で開催
- ⑩1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議（ブラジル・リオデジャネイロ）で

Olympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された

- ⑪2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始
- ⑫2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催  
"Give The Planet A Sporting Chance" Olympic Movement's Agenda 21の実践
- ⑬2003年第5回IOCスポーツと環境世界会議をイタリア・トリノで開催  
スポーツ関係者（選手、役員、IOC, IF, NOC, NF, OCOG, 地方政府、観客、放送、スポンサー、サプライヤー、建設業者など）が有機的に連繋を取り合い、環境に対してパートナーシップを組むことが決議された
- ⑭2005年第6回IOCスポーツと環境世界会議をケニア・ナイロビで開催
- ⑮2007年第7回IOCスポーツと環境世界会議を中国・北京で開催
- ⑯IOC ジャック・ロゲ会長がIOCのスポーツ界における環境保全活動を認められ国連環境計画から「地球のチャンピオン」として表彰を受けた
- ⑰IPCC（気候変動に関する国際パネル）の第4次報告と映画「不都合な真実」がノーベル平和賞を受賞
- ⑱IOCはUNEPが進める「10億本の植樹キャンペーン」の支持を表明

## 5. 協力依頼

(1)まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。

(2)「持続可能な開発」と「持続可能性」

- ②『持続可能な開発』は92年リオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
- ③『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3)循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約25日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4)ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらは又資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排

出物はゼロになるのです。

- ④ゼロ・エミッションのキーワードは「混ぜればゴミ・分ければ資源」です
- (5)高度な文明によりエネルギー・資源を多く消費し快適な生活を実現している半面、二酸化炭素を多く排出し温暖化など環境問題が起きています
  - ①エネルギー資源を節減する為に3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
    - a. 削減 (Reduce)。まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
    - b. 再使用 (Reuse)。同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
    - c. リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとによりサイクルし他の物資にして使用することです (例：ペットボトル→繊維)
- (6)エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる
  - ①冬には暖かい下着を着用し、またもう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。(ウォームビズ)
  - ②夏は出来るだけ涼しい服装をし、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。(クールビズ)

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

## 6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

### (1)会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する
- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する

### (2)施設

- ①設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事
- ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする
- ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める

### (3)運営

- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
- ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする

#### (4)役員

- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
- ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する

#### (5)選手・コーチ

- ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす
- ②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする

#### (6)オフィスワーク

- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する
- ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行なう。

#### (7)観客

- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
- ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい

#### (8)用具

- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する
- ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの
- ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの
- ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品（混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない）
- ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する
- ⑥有害物質は全く使わない（塩化ビニール・フロンなど）

#### (9)メディア

- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。
- ②メディア活動においても省資源・省エネを促進する

### 7. 低炭素社会（ローカーボン・ソサエティー）の構築

地球温暖化が気候変動を顕在化させる中、2007年に IPCC（気候変動に関する国際パネル）と温暖化を明快に解説し警鐘を鳴らす映画「不都合な真実」を制作したアル・ゴア米前副大統領にノーベル平和賞が授与された。

高度文明で排出される二酸化炭素ガスや CO<sub>2</sub> の23倍の温室効果があるメタンガスなどが温室効果ガスとして温暖化を引き起こしている。

二酸化炭素ガスを吸収し酸素を放出する炭酸同化作用（光合成）を用いて炭酸ガスを減少させ酸素を多くするため植樹を促進しつつある。

各種活動で排出される温暖化ガスを植樹する事で相殺することをカーボンオフセットと言い、その植樹の費用を対価として支払う事も可能とされる。

エネルギーと資源の削減などと植樹で大気中の温暖化ガスを減少させることで低炭素社会の構築を目指す事が求められている。その結果として地球温暖化の進行を遅くし、地球の持続可能性を向上できると考えられている。

**8. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。**

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

**9. 関係者のパートナーシップと環境保全道具箱の理解と実践**

スポーツ界で環境保全活動を進めるために二つの有効な提言がなされています。

(1)関係者のパートナーシップ

スポーツ界ではオリンピック大会運営からグラスルーツのスポーツ活動に至るまでスポーツの現場で活動にかかわる関係者（Stakeholders）が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs（国際スポーツ競技連盟）、NFs（国内競技連盟）、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切です。

(2)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET（Sustainable Sports and Event Toolkit）「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションの8つです。スポーツの現場、イベントの現場でこの要素を一つずつ検証して明確な考えを入れ込んで有効な活動にすることが大切なのです。

**10. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。**

# 5 IOCスポーツと環境委員会について

## IOC Sport and Environment Commission

### 工夫と実行力を問われる時

バンクーバー冬季オリンピックは多大な成果を上げて成功裏に終了しました。同時に各種課題も出ましたが、特に環境面では気候変動により雪不足が大きな影響を与えました。市内からウィスラー会場への途中にあるモーグルやハーフパイプのサイプレスマウンテン会場は雪が無く、多くのトラックやヘリコプターで大量の雪を運びCO<sub>2</sub>排出削減を目指した今回の環境計画は目標通りには行かなかったようです。

一方、わが国の日本海側地域や北米大陸東海岸は異常とも言える寒さと大量の積雪がありました。これは温暖化により極地も暖められ、上昇気流により寒気が手袋のように広がるのが原因と言われています。寒気に覆われたところは異常に寒く積雪が多くなるのです。その反面、このような気候変動の原因は我々が究明していない自然界の大きな力に因るものとの反論もあります。

何れにせよ、地球温暖化による気候変動は社会、経済に大きな影響を与えています。そして前回のバンクーバーにおけるIOCスポーツと環境世界会議では「理論より実践を」とのキーワードの下、今や原因についての議論を深めるよりも、まずは我々として可能な温暖化防止対策を実行する事が急務であると結論付けられました。

スポーツ界でグラスルーツのスポーツ活動からオリンピック大会まで全てのスポーツの現場で活動にかかわる関係者が環境保全に対して明確な方針の下、協力する所謂パートナーシップが求められています。例えばオリンピック大会を考えると、関係者はIOC、NOCs、IFs（国際スポーツ競技連盟）、NFs（国内競技連盟）、競技者、役員、組織委員会、政府、地方自治体、観客、メディア、スポンサー、公式サプライヤー、運送業者、施設建設業者、施設管理者などで、これら関係者が組織委員会の環境方針を理解してパートナーシップによる協働体制で保全活動を実践することが大切なのです。

又、この活動をより効果の高いものにするために、多くの過去の経験をもとに発想し、有効な対策は次代に伝承すること、また関係者、特にスポンサーやサプライヤーは革新の開発者になること、そして環境問題を理解する社会を構築することが求められています。

バンクーバー冬季オリンピック組織委員会の環境担当はIOCの支援を受けてスイスのAISTSという研究機関と共同でSSET（Sustainable Sports and Event Toolkit）「持続可能なスポーツとイベントの工具箱」を開発しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるように必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションです。

JOCでもIOCの活動を良く検証し、SSETを実行しつつ新しい工夫や改良を加え世界のスポーツ界がより有効な対策が進められるように協力を要請いたします。



IOC スポーツと環境委員会  
委員 水野 正人



## (1)IOCスポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

### ●バンクーバー冬季オリンピック大会における環境保全活動

2010年2月12日から28日まで開催されたバンクーバー冬季オリンピック大会は大会組織委員会の担当部署が全力を尽くして環境活動を実践しました。

バンクーバー組織委員会とスイスのAISTSがSSET (Sustainable Sports and Event Toolkit)「持続可能なスポーツとイベントの道具箱」を考案しました。これはイベントなどで包括的に対策を実践できるよう、必要な要素を網羅しています。それらは1. 持続性への信念と戦略立案 2. 遣り繰り・管理 3. 会場立地と建設手法 4. 会場とオフィスの管理 5. 地域社会と商流 6. 輸送と宿泊 7. 食堂、食事・飲物 8. マーケティングとコミュニケーションです。

バンクーバー冬季オリンピックでは基本的に6つの指針の下に各種活動を進めました。

#### 方針1. 説明責任

倫理的な対応、成果の見える目標と対策の計画、施策の説明、改善についての意見聴取など説明責任の門戸を開く

#### 方針2. 環境管理と悪影響の削減

負の影響軽減のための相殺（埋め合わせ）と自然環境保全と管理

#### 方針3. 住民の参加と責任

社会的、経済的に不利な立場にいる人々、雇用者への配慮、人権保護、健康・安全管理に関して接し易い大会開催

#### 方針4. 先住民参加と協働

大会計画と開催について、また大会レガシーを創る前例のない先住民参加の実現を目指す

#### 方針5. 経済効果の高揚

持続性への革新、卓越した経営感覚による実践を表明する活動

#### 方針6. 持続可能な生活のためのスポーツ

スポーツを通じ、よりエコな生活で選手と市民の関心を伸ばす事と地域と世界の持続可能性への挑戦への活動を奮起させる為の手法を開発する

各種要素ごとに環境保全実施対策を実施しましたが、その中で象徴的なものは空港のそばに建設された400メートル・スピードスケートリンクのリッチモンド・オーバルです。この建物の天井部分は本来廃材となるはずの木材を張り合わせて、強い合板を使用した環境に配慮した会場です。また冬のシーズン以外はこの施設は独立した体育館として三つに分割利用が可能になっています。冷暖房に関してもベンチレーションなどを取り入れ、効

#### What is SSET ?

A toolkit that is practical “how to guide” for organizers of all the organization to host events making their sport and events more sustainable.

- 1.持続性への信念と戦略立案
- 2.遣り繰り・管理
- 3.会場立地と建設手法
- 4.会場とオフィスの管理
- 5.地域社会と商流
- 6.輸送と宿泊
- 7.食堂、食事・飲物
- 8.マーケティング・コミュニケーション

率的にエネルギーが節約できるように配慮されています。ただ、大幅なCO<sub>2</sub>排出削減を目指したが雪不足で大量の雪を運搬した事により達成できなかったであろう事と、新しく開発した製氷機が上手く作動せず古い製氷機を使わざるを得なかった事など残念な事も発生しました。

#### ●2012年ロンドン夏季大会の環境保全活動計画

オリンピック・スタジアム建設はスケジュール通り進んでいます。ほとんどの新しく建てる施設は埋め込み式で、よって地上に大きな建設物として突出しないように設計されています。オリンピック運営機構の持続性開発戦略は社会的、経済的そして環境面で大会のレガシーとして強く残す事を目標とする。幾つかの仮設施設の場合は、再利用可能な建設材が使用されています。

1. 気候変動：オリンピック・パークや会場施設で温暖化ガスの削減に対応している。
2. 廃棄物管理：施設の建設に向けて取り壊し、修理、建設の各段階で廃棄物削減推進。（取り壊した資材は90%を超える目標で再利用かリサイクルされる）
3. 生物多様性：オリンピック・パークの敷地のほとんどはひどく汚染をされていた工業地帯であり汚染除去が必要である。貴重な自然資源を保全強化に野生生物を一時的に移動させ、また後には元に戻すためにその土地や水辺が改善される。
4. 一体性：オリンピック・パーク周辺、ロンドン全体そして英国の地域社会が関与、貢献、そして大会から多くの利点を体感できるよう確実にする。（例えば建設事業について広くロンドン5区から雇用するようにしている）
5. 健康な生活：高質な開放エリアが欠如していた東ロンドンのオリンピック・パークの地区に高質のスポーツ施設は健康的な生活スタイルを奨励する事に貢献する。

ロンドン2012組織委員会の環境活動は、持続可能性計画に示された詳細な公約が守られるべく軌道に乗って進んでいる。

#### ●ソチ2014冬季オリンピック環境保全計画

ソチオリンピック組織委員会とロシア政府は環境保全は重点を置いて配慮しています。自然資源・環境省、ロシア政府、ロシア科学アカデミー、政府組織および非政府組織のメンバーで構成されるワーキング・グループは、アルパイン・リゾートとして開発とオリンピック施設建設の環境保全概念における問題を解決するべく設立されました。

ソチ2014組織委員会は西コーカサスが世界スケール遺産としての条件が議論される第32回ユネスコ世界遺産委員会に出席しました。IOC調整委員会の訪問時には国連環境開発とユネスコから競技会場場所の変更が勧告され、如何に実施するかについて議論されました。そしてロシア国際五輪大学と組織委員会がこれを実現に移す努力をしている事が強調され、持続可能性管理システム、緑地保全要求、2009年4月にソチ・UNEP合意書への署名、カーボン排出均衡、大会時の燃料電池使用、包括的生態系監査プログラムなど多くの活動を実施しています。

## (2)IOCスポーツと環境・地域セミナー

*IOC Regional Seminar on Sport and Environment*

### ■ 会議概要

開催期間：2009年7月23日～24日の2日間

開催地：サモア

出席者：クック諸島、フィジー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア、ナウル、ニュージーランド、パラウ、パプアニューギニア、ソロモン諸島、サモア、アメリカン・サモア、トンガ、ヴァヌアツ)のオリンピック委員会の代表、サモアの首相テュイラペア・サイレレ・マリエレカオイ氏、サモアオリンピック委員会ヴィ・タパス・レウイング・ワイ会長、ケン・テュプア ONOC 役員、サイモン・ボルダーストーン IOC 環境アドバイザー、水野正人 IOC スポーツと環境委員会のメンバー、グレッグシャーリー氏、UNEP のタスクマネージャ、IOC のエリザベス・スタイターマシュー氏

### 決 議

14の国（クック諸島、フィジー、キリバス、マーシャル諸島、ミクロネシア、ナウル、ニュージーランド、パラウ、パプアニューギニア、ソロモン諸島、サモア、アメリカン・サモア、トンガ、ヴァヌアツ）のオリンピック委員会の代表、サモアの首相テュイラペア・サイレレ・マリエレカオイ氏、サモアオリンピック委員会ヴィ・タパス・レウイング・ワイ会長、ケン・テュプア ONOC 役員、サイモン・ボルダーストーン IOC 環境アドバイザー、水野正人 IOC スポーツと環境委員会のメンバー、グレッグシャーリー氏、UNEP のタスクマネージャ、IOC のエリザベス・スタイターマシュー氏出席。

参加者は、スポーツ・文化に加え環境をオリンピック運動の三本目の柱として、環境保護と持続性上の重要性で「環境」を再確認した。そして、オリンピック・ムーブメント・アジェンダ21がこの重要性の基礎を作るものと認識した。

セミナー参加者は約束する。

- ・海面上昇や資源管理と省エネルギーなど、それぞれの国のニーズを考慮して、バンクーバー宣言と勧告を研究する。
- ・決議を参考に、各 NOC のガイドラインの持続可能なスポーツとイベントツール、IOC のスポーツと環境のマニュアル、IOC のスポーツと環境の持続開発可能なガイドラインや IOC エクストラネット機能を含む他の関連した出版物や情報を下に、各 NOC はスポーツと環境の実践活動プランを作成する。
- ・成功活動事例を含む活動を促して、促進と支持が更なるサポートする必要性を認識する。
- ・活動計画を作成、実行、促進する際に特に若者、アスリートとメディアに広める。
- ・また、それぞれの NOC で、広範囲の交流の代表を巻き込んでスポーツと環境委員会を設立する。

- ・また、ONOCにも スポーツと環境委員会の設立を検討し、そして、地域全体でその委員会とともに活動する。
- ・したがって、－日常生活に関係する教会や多くの組織、教育機関と他の組織を含む－実質的な所で、コミュニティを越えてパートナーを巻き込んで－開発・実践活動、環境意識を増やす。
- ・適切にスポーツと環境プログラムを用い、慣例に習った知識を使い伝統的なリーダーがコミュニティの参加を示唆、促進することが重要性であることを認識する。
- ・それぞれの国、特に競技団体においてスポーツと環境プロジェクトを実行するために、オリンピック・ソリダリティ・スポーツと環境プログラムを利用する。
- ・原資確保のために申請書を提出するのにIOC 担当者に、手助けを求める。
- ・国との類似点と違いの重要性を理解し、情報と経験を地域の他のNOCと交換し続けるためにセミナーで互いから得られた使用情報他の地域のNOCと交換を継続する。
- ・IOCと国際・国の競技団体と協力して、認識を増やして、コミュニティ、特に若者とスポーツコミュニティで環境保護と持続性に及ぼす働きを推進する役割を担うモデルやアンバサダーとしてアスリートを活用する。
- ・IOC スポーツと環境賞のためにそれぞれの国で価値のある候補を推薦してIOCに提出する。
- ・2011年に計画されているIOC スポーツと環境の世界会議をサポートする。
- ・全国的、国際的に環境問題の認識を啓発するために、スポーツイベントやチームを利用し、オリンピック憲章に従って、持続可能な方法でスポーツイベントとNOC事業を行うよう努める。
- ・参加者はセミナーのホスト、サモアオリンピック委員会、ヴィ・タパス・レウイング・ワイ会長、サモア国、首都アピアに感謝の意を表明した。

# 6 関連資料

## References

### (1) スポーツ環境専門委員一覧

Member of Sport and Environment Commission

### JOC スポーツ環境専門委員会

JOC Sport and Environment Commission

平成22年3月現在

役職名	氏名	所属団体
委員長 Chairman	板橋 一太 Ichita ITABASHI	(財)日本オリンピック委員会 Japanese Olympic Committee
副委員長 Vice-Chairman	田嶋 幸三 Kozo TASHIMA	(財)日本サッカー協会 Japan Football Association
副委員長 Vice-Chairman	佐野 和夫 Kazuo SANŌ	(財)日本水泳連盟 Japan Swimming Federation
委員 Member	浅草 和敏 Kazutoshi ASAKUSA	(財)日本バレーボール協会 Japan Volleyball Association
〃	荻原 健司 Kenji OGIWARA	(財)全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	風間 明 Akira KAZAMA	(財)日本陸上競技連盟 Japan Association of Athletics Federations
〃	鎌賀 秀夫 Hideo KAMAGA	(財)日本レスリング協会 Japan Wrestling Federation
〃	橋爪 功 Isao HASHIZUME	(財)日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	平松 純子 Junko HIRAMATSU	(財)日本スケート連盟 Japan Skating Federation
〃	松岡 修造 Shuzo MATSUOKA	(財)日本テニス協会 Japan Tennis Association
〃	村里 敏彰 Toshiaki MURASATO	(財)全日本スキー連盟 Ski Association of Japan
〃	森末 慎二 Shinji MORISUE	(財)日本体操協会 Japan Gymnastic Association
〃	山口 香 Kaori YAMAGUCHI	(財)全日本柔道連盟 All Japan Judo Federation
アドバイザー Adviser	水野 正人 Masato MIZUNO	(財)日本オリンピック委員会 / IOCスポーツと環境委員会委員 Japanese Olympic Committee / IOC Sport and Environment Commission, Member

## ■ IOC スポーツと環境委員会

### *IOC Sport and Environment Commission*

Chairman	Pál SCHMITT		
Members	Saud bin Abdulrahman AL-THANI	Roland BAAR	
	Michel BARNIER	Andrès BOTERO PHILLIPSBOURNE	
	Tore BREVIK	Enrico CARBONE	
	Joseph FENDT	Habu GUMEL	
	Johnson JASSON	Hamad KALKABA MALBOUM	
	George KAZANTZOPOULOS	Barbara KENDALL	
	Masato MIZUNO	Mamadou Diagna NDIAYE	
	Théodore OBEN	Sunil SABHARWAL	
	Gideon SAM	Luzeng SONG	
	Shamil TARPISCHEV	Efraim ZINGER	
	Représentant du COVAN/VANOC Representative	Représentant du LOCOG/LOCOG Representative	
	Représentant du SOTCHI/SOCHI Representative	Représentant de RIO 2016/RIO 2016 Representative	
	Director in Charge	(Director of International Cooperation and Development)	

## ■ OCA スポーツと環境委員会

### *OCA Sport and Environment Committee*

Chairman	Mr Kyung-Sun Yu	Korea
Members	Mr Mohamed Mahid Shareef	Maldives
	Mr Murat Saralinov	Kyrgyzstan
	Mr Ferras Moualla	Syria
	Mr U Khin Maung Lwin	Myanmar
	Mr Arie Pratignjo Ariotedjo	Indonesia
	Mr Kutubuddin Ahmed	Bangladesh
	Mr Jamal Ahmad	Palestine
	Dr Rashed Hamed Al Heraiwel	Saudi Arabia
	Prof Meas Sarin	Cambodia
	Commander Hithanadura Udayasena Silva	Sri Lanka

## (2) IOCスポーツと環境委員会小史

### *Brief history of the IOC Sport and Environment Commission*

- 1972年 札幌オリンピック冬季大会、恵庭ダウンヒルコース、競技終了後植林
- 1976年 デンバーオリンピック冬季大会開催返上(経済・環境問題)  
1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた  
1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた(スポーツ・文化・環境)
- 1992年 バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
- 1994年 第12回オリンピック・コンGRESS (IOC創立100周年)でスポーツと環境分科会開催・パリ
- 1995年 IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット  
第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
- 1996年 委員に就任 岡野俊一郎(1996-2001)、水野正人(1996-現在)
- 1997年 第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
- 1999年 第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ  
オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
- 2001年 第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市  
"GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE"
- 2002年 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京
- 2003年 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ  
"PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT"
- 2004年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
- 2005年 極東及び東アジア、第2回IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ドバイ  
第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ  
"SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT"
- 2006年 IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・クワラルンプール  
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・キングストン
- 2007年 第7回IOCスポーツと環境世界会議開催・北京  
"FROM PLAN TO ACTION"
- 2008年 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・インチョン  
IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・コロンビア
- 2009年 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー  
"INNOVATION AND INSPIRATION : HARNESSING THE POWER OF SPORT FOR CHANGE"  
第1回IOCスポーツと環境賞制定  
IOCスポーツと環境・地域セミナー・サモア

### (3) JOCスポーツ環境委員会小史

#### Brief history of the JOC sport and Environment Commission

平成13年度(2001年)	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人 委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”(この星にスポーツを！)
平成14年度(2002年)	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
平成15年度(2003年)	セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7月にISO14001認証登録、IOC加盟202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ 佐野和夫スポーツ環境委員からJOCの活動を報告 “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
平成16年度(2004年)	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター (本会関係者、加盟団体、パートナー)
平成17年度(2005年)	ジョイントポスター・パンフレット(第2版)作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪市 第2回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告
平成18年度(2006年)	イラストポスター・横(5th)作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証を更新登録 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール 遠藤スポーツ環境専門委員からJOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第3回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
平成19年度(2007年)	イラストポスター・縦(6th)作成 平成18年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第3回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・東京都 第4回スポーツと環境担当者会議開催・国立スポーツ科学センター 第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京 佐野スポーツ環境専門委員会副委員長からJOCの活動を報告 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・インチョン 鎌賀スポーツ環境専門委員・JOC及びNFの活動を報告
平成20年度(2008年)	ポスター(7th)作成 平成19年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 IOCスポーツと環境競技別ガイドブック翻訳本作成・同マニュアル・CD-ROM 第4回JOCスポーツと環境・地域セミナー・広島市 第5回スポーツと環境担当者会議・ナショナルトレーニングセンター 第1回OCAコンGRESS・クウェート 板橋一太スポーツ環境専門委員長からJOCの活動を報告 第8回IOCスポーツと環境世界会議・バンクーバー 板橋一太スポーツ環境専門委員長出席
平成21年度(2009年)	ポスター(8th)作成 平成20年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第5回JOCスポーツと環境・地域セミナー・福岡市 第6回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター
平成22年度(2010年)	ポスター(9th)作成 平成21年度スポーツ環境専門委員会活動報告書作成 第6回JOCスポーツと環境・地域セミナー・横浜市(予定) 第7回スポーツと環境担当者会議・味の素ナショナルトレーニングセンター(予定)



## (4) オリンピックムーブメント アジェンダ21(要約)

### *Olympic Movement's Agenda 21*

#### 1. 一般原則

##### 1.1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

##### 1.2 UNCED アジェンダ21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ21に基づいた独自のアジェンダ21を作成するよう求めている。

#### 2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ21の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOG など) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

#### 3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

##### 3.1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

##### 3.1.1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

##### 3.1.2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルでは IOC と NOC とが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

##### 3.1.3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

##### 3.1.4 消費者習慣の変化

無公害あるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

##### 3.1.5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

### 3.1.6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融け込むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

### 3.1.7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

## 3.2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

### 3.2.1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

### 3.2.2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

### 3.2.3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

### 3.2.4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関する ISO の認証を取得すべきである。

### 3.2.5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

### 3.2.6 エネルギー

- 過剰なエネルギー消費を抑える。
- 再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- 再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

### 3.2.7 主要スポーツイベントでの宿泊設備および食事サービス

- アジェンダ21の3.1.6節に従った構造を推奨する。
- 衛生条件を厳守する。
- 地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- 使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。

- ・再利用できない廃棄物を処理する。

### 3.2.8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。
- ・地下水または地下水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

### 3.2.9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改善、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

### 3.2.10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

## 3.3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

### 3.3.1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

### 3.3.2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。

- 競技団体内で若者が自分たちに関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- 若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- 子どもの人権に関する国連条約（決議44/25）の承認を宣言し施行する。
- 専門の国際団体と共同で活動する。

### 3.3.3 原住民族の認知および推進

- 原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- 特に原住民発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

## オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ21の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ21の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

### スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ21は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ21の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ21の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれを支援していかなければならない。
7. アジェンダ21は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ21の推進・改訂についての責任はIOCにある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行うスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOCスポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ21の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ21の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。

## (5) 第8回IOCスポーツと環境世界会議 決議

### 8th IOC World Conference on Sport and Environment

第8回スポーツと環境世界会議は、各国内オリンピック委員会、各国際競技連盟、オリンピック組織委員会（北京、バンクーバー、ロンドン、ソチ）、開催立候補都市、国際オリンピック委員会代表者、国際パラリンピック委員会、オリンピック／パラリンピアン、国連環境計画（UNEP）、オリンピックムーブメントパートナー、スポーツおよびレクリエーションイベント主催者、環境団体、調査研究所、その他オリンピックムーブメントのメンバーの出席のもと開催された。

オリンピック冬季競技大会（2010／バンクーバー）およびパラリンピック冬季大会の開催まで1年を切った今、大会を主催する北米先住4民族（Four Host First Nations）の伝統的領土であるこの地バンクーバーにおいて、本会議が開催されることの意義を認識し、関係者の参加と出席に感謝の意を表す。

本会議の意義を高めた、重要な2テーマがあり、次の通りである。

- i. 現在の世界規模の経済危機は全ての人々に影響を及ぼしている。経済危機によりさらなる課題が生まれてはいるが、「環境と持続可能性の問題は引き続き最優先事項であり続けなければならない」という、またとない機会をもたらしている。経済と環境は、環境に配慮した持続可能性の向上のため、共に対処されるべきである。
- ii. スポーツ界において若者の参加が重要なことは、万人が認めるところである。IOCがこれを重要視していることは、強力な環境的内容を含む、教育要素にも重点を置くユースオリンピックが、2010年にシンガポールで初開催されることによっても明らかである。環境問題で未来の世代を人生の早い時期に、持続可能な開発の最高の実践に触れさせ適切な教育を行うことは、将来に亘って影響を与えることになる。

本会議は、上記のテーマを念頭に置き、スポーツを通して持続可能性を高めるために参加者が協力して行う努力を「増幅」させるイノベーション&インスピレーション（革新と感化）の重要な側面に焦点を当てた。

スポーツ、文化に加え、環境がオリンピック・ムーブメントの3本柱として提唱されて14年を経過して、本会議は、この間の努力や成果や多くのサクセスストーリーを振り返る機会を提供した。これが参加者や支持者を増加させるに十分なインスピレーションを提供している。

目に見える成果を挙げるには、創造とイノベーション（革新）が重要な要素であることが認識された。本会議の参加者は、次ように結論し、提言する。

1. 持続可能な開発におけるスポーツ界の継続的な関与を確実にするという点において、NOCの果たす役割がますます大きくなる。
  - ・NOCは、それぞれの状況に則し、異なる課題に取り組む必要がある。しかし同時に、NOCがさらなるオリンピック・ムーブメントの持続可能性行動計画に向けた活動において、重要なパイプ役であることを認識することが不可欠である。
  - ・NOCは、オリンピック組織委員会のプログラム、実務、レガシー（遺産）のみならず、開催候補都市の提案や目的に対する理解をさらに深めて行くことが望まれる。NOCが地域社会から支持される具体的な事業をもって国内外のパートナーに働き

- かけ、また契約上の取極めには持続可能な活動に向けた規定を含むようにすることが推奨される。
- ・ NOC は、具体的な環境活動を実施するために地方自治体とパートナーシップを構築することが奨励される。
2. IF（国際競技連盟）は、世界中のスポーツ組織において、持続可能性を前進させるために重要である。
- ・ 各 IF は、スポーツを通じた持続可能性の原則を発展させその原則を各国の国内競技連盟に普及させること、そのための政策を立て、関連する計画を支援することが奨励される。
3. OCOG（オリンピック組織委員会）は、スポーツ施設およびイベントの企画立案、実現、跡利用（遺産）におけるイノベーション（革新）の重要な発信源となる。
- ・ スポーツ界は、オリンピック組織委員会および開催候補都市により提供された実例を研究し、それぞれの事業において適切な規模で応用する可能性を探るべきである。
  - ・ オリンピック組織委員会は、最高水準の持続可能性と跡利用（遺産）を行うオリンピック競技大会を創造、推進するために、最新の革新的手法と技術を活用する能力を持っている。
  - ・ これらのベストプラクティス（最高レベルの実践）を共有し伝えていくことは、オリンピック／パラリンピックの持続可能性を引き続き進展させるために必須である。
  - ・ オリンピック競技大会は、環境への認識を高めるために他に類を見ない機会を提供するとともに、地域社会における環境問題への新たな手法の開発と、『環境規範』の実施を促す。そしてこれらによって、より上質の新たな地域水準が達成されることになる。
4. オリンピックムーブメントの企業スポンサーは、スポーツ・地域社会・スポンサーの間で相互に利益をもたらすスポーツイベントを生み出す上で引続き重要な役目を果たす。
- ・ 本会議は、オリンピックムーブメントのスポンサーに、持続可能な実践活動や技術をオリンピック関係者と共有し、可能な資源（資産）を教育目的に導入（投下）し、若者の環境（保護・知識）に対する意識度と関与と能力を向上させることを奨励する。

地域社会に基礎を置く組織は、地元の参加、革新と感化、また最高レベルの実践活動の普及を促進する核となることから、スポーツおよび環境活動において必要不可欠な要素である。

アスリートは、重要なお手本となる。持続可能性のアジェンダ（行動計画）の推進へのアスリートの協力は、人々、特に若者の行動に影響を与え、感化する潜在的力を持っているからである。

本会議に参加したスポーツ選手の言葉をもって、本会議を終了する。

「最も革新的な精神を持つものは若者である。環境と最も調和できるのも若者である。」

バンクーバー、ブリティッシュコロンビア、カナダ

2009.3.31

## 編集後記

平成21年度 JOC スポーツ環境専門委員会活動報告書の発行にあたり、皆様の啓発・実践活動へのご協力、ご尽力に感謝申し上げます。

年々、競技団体からの報告の数も増えると同時に、活動内容にもそれぞれの工夫が見られ、スポーツと環境との係りを十分理解すると共に、環境問題に対して危機感を感じていることが活動報告書からも読み取れます。しかしながら、環境問題に取り組む体制が整備されていない団体も見受けられることも事実です。そのような団体は、是非この報告書を活用して頂いて、今後の取り組みに役立て下さい。

今後とも次代を担う子供たちが、健やかに楽しくスポーツを行うことが出来るよう、環境の保全、啓発・実践活動へのご尽力をお願いします。

報告書編集担当

## 平成21年度 スポーツ環境専門委員会 活動報告書

---

発行日：平成22年6月17日

編集・発行：財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会  
〒150-8050

渋谷区神南1-1-1 岸記念体育会館内

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/>

印刷：広研印刷株式会社

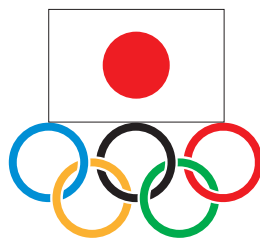
写真提供：アフロスポーツ

フォト・キシモト 他

---

問い合わせ：財団法人 日本オリンピック委員会 事業・広報部

TEL：03-3481-2238 FAX：03-3481-2292



財団法人日本オリンピック委員会  
スポーツ環境専門委員会